HIC-SD411X3PTZ

取扱説明書

HYTEC INTER Co., Ltd.

第 1.2 版

管理番号：TEC-25MA0292-01.2

ご注意

- 本書の中に含まれる情報は、当社（ハイテクインター株式会社）の所有するものであり、当社の同意なしに、全体または一部を複写または転載することは禁止されています。
- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一、ご不審な点や誤り、記載漏れなどのお気づきの点がありましたらご連絡ください。

改版履歴

第 1.0 版	2025 年　8 月　1 日	新規作成
第 1.1 版	2026 年　6 月　3 日	YouTube 配信設定見直し
第 1.2 版	2026 年 11 月　2 日	製品仕様 見直し

ご使用上の注意事項

- 本製品及び付属品をご使用の際は、取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- 本製品は、一般事務用、通常の産業等の一般的用途を想定した製品であり、ハイセイフティ用途*での設備や機器としての使用またはこれらに組込んでの使用は意図されておりません。これらの設備や機器、システムなどに本製品を使用され、本製品の故障等により、人身事故、火災事故、社会的な損害が生じても当社はいかなる責任も負いかねます。お客様が、本製品をハイセイフティ用途に使用される場合は、必要な安全性を確保する措置を施す等十分な配慮をお願いします。

  * ：極めて高度な信頼性や安全性が要求され、機器の故障、誤動作により、信頼性や安全性が確保されない場合、生命、身体や財産等に損害を及ぼす恐れがある用途

- 本製品及び付属品を分解したり改造したりすることは絶対に行わないでください。

- 本製品及び付属品の故障、誤動作、不具合、あるいは天災、停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

- 本製品及び付属品は、改良のため予告なしに仕様が変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。

- 本製品を掃除する時は、柔らかい乾いた布で汚れをふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤をご使用ください。

- 太陽光などの非常に明るい被写体にカメラを向けるのは避けてください。イメージセンサが損傷する可能性があります。

- 本製品を使用する場合、Microsoft、Apple、Googleの関連コンテンツが含まれます。本ユーザマニュアルの写真とスクリーンショットは、当社製品の使用方法を説明するためだけに使用しています。Microsoft、Apple、Googleに関連する商標、ロゴおよびその他知的財産の所有権は、上記の企業に帰属するものとします。

- 本取扱説明書では、当社製品の操作等の説明のために他社製品（オープンソフトウェア含）を使用した例を記載していますが、当社が、特定他社製品（オープンソフトウェア含）の使用を推

奨するものではありません。また、当社は、他社製品（オープンソフトウェア含）に関しての問合せ対応は致しません。他社製品（オープンソフトウェア含）に起因するお客様または第三者での損害・機器への損傷については、当社は一切の責任を負いません。

- 本ユーザマニュアルで使用されている例と画像はHIC-SD411X3PTZを元に作成しています。

免責事項

- インターネットにアクセスできる製品に関しては、製品の使用は完全にお客様自身の責任で行われるものとします。当社は、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウイルス検査、その他のインターネットセキュリティリスクにより生じた異常動作、プライバシー漏えいその他の損害について、一切責任を負わないものとしますが、必要に応じてタイムリーな技術サポートを提供します。
- 監視法は国によって異なります。監視目的で本製品を使用する前に、お住まいの地域のすべての法律を確認してください。私たちは、違法な操作によって生じるいかなる結果についても責任を負いません。

サイバーセキュリティに関する推奨事項

- 強力なパスワードを使用します。パスワードには、少なくとも 8 文字、または文字、数字、 大文字と小 文字の組み合わせを使用する必要があります。
- デバイスのパスワードを定期的に変更して、承認されたユーザのみが system にアクセスできるようにします (推奨時間は 90 日です)。
- サービスのデフォルトポート(HTTP-80、HTTPS-443など)を変更して、部外者がアクセスできるリスクを軽減することをお勧めします。
- ルータのファイアウォールを設定することをお勧めします。しかし、いくつかの重要ポート(HTTPポート、HTTPSポート、データポートなど)は閉じることができません。
- デバイスを直接公衆ネットワークに接続することはお勧めしません。公衆ネットワークに接続する必要がある場合は、ルータを介しそれに対応するファイアウォールポリシーを設定してください。
- SNMP の v1 および v2 機能を使用することは推奨されません。
- WEBクライアントアクセスのセキュリティを強化するために、HTTPSを有効にするTLS証明書を作成してください。
- ブラックリストとホワイトリストを使用してIPアドレスをフィルタリングします。これにより、指定された IP アドレスを除くすべての人がシステムにアクセスできなくなります。
- 複数のユーザを追加する場合は、ゲストアカウントの機能を制限してください。
- UPnP を有効にすると、ルータまたはモデムのポートの転送が自動的に試行されます。ユーザにとっては便利な機能ですが、システムが自動的にポートを転送するためデータ漏洩のリスクが高まります。UPnP機能を必要としない場合は、無効に設定することをお勧めします。
- ログを確認してください。権限のないユーザによってデバイスがアクセスされたかどうかを知りたい場合は、ログで確認できます。システムログには、システムのログインに使用された IP アドレスとアクセスされた IP アドレスが表示されます。

規制情報

電波障害自主規制について

この装置は，クラスＡ情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。　VCCI－A

RoHS



製品は、電気および電子機器における特定の有害物質の使用の制限に関する指令 EU RoHS 指令 2011/65/EU および修正指令 EU 2015/863 に従って設計され、製造されています。

2012/19/EU(WEEE 指令):廃電・電子機器に関する指令(WEEE 指令)。WEEE の環境管理を改善するためには、寿命の末に電子機器の回収、処理、リサイクルの改善が不可欠です。したがって、この記号でマークされた製品は、責任ある方法で廃棄する必要があります。

指令 94/62/EC:この指令は、包装および包装廃棄物および環境保護の管理を目的としています。本書に記載されている製品の包装・包装廃棄物は、適切なリサイクルと環境保護のために、指定された収集ポイントで廃棄する必要があります。

REACH(EC1907/2006): REACH は化学物質の固有特性をより適切かつ早期に同定することで、人の健康と環境の高いレベルの保護を確保することを目的とした化学物質の登録、評価、認可、制限に関するものです。本書の製品は、REACH の規則および規則に準拠しています。**REACH** の詳細については、**DG GROWTH** または **ECHA** のウェブサイトをご覧ください。

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために

ご使用の前にこの「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
お読みになった後はいつでも見られる所に保管してください。
尚、本書のメニュー画面は HIC-SD411X3PTZ の画面を採用し ファームウェアバージョンは、5.1.1.0（64047）で作成しています。

絵表示について
この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。
お買い上げになった機器に当てはまらない注意事項もありますが、ご了承ください。

 **警告**	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意**	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△記号は注意（危険･警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。 図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

	○記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

使用上の注意　　**⚠警告**



●本機に乗らない！
倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。



●本機の上に重いものを置かない！
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因になることがあります。



●移動させる場合は、必ず電源スイッチを切り、プラグを抜き、機器間の接続ケーブルをはずす！
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



●長期間使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く！
火災の原因となることがあります。



●専用 AC アダプタ以外は使用しない！
定格外の AC アダプタを使用すると、火災・感電の原因になることがあります。



●電源コードを傷つけない！ 加工しない！ 無理に曲げない！ ねじらない！ 引っ張らない！ 加熱しない！
コードが破損して火災・感電の原因となります。



●雷が鳴り出したら、同軸コネクタ/ケーブルや電源プラグに触れない！
感電の原因になります。



●指定された消費電力（W）を越える装置は接続しない！
火災の原因となります。本機の AC アウトレットが供給できる電力（W）は AC アウトレット付近または取扱説明書に表示してあります。



●レンズで太陽・照明などをのぞかない！
強い光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。



●本機のケース・裏パネル等をはずさない!
内部には高圧の部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店または営業マンにご依頼ください。



●本機の上に水などの入った容器を置かない!
こぼれて中に入ると、火災・感電の原因になります。



●風呂、シャワー室などの水場では使用しない！
火災・感電の原因となります。



●本機の上に小さな金属物を置かない!
中に入ると、火災・感電の原因となります。



●表示された電源電圧以外は使用しない!
火災・感電の原因となります。



●本機に水を入れたり、濡らしたりしない！
火災・感電の原因になります。
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。



●本機の開口部から金属物や燃えやすいものなどの異物を差し込まない！落とし込まない！
火災・感電の原因となります。



●本機を改造しない！
火災・感電の原因となります。

設置について



警告



●不安定な場所に置かない！
落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。



●電源コードの上に重いものを置かない！ 本機の下敷きにしない！
コードが傷ついて、火災・感電の原因になります。コードの上を敷物などで覆うと、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。



●水場に設置しない！
火災・感電の原因となります。



●指定された機器以外とは接続しない！
火災・感電の原因となります。



●本機の固定は工事専門業者に依頼を！
本機を固定する場合は、指定された方法できちんと固定しないと、落ちたり、倒れたりして、火災・感電・けがの原因になります。特に、壁や天井に固定する場合は、必ず工事専門業者にご依頼ください。なお、取付け費用については、販売店または営業マンにご相談ください。



●湿気やほこりの多い場所に置かない！
火災・感電の原因となることがあります。



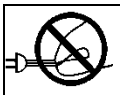
●調理台や加湿器のそばなど油煙や湿気が当たる場所に置かない！
火災・感電の原因となることがあります。



●本機の通風孔をふさがない！
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方はしないでください。
・本機を仰向けや横倒し、逆さまにする。風通しの悪い狭い所に押し込む。
・じゅうたんや布団の上に置く。テーブルやクロスなどを掛ける。



●電源コードを熱器具に近づけない！
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない！
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



●濡れた手で電源プラグを抜き差ししない！
感電の原因となることがあります。

異常時の処理について　　**警告**



●煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態の場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認して、販売店または営業マンに修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



●本機の内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンにご連絡ください。



●本機の内部に異物が入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンにご連絡ください。



●本機が故障した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンに修理をご依頼ください。



●本機を落としたり、ケースが破損した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンにご連絡ください。



●電源コードが傷んだ（芯線の露出・断線など）場合は、交換を依頼する！
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンに交換をご依頼ください。

お手入れについて　　**注意**



●お手入れの際は安全のため、スイッチを切り電源プラグを抜く！
感電の原因となることがあります。



●一年に一度くらいは、販売店または営業マンに内部の掃除の相談を！
本機の内部にほこりがたまったまま使用し続けると、火災・故障の原因になることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。
なお、掃除費用については販売店または営業マンにご相談ください。



注意
本パッケージに含まれる内容に損傷、不足、不適当なものがあった場合、お住まいの地域の販売店までご連絡ください。本製品の不正改造を行うと保証の対象外となります。

その他



通知
- 本書に記載された情報は予告なしに変更される場合があります。
- 本書に含まれる情報は、あくまで参考用とみなされます。



通知
- インターネットを経由する機能については、お客様のインターネット環境に合わせた設定が必要です。
- お客様のインターネット環境の変更が必要となる場合もあります。

目次

1. はじめに 16

1.1 製品概要 16
1.2 特徴 16
1.3 監視アプリケーション 17
1.4 梱包物一覧 18
1.5 製品外観 19
1.6 カメラの設置例 20

2. ネットワーク接続 22

2.1 LAN 22
2.1.1 IP-Tool によるアクセス 22
2.1.2 ブラウザから直接アクセス 27
2.2 WAN 28

3. ライブ画面 30

4. 設定ホーム 34

4.1 システム設定 35
4.1.1 基本情報 36
4.1.2 日付と時間 37
4.1.3 ローカル設定 39
4.1.4 ストレージ 40
4.2 画像設定 47
4.2.1 画質調整 48
4.2.2 映像/音声 53
4.2.3 OSD 55
4.2.4 プライバシーマスク 57
4.3 PTZ コントロール 58
4.3.1 PTZ 設定 59
4.3.2 PTZ 設定の復元（工場メンテナンス用） 60
4.3.3 PTZ 機能 61
4.4 アラーム設定 65
4.4.1 モーション検出 66

4.4.2 異常 72
4.4.3 アラーム入力 76
4.4.4 アラーム接点出力 77
4.4.5 アラームサーバ 81
4.4.6 Smart Tracking 82
4.5 イベント設定 83
4.5.1 妨害検知 84
4.5.2 ラインクロス（ライン越え検知） 86
4.5.3 領域に入る（エリア侵入検知） 92
4.5.4 領域を出る（エリア退出検知） 96
4.5.5 エリア侵入検知（エリア内活動検知） 100
4.6 ネットワーク 104
4.6.1 TCP/IP 105
4.6.2 ポート 108
4.6.3 サーバ 109
4.6.4 ONVIF 111
4.6.5 DDNS 112
4.6.6 SNMP 115
4.6.7 802.1X 118
4.6.8 RTSP 119
4.6.9 RTMP 120
4.6.10 UPnP 121
4.6.11 Email 122
4.6.12 FTP 125
4.6.13 HTTP POST 127
4.6.14 HTTPS 128
4.6.15 QoS 131
4.7 セキュリティ設定 132
4.7.1 ユーザ 132
4.7.2 オンラインユーザ 136
4.7.3 ブロックと許可リスト 137
4.7.4 セキュリティ管理 138
4.8 メンテナンス 141
4.8.1 バックアップと復元 142
4.8.2 再起動 144
4.8.3 アップグレード 145

4.8.4 操作ログ 146

5. 検索 147

5.1 録画検索 148
5.1.1 SD カード録画（動画） 148
5.2 画像検索 150
5.2.1 SD カード画像（静止画） 150

6. 製品仕様 152

7. 困ったときには 155

◆パスワードを忘れたときの対処方法 155
- リセットボタンを操作して初期化する。 155
- IP Tool で初期化する。 156

◆本機から YouTube Live 配信設定手順 157
◆本体の電源が入らない 165
◆RJ-45 ポートでリンクが確立しない 165
◆IE ブラウザ経由でデバイスを接続できない 165
◆IP-Tool でデバイスを見つけられない 166
◆プラグインをインストールしたが Edge の IE 互換モードで映像を表示できない 166
◆プラグインをアンインストールしたい 166
◆IE が ActiveX コントロールをダウンロードできない 167
◆音が聞こえない 167

8. 製品保証 168

1. はじめに

1.1 製品概要

本モデルは、1/2.7″4 メガピクセル CMOS センサーを使用し、解像度：2688X1520 で撮影することができ、小型筐体に光学 2.5 倍ズームレンズと PTZ 機能を搭載したネットワークカメラです。

ディープラーニング推論エンジンによる、「人間」「車両」の認識機能を搭載し、人物・車両の異常な行動や不正な侵入をリアルタイムで検知し、迅速に通知します。進化したアルゴリズムにより、誤検知を最小限に抑え、高い信頼性を実現しています。

自動露出調整機能、オートホワイトバランス機能、逆光補正などの画質調整機能で常に高画質の撮影が可能であり、屋外、屋内に関わらず、あらゆるシーンで使用できる PTZ カメラです。

1.2 特徴

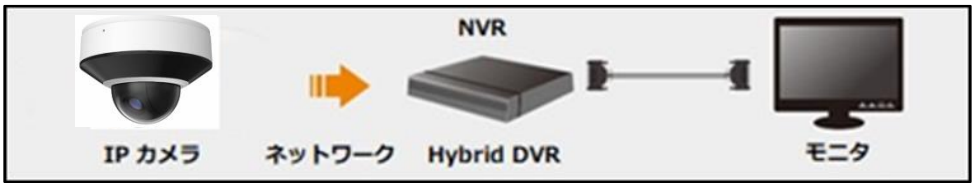
- 1/2.7″4 メガピクセル CMOS センサーを搭載し、高解像度・高画質を実現
- 光学 2.5 倍ズームレンズを搭載しています。（焦点距離 望遠側最大 7.42mm）
- 赤外線 LED を装備し、夜間の照明のない環境でも撮影可能
- ディープラーニング推論エンジンよる「人間」「車両」の検出
- 検知したターゲットの自動追尾撮影が可能
- PoE 給電対応
- H.264/H.265/MJPEG 対応（H.264 よりも更に圧縮率を高めた H.265/H.265＋に対応）
- WDR 機能、BLC 機能により、逆光等の明暗差が大きな被写体でも、最適な画質に調整
- YouTube Live に配信が可能な、RTMP プロトコルに対応
- ブラウザ接続は、Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox などに対応
- MicroSD カードへの録画対応(動画及び静止画)・録画スケジュール設定可能
  （※Microsoft Edge/ Google Chrome/ Mozilla Firefox では SD カード録画のダウンロードはできません。）
- 豊富なネットワーク機能に対応
- モーション検知、妨害検知、メール送信機能、DDNS 等、豊富な機能を搭載
- アラーム入出力端子、音声入出力端子を装備
- IP67 規格対応の防塵・防水構造
- 耐衝撃等級 IK10 に対応

1.3 監視アプリケーション

カメラとコンピュータを LAN で接続



カメラと NVR などの録画装置を接続



カメラと CMS など監視ソフトウェアと接続



1.4 梱包物一覧

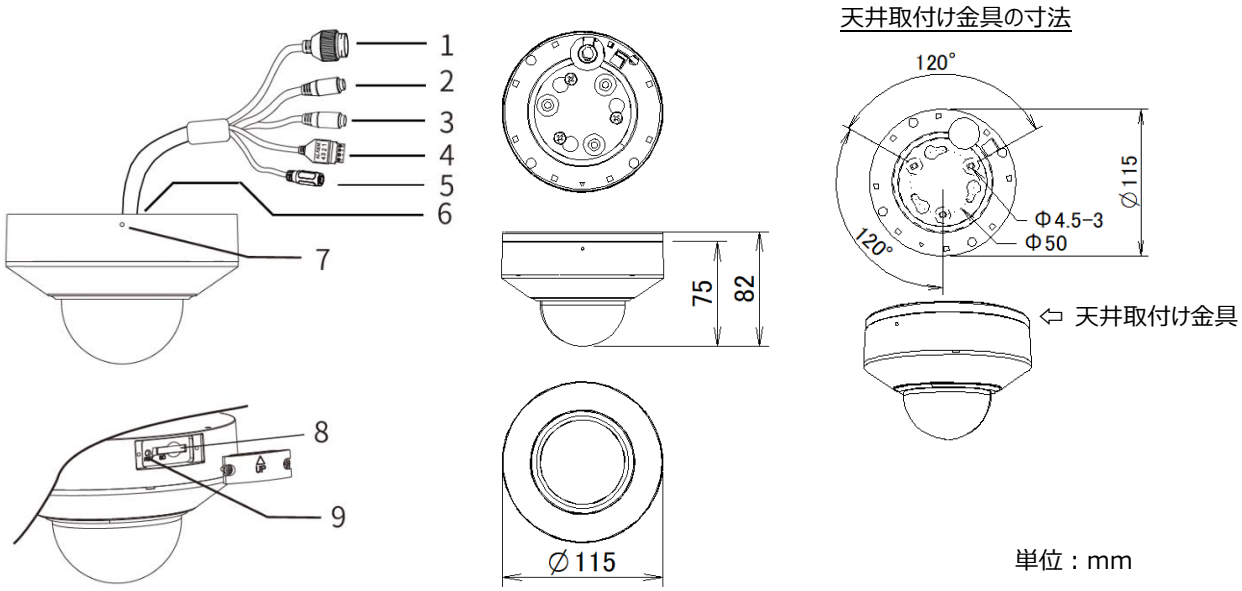
ご使用いただく前に本体と付属品を確認してください。万一、不足の品がありましたら、お手数ですがお買い上げの販売店までご連絡ください。

●HIC-SD411X3PTZ

名　　称	数 量
本体	1 台
ネジ、アンカー（各 4 本）	1 式
六角レンチ	1 本
ドリルテンプレート	1 枚
クイックガイド	1 枚

1.5 製品外観

- **スマート PTZ カメラ HIC-SD411X3PTZ**



#	表 示	説 明
1	Ethernet	LAN ケーブル接続(10Mbps/100Mbps) ※PoE 対応
2	MIC	オーディオ入力（LINE）(3.5mm)
3	HP	オーディオ出力（3.5mm)
4	アラーム	アラーム入力/出力
5	POWER	DC12V 入力
6	グラウンド	雷や誘導雷対策のためアースに接続します。
7	内蔵マイク	周囲の音を集音するマイクです。
8	SD カードスロット	カメラ側面の蓋（ネジ 2 本）を外してメモリカード（Micro SD/SDHC/SDXC）をスロットに挿入します。SD カードに録画、スナップショットの保存を行います。（※Microsoft Edge/Google Chrome/Mozilla Firefox では SD カード録画のダウンロードはできません。）
9	リセット	カメラの電源を入れた後、リセットボタンを 10 秒以上押し続けて、工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。

1.6 カメラの設置例

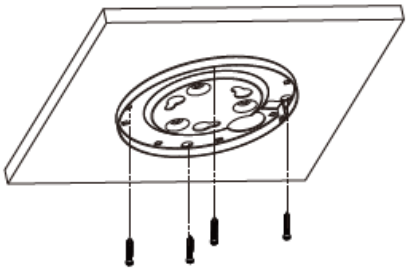
本製品の設置方法について説明します。以下の注意点をご確認の上、設置してください。

注 1 壁または天井がカメラの 3 倍の重量に耐えられる強度であることを確認してください。

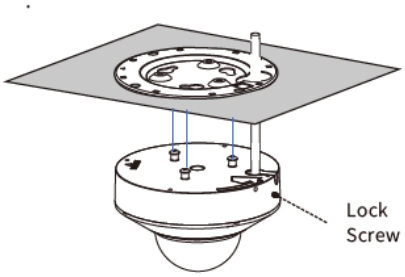
注 2 取り付けが完了するまで保護フィルムを剥がさないでください。

- **スマート PTZ カメラ HIC-SD411X3PTZ**

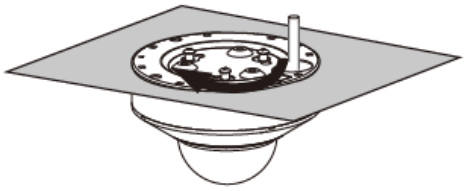
① 天井面に直接設置する場合は、ドリルテンプレートと付属の 4 本のネジを使用して、天井取付け金具を取付けます。



② アダプタの 3 つのネジ穴を取付け金具のネジに合わせます。



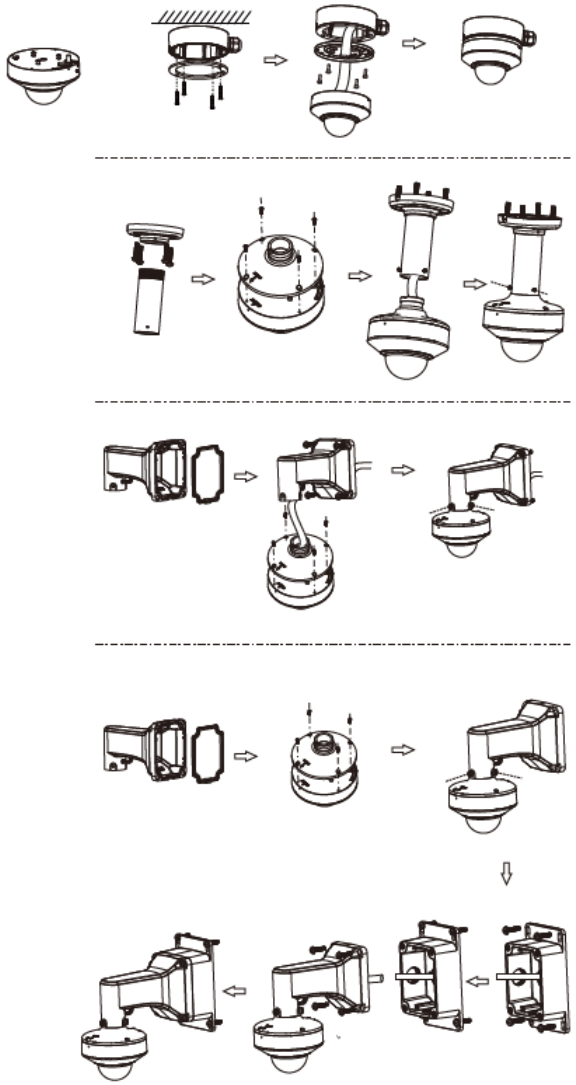
③ 3 本のネジをネジ穴に差し込みます。その後、カメラを時計回りに回して固定します。



④ カメラの位置を調整し、側面のロックネジを締めます。カメラに内蔵したマイクは監視したい方向に向ける必要がありますので注意してください。



⑤ オプションの取付金具を使ったときの使用例



2. ネットワーク接続

LAN または WAN 経由で IP カメラを接続します。詳細は次のとおりです。

2.1 LAN

LAN では、IP カメラへのアクセス方法は 2 つあります。

2.1.1 IP-Tool によるアクセス

ネットワーク接続：



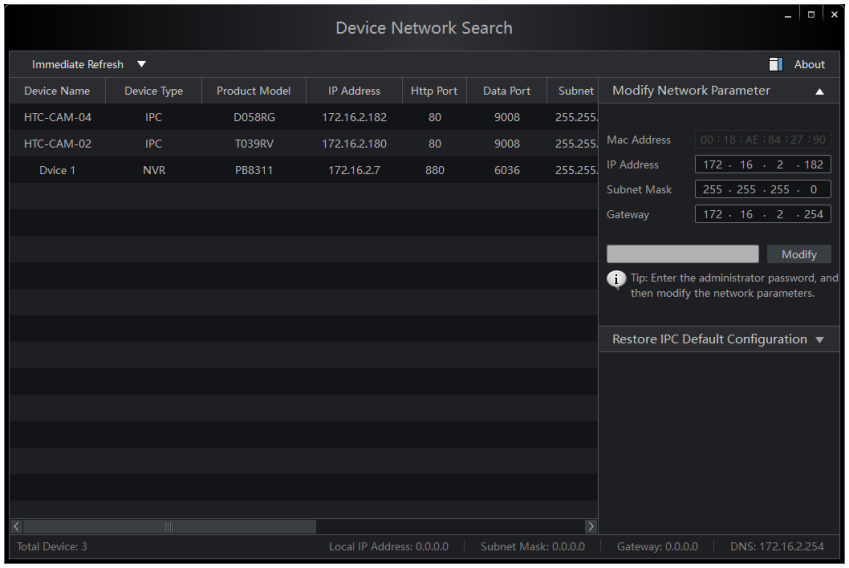
① IP-Tool を PC(コンピュータ)にインスト―ルしておきます。

IP―Tool のダウンロードは以下 URL からお願いします。（他のカメラのリンク先の IP-Tool でも使用できます。）

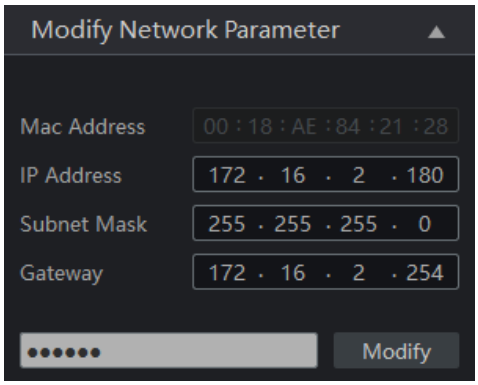
https://hytec.co.jp/products/camera/video21/hic-sd411x3ptz.html

② PC と IP カメラが LAN で接続されていることを確認します。

③ デスクトップ上にある IP-Tool アイコン  をダブルクリックすると、IP-Tool が起動し、ネットワークに接続されたカメラを自動的にサーチしてリストアップします。



④ IP アドレスを変更します。本機のデフォルト IP アドレスは 192.168.226.201 です。リストのカメラをクリックすると、右手にネットワーク情報を表示します。ネットワークアドレスがコンピュータのローカルネットワークセグメントと同じであることを確認します。同じでない場合は、カメラの IP アドレスとゲートウェイを変更する必要があります。

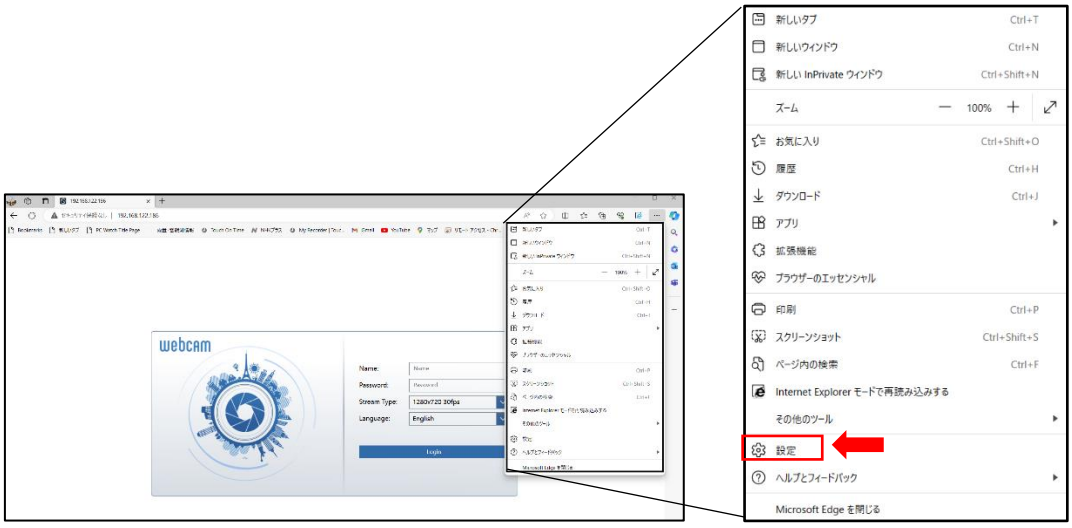


例：コンピュータの IP アドレスが 172.16.2.4 である場合、カメラの IP アドレスを 172.16.2.X に設定します。変更後、管理者のパスワードを入力し、[Modify]ボタンをクリックして変更します。

管理者のデフォルトパスワードは“**123456**”です。（カメラの管理者パスワードです。）

⑤ リスト内のカメラをダブルクリックすると、ブラウザ（Microsoft Edge）がポップアップして IP カメラに接続します。まず、Microsoft Edge（IE 互換モード）で接続するための設定を行います。

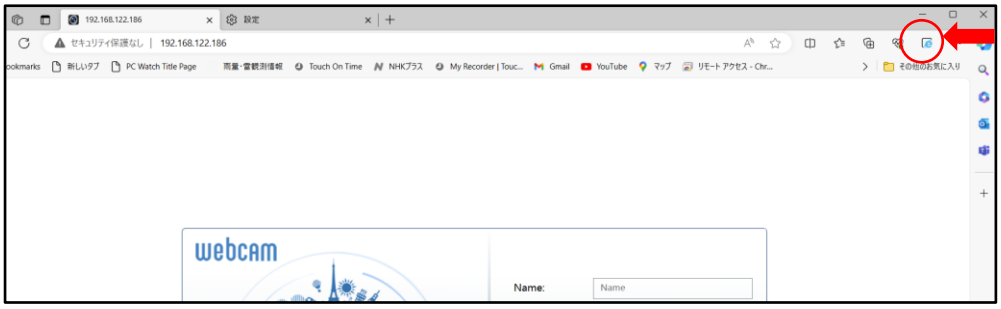
- 1）右上の「・・・」をクリックし「設定」をクリックします。



-２）「既定のブラウザ」をクリックし「Internet Explorer でサイトの再読み込みを許可」を『許可』に設定します。



-3) Internet Explorer のリロードタブアイコンをクリックして、Microsoft Edge（IE 互換モード）に切り替えます。



-4)「このページは～」のメッセージが表示されるので、今後もこのサイトを Microsoft Edge（IE 互換モード）で開く場合は「次回、このページを Internet Explorer モードで開く」を有効に設定します。IE 互換モードで開いたら 「Internet Explorer モードになっています～」のメッセージはそのまま表示させます。



- 5)続いて、プラグインのインストールを行います。

プラグインのインストールを促すメッセージが表示されたら、Here をクリックしてダウンロードします。

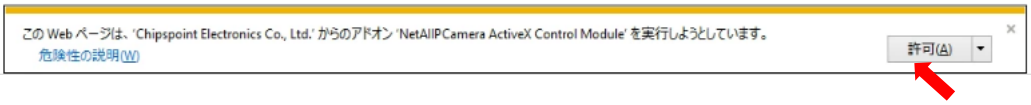


『保存』をクリックしてダウンロードフォルダーにダウンロードします。



-6)ダウンロードが完了したら、一度ブラウザを閉じて、ダウンロードしたプラグインをインストールします。インストールが完了したら、IP-Tool からカメラを選択（ダブルクリック）して、Microsoft Edge（IE 互換モード）を起動してカメラに接続します。

ブラウザの下端にアドオンの実行に関するメッセージが表示されるので『許可』をクリックします。



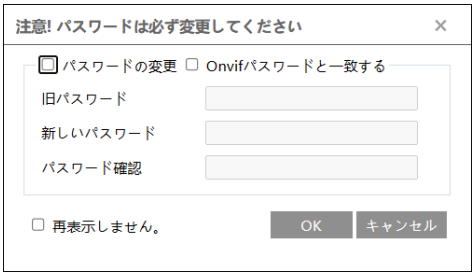
⑥　名前とパスワードを入力します。言語は日本語を選択し、ログインします。



デフォルトの名前は“**admin**”、デフォルトパスワードは“**123456**”です。

カメラのバージョンが 5.1.1 以降の場合、プラグイン不要の Microsoft Edge（プラグインフリー）でもアクセスが可能です。

⑦ デフォルトのパスワード変更を要求されます。セキュリティのために、デフォルトパスワードの変更をお勧めします。 パスワードを変更する場合は、[パスワードの変更]にチェックを入れ、新しいパスワードを入力します。変更しない場合は、そのまま[OK]をクリックします。[再表示しません]にチェックを入れると、次回からこのメッセージは表示されません。



Microsoft Edge（IE 互換モード）でログインした場合、上記がポップアップして、カメラにログインするときのパスワードと ONVIF 接続したときのパスワードを別々に設定することができます。「ONVIF パスワードと一致する」にチェックを入れてパスワードを設定するとカメラにログインするときのパスワードと ONVIF 接続したときのパスワードが同じになります。「パスワードの変更」のみチェックを入れてパスワードを変更するとカメラにログインするときのパスワードのみ変更されます。ONVIF 接続のパスワードは変更されないので注意してください。

何もチェックをいれずに「OK」をクリックすると、カメラにログインするときのパスワードと ONVIF 接続したときのパスワードは変更されずデフォルトパスワードの“123456”のままカメラにログインします。

ログインに成功しプラグインのインストールに成功していると、カメラのライブ画像を表示することができます。※Microsoft Edge（IE 互換モード）で画像表示するときはプラグインのインストールは必須です

Microsoft Edge（IE 互換モード）で画像表示するとき、プラグインのインストールは必須です。

2.1.2　ブラウザから直接アクセス

カメラのデフォルトネットワーク設定は次の通りです。カメラに初めてログインするときは、下記のデフォルト設定を使用してください。

IP アドレス：192.168.226.201　　サブネットマスク：255.255.255.0
ゲートウェイ：192.168.226.1　　HTTP ポート：80
データポート：9008

LAN ケーブルを使用して、カメラとコンピュータを直接接続します。



① PC の IP アドレスを手動で設定し、IP カメラのデフォルト設定と同じネットワークセグメントにする必要があります。コントロールパネルを開き、ネットワークと共有センター ⇒ アダプタの設定の変更 ⇒ イーサネットを開きます。（例：Microsoft Windows10）

② イーサネットのプロパティから[インターネット プロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)]を開きます。　PC の IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS サーバを入力し、[OK]をクリックします。

③ ブラウザを開き、IP カメラのデフォルト IP アドレスを入力します。

④ カメラに接続したら、前節「2.1.1 **IP-Tool によるアクセス**」の⑤以降と同操作を行います。

デフォルトの名前は“**admin**”、デフォルトパスワードは“**123456**”です。

2.2 WAN

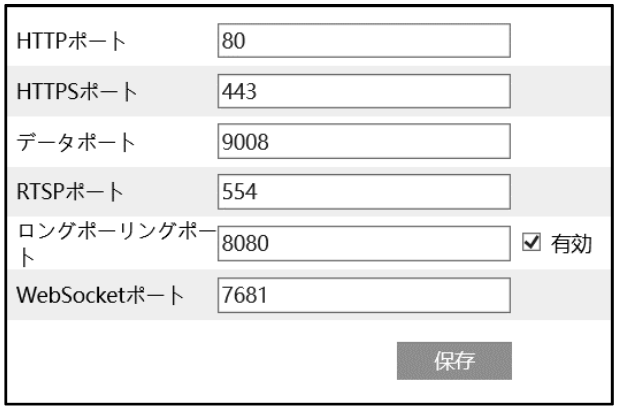
WAN からルータを介してカメラにアクセスできるようにします。

ネットワーク接続：

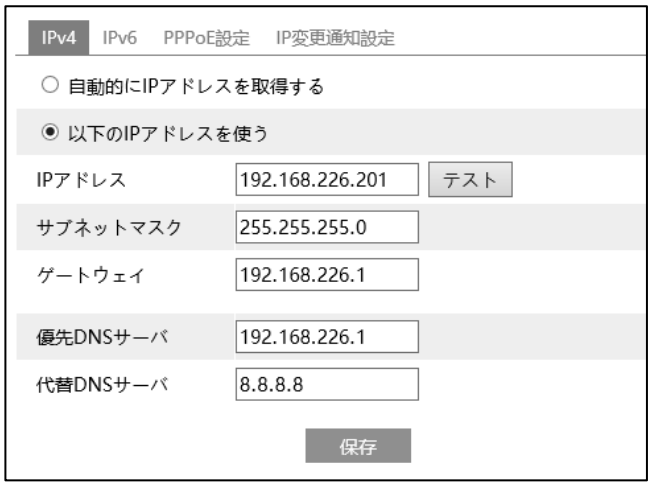


① カメラがローカルネットワークで接続されていることを確認し、LAN 経由でカメラにログインします。

② 設定>ネットワーク>ポートメニュー「4.6.2 **ポート**」に移動して、ポート番号を設定します。



③ 設定>ネットワーク>TCP/IP メニュー「4.6.1 **TCP/IP**」に移動して、IP アドレスを設定します。
[以下の IP アドレスを使う]を選択し、IP アドレスなどのパラメータを入力します。



④ ルータでポートフォワーディングを設定します。

ポートフォワーディングの手順はお使いのルータのマニュアルでご確認ください。

クライアントからの接続方法によって、フォワーディングするポートが異なります。

・Microsoft Edge(IE 互換モード)での接続→HTTP ポート＆データポート

・Microsoft Edge/Google Chrom(**プラグイン無し**)での接続→HTTP ポート＆データポート＆**WebSocket ポート**

・スマホアプリでの接続→HTTP ポート＆データポート

・CMS/VMS での接続→データポート

・ONVIF 接続→HTTP ポート＆RTSP ポート

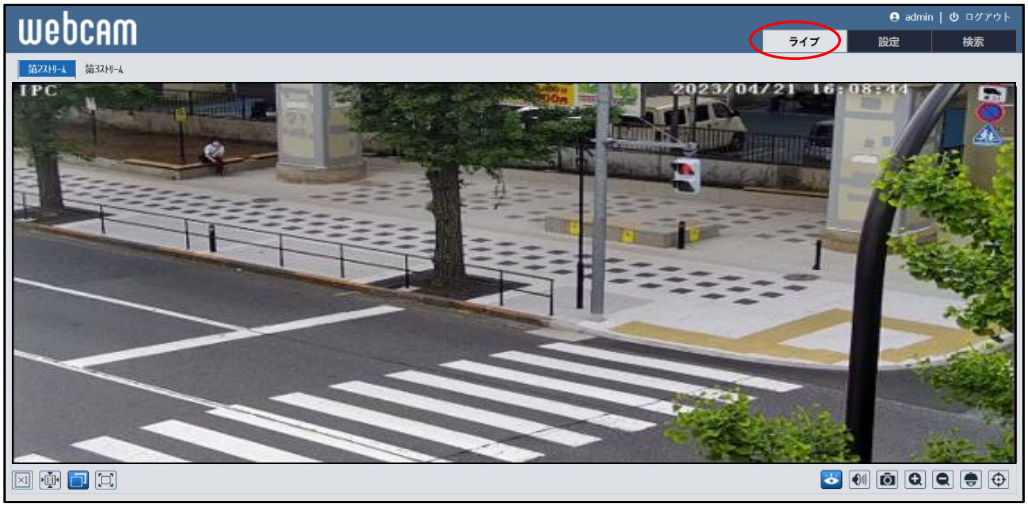
・RTSP 接続→RTSP ポート

⑤ ブラウザを開き、アクセスする WAN IP と HTTP ポートを入力します

例：http://192.168.226.180:880

3.ライブ画面

右上の[**ライブ**]タブを開きます。



ライブ画面(左上)の説明

再生するライブ画面の画質を、第 1 ストリーム / 第 2 ストリーム /第 3 ストリーム から選択します。

※Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox でアクセスした場合、**第 1 ストリームを表示するには解像度を 1920x1080 以下に設定する必要があります。**各ストリームの設定は、「4.2.2 **映像/音声**」で行います。

ライブ画面(左下)のアイコン説明

アイコン	説明	アイコン	説明
	等倍表示（1：1）		オリジナルアスペクト比
	ウィンドウに合わせる		フルスクリーン※1

※1 フルスクリーンモードの終了方法は、キーボードの Esc キーを押します。

ライブ画面(右上)のアイコン説明 ※2

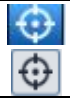
アイコン	説明	アイコン	説明
	モーション検出のアラーム表示		アラーム入力のアラーム表示
	急激なシーン変化のアラーム表示		不鮮明画像（ピンボケ）のアラーム表示
	映像妨害(隠す、塞ぐ)のアラーム表示		ラインクロスのアラーム表示
	領域に入るのアラーム表示		領域を出るのアラーム表示
	ターゲットカウントのアラーム表示※3		エリア侵入検知のアラーム表示
	顔検出のアラーム表示※3		SD カードの有無を表示※4

※2 各検出アラームが有効になっている場合のみアイコンを表示し、無効時は表示されません。検出された場合、アイコンが赤く点滅します。

※3 現在対応していません。

※4 SD カードは挿入されるとアイコンが表示され、録画・画像保存時に赤く点灯します。

ライブ画面(右下)のアイコン説明

アイコン	説明	アイコン	説明
	ライブビューのオン/オフ		双方向音声のオン/オフ※5
	スピーカーのオン/オフ		スナップショット※6
	手動録画のオン/オフ※7		3D ズームのオン/オフ※8
	ズームイン/ズームアウト		PTZ 制御のオン/オフ※9
	ルール情報のオン/オフ		

※5 Microsoft Edge（IE 互換モード）を使用しない Microsoft Edge の場合、アイコンが表示されません。

※6 Microsoft Edge（IE 互換モード）を使用しない Microsoft Edge の場合、スナップショットは、Windows 標準のダウンロードフォルダに保存されます。Microsoft Edge（IE 互換モード）の場合、本機能はサポートしておりません。

※7 Microsoft Edge（IE 互換モード）を使用しない Microsoft Edge の場合、アイコンが表示されません。Microsoft Edge（IE 互換モード）の場合、本機能はサポートしておりません。

※8 Microsoft Edge（IE 互換モード）を使用しない Microsoft Edge の場合、アイコンが表示されません。3D ズームをオンにして画面をクリックすると、クリックしたところが画面中心になるようにパンチルト動作をします。但し、ズームはしません。

イベント設定メニューの各イベントメニューのエリア設定でロックを設定した場合、PTZ 制御が出来ません。ロックを解除する必要があります。

※9 PTZ をオンにすると、以下のアイコンが画面の右側に表示されます。



アイコン	説明	アイコン	説明
	カメラの向きを左上へ移動		カメラの向きを右上へ移動
	カメラの向きを上へ移動		カメラの向きを下へ移動
	カメラの向きを左へ移動		カメラの向きを右へ移動
	カメラの向きを左下へ移動		カメラの向きを右下へ移動
	カメラの移動を停止		移動速度調整
	ズームアウト（広角）		ズームイン（望遠）
	フォーカスを近く		フォーカスを遠く
	ライト（赤外線）		プリセット
	クルーズ		
	絞り＋（未対応）		絞りー（未対応）
	自動スキャン（未対応）		ワイパー（未対応）
	ランダムスキャン（未対応）		グループスキャン（未対応）

プリセット、クルーズをクリックすると、それぞれの登録したリストが表示されます。登録については「4.3.3 **PTZ 機能**」を参照してください。

プリセットの場合は、リストの各行の横のアイコンをクリックすると動作します。

アイコン	説明
	現在の位置を保存します。
	保存されている方向にカメラを移動します。
	設定を削除します

クルーズの場合は、リストをクリックして選択したのちに、リストの上部にあるアイコンをクリックすると動作します。

アイコン	説明
	動作を開始します。
	動作を停止します。

クルーズ設定で短い時間を設定すると本機の寿命が短くなる原因となります

4. 設定ホーム

右上の[**設定**]タブを開きます。



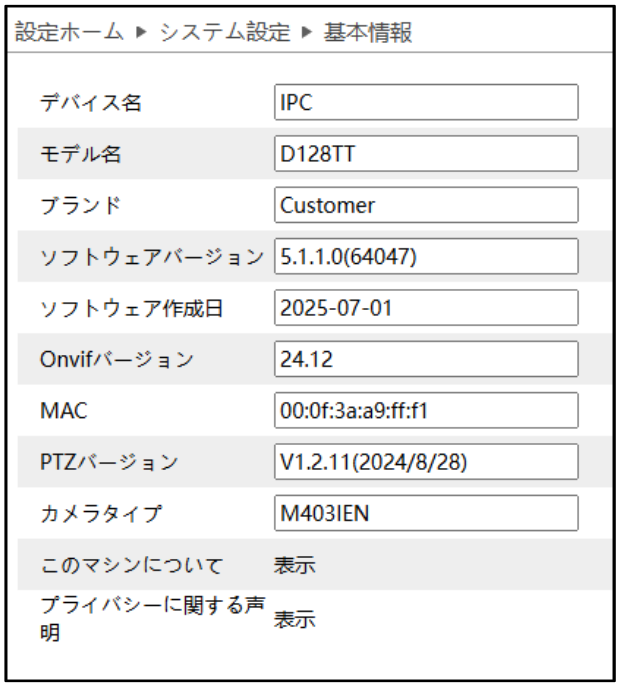
4.1 システム設定

基本情報、日付と時間、ローカル設定、ストレージなどのサブメニューがあります。



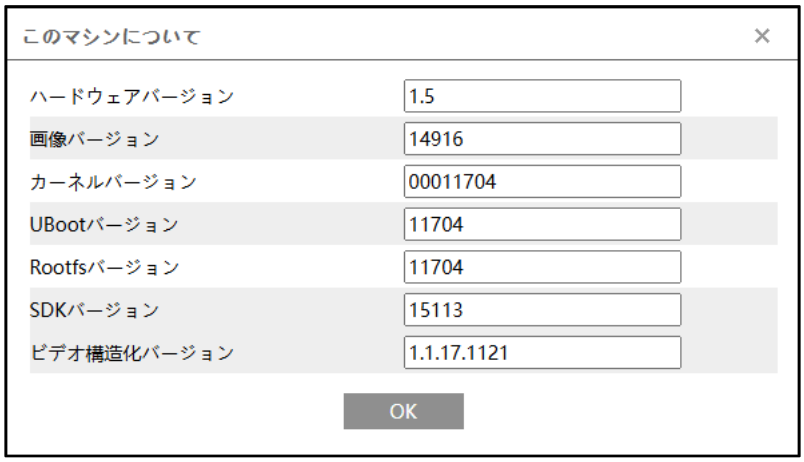
4.1.1　基本情報

デバイス名やモデル名、ソフトウェアバージョン、MAC アドレスなど、基本的な情報を表示します。



※ デバイス名の変更は、「4.2.3 **OSD**」の[デバイス名]にて変更できます。

[このマシンについて]項がある場合、[表示]をクリックすると、マシンの詳細バージョンが確認できます。



[プライバシーに関する声明]項がある場合、[表示]をクリックすると、プライバシーの取り扱いに関する記述を確認できます。

4.1.2　日付と時間

デバイスの日付と時間の設定を行います。



➢　タイムゾーン

[タイムゾーン]タブを開き、タイムゾーンの設定を行います。



表示	説明
タイムゾーン	日本のタイムゾーンは、「GMT+09（東京、大阪、名古屋、札幌、福岡、沖縄）」です。
サマータイム	サマータイムを設定するには、[サマータイム]にチェックを入れ、自動サマータイムまたは手動サマータイムを選択します。手動サマータイムを選択した場合、開始時間と終了時間、オフセット時間を設定します。

➢ 日時合わせ

[日時合わせ]タブを開き、日付と時刻の設定を行います。



日付と時刻の設定方法

◆ **NTP**

[NTP サーバに同期]を選択します。

NTP サーバのアドレスを入力し、日時の更新間隔(分)を設定します。

注：NTP サーバにネットワーク経由で接続できる必要があります。事前に接続確認してください。

◆ **パソコンと時間同期**

接続中のパソコンの時刻に同期する場合は「パソコンの時間に同期」を選択します。

パソコンの時間と自動的に同期を行います。

◆ **手動**

手動で時刻を調整する場合は「手動で設定」を選択します。

をクリックして、カレンダーから日付を選択、時間を入力します。

◆ **時間形式**

時間形式を 12 時間 /24 時間から選択できます。

※ SD カードに録画している場合、時計の時間を遅らせると、遅らせた時間分の録画は削除されます。

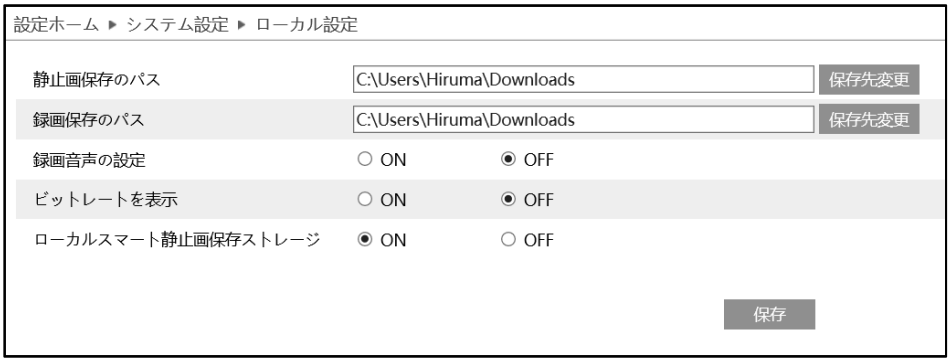
4.1.3　ローカル設定

ライブ画面の右下にビットレートを表示させることができます。



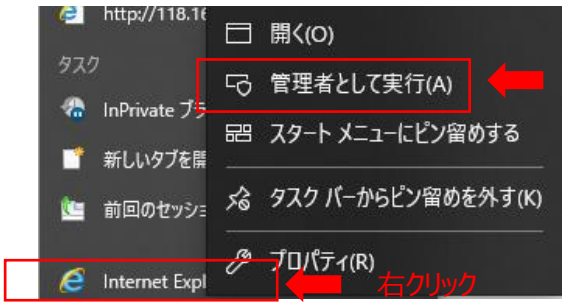
表示	説明
ビットレートを表示	ライブ画面にビットレートを表示することができます。 有効(ON)または無効(OFF)を選択します。

※Microsoft Edge（IE 互換モード）でアクセスした場合、以下のメニュー表示をしますが設定することはできません。



表示	説明
静止画保存のパス	スナップショット画像を PC 内のフォルダに保存します。 保存先変更をクリックして保存先フォルダを指定します。
録画保存のパス	録画ビデオを PC 内のフォルダに保存します。 保存先変更をクリックして保存先フォルダを指定します。
録画音声の設定	録画ビデオに同時に音声を録画するかを指定します。
ビットレートを表示	ライブ画面にビットレートを表示することができます。 有効(ON)または無効(OFF)を選択します。
ローカルスマート静止画保存ストレージ	スマート検知で撮影したスナップショット画像を PC 内のフォルダに保存します。

注　動画ファイルや静止画ファイルをローカル PC に保存するためには、Internet Explorer を管理者権限で起動する必要があります。



Windows の仕様により、Internet Explore を起動することができないことがあります。

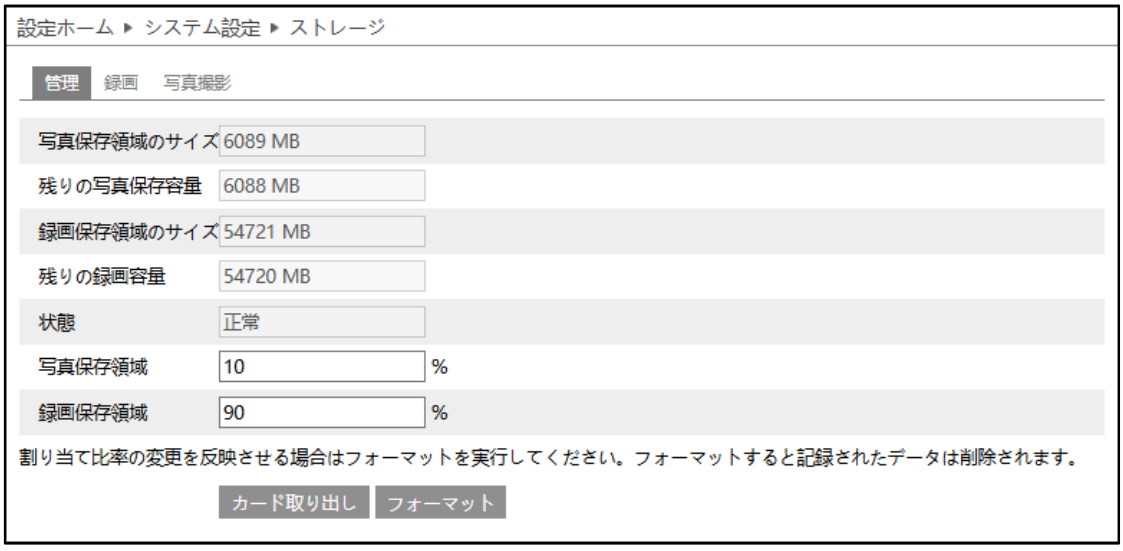
プラグインフリー（Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox）でアクセスした場合、「ビットレートを表示」の項目のみ表示します。

4.1.4　ストレージ

SD カードのフォーマットや、写真・録画ファイルの保存に関する項目などを設定します。

SD カードを取付けてないときは「カードがありません」と表示します。

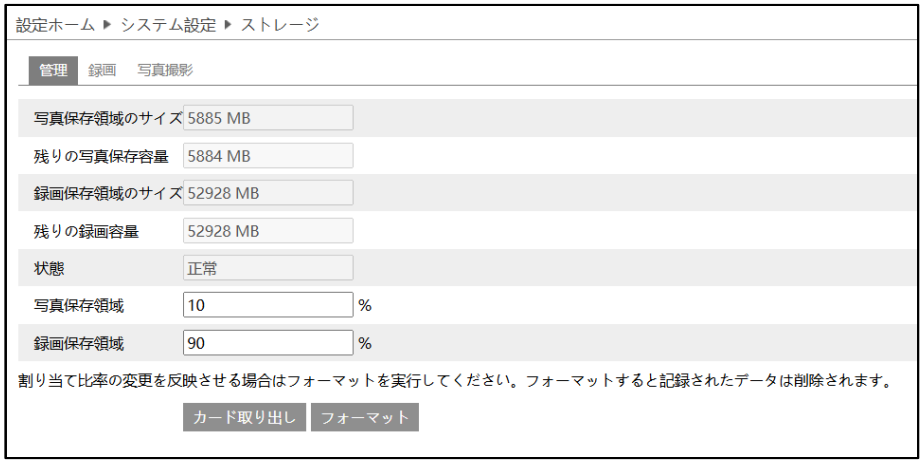
設定するときは、SD カードをカメラに取付ける必要があります。（最大 256GB）



➢ 管理

[管理]タブを開き、SD カードの容量を表示・設定します。

SD カードをカメラに取付けると、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。SD カードに録画や画像が保存されると、アイコン は赤く点灯します。（動画を保存するときは録画タブでスケジュール記録有効にチェックを入れる必要があります。）



表示	説明
写真保存領域のサイズ	SD カード内の写真を保存できる容量を表示します。
残りの写真保存容量	写真を保存できる、残りの空き容量を表示します。
録画保存領域のサイズ	SD カード内の録画を保存できる容量を表示します。
残りの録画容量	録画できる、残りの空き容量を表示します。
状態	SD カードの状態を表示します。
写真保存領域 ※	SD カードの全容量に対して、写真を保存できる割合を設定します。
録画保存領域 ※	SD カードの全容量に対して、録画を保存できる割合を設定します。
カードの取り出し	カメラから SD カードを取り出すときにクリックしてください。 取り出しをクリックする前に SD カードを取り出すとファイル破損の原因となる可能性があります。 注意：カードの取り出しをクリックすると「イジェクトされました」と表示します。SD カードを再認識させるには物理的に SD カードを抜き差しする必要があります。
フォーマット	SD カードを初期化します。フォーマットを行うと、SD カード内のデータはすべて削除されます。

※写真と録画の保存割合を適用するには、フォーマットする必要があります。フォーマットを行うと、SD カード内のデータはすべて削除されます。

➢ 録画

[録画]タブを開き、SD カードへの録画に関する設定を行います。



●録画パラメータ

表示	説明
録画ストリーム	録画を行うストリームを選択します。 解像度や画質などの設定は「4.2.2 **映像/音声**」で調整します。
プリ録画時間	“プリ録画時間なし”を選択した場合、「イベント発生中の時間+アラーム持続期間」の映像を録画します。 “3 秒”または”6 秒”を選択した場合、イベント発生の 3 秒または 6 秒前の映像から録画を行います。
上書きする	SD カードの空き容量が無くなったとき、上書き録画を行うか選択します。

※ イベントによる録画は、「4.4 **アラーム設定**」や「4.5 **イベント設定**」の連携するアラーム出力で、[SD カード録画]が有効(チェックあり)のときに実行されます。

●設定された時間で実行

表示	説明
スケジュール記録有効	チェックを入れると、スケジュールによる録画を行います。

●スケジュールの設定方法

◆ 一週間の日程

日曜日～土曜日の一週間のスケジュールを設定します。

削除　　：録画を無効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(白)

追加　　：録画を有効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(緑)

手動入力：[削除]または[追加]を選択してから、タイムライン右下の[手動入力]をクリックし、時間帯を設定します。

◆ 休日設定とスケジュール

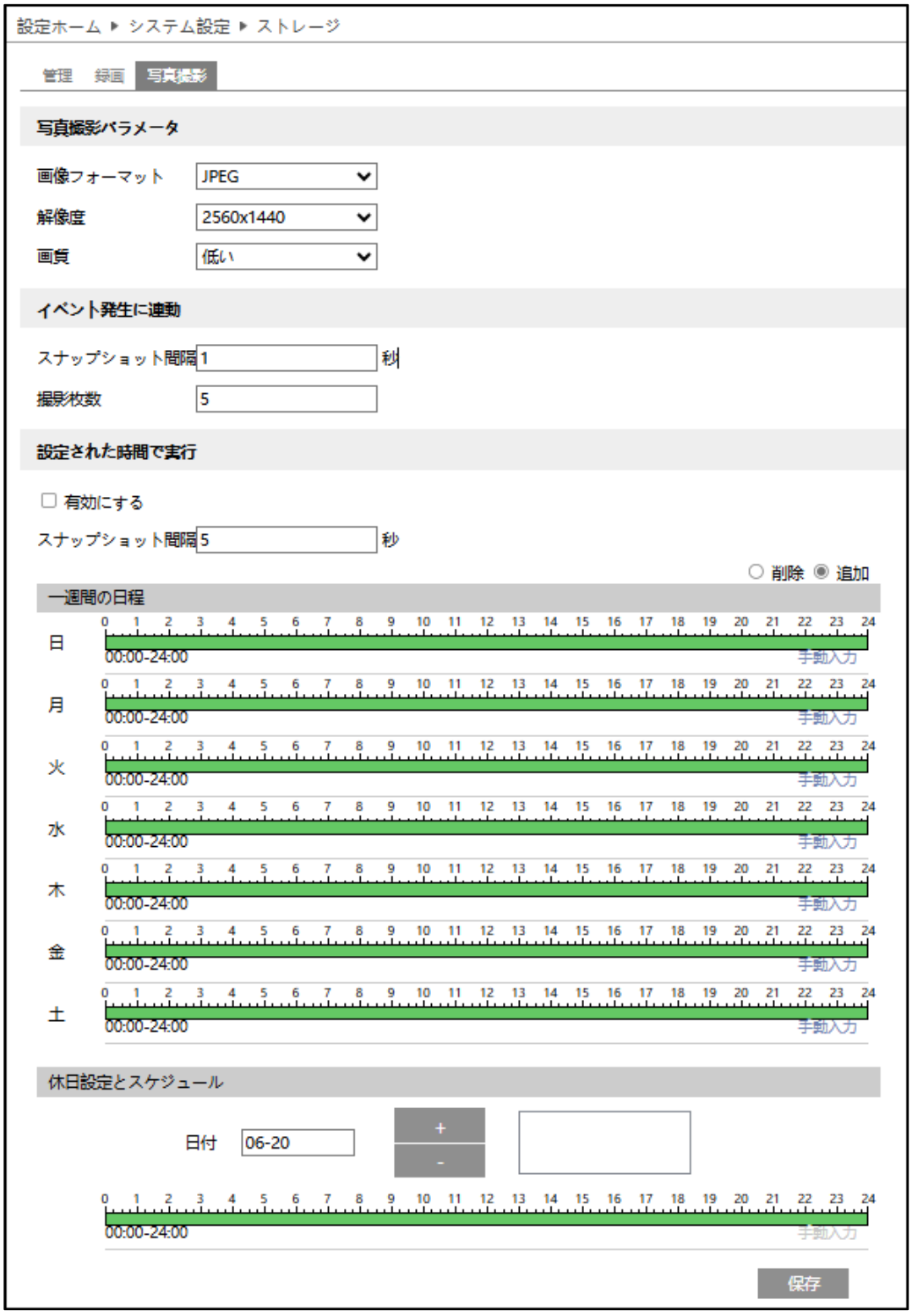
日付を指定してスケジュールを設定します。

日付を指定し、[＋]をクリックします。その後、タイムラインでスケジュールを設定して保存します。

削除するときは、日付を選択してから[―]をクリックします。

➢ 写真撮影

[写真撮影]タブを開き、SD カードに保存する静止画に関する設定を行います。



●写真撮影パラメータ

表示	説明
画像フォーマット	フォーマットを選択します。
解像度	スナップショットの解像度を選択します。
画質	画質を高い/中/低いから選択します。

※スナップショット解像度の設定は、「4.2.2 **映像/音声**」で行います。

●イベント発生に連動

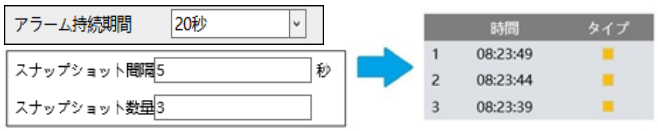
表示	説明
スナップショット間隔	「イベント発生中の時間+アラーム持続期間」の時間内で、何秒間隔でスナップショットを撮影し、SD カードに保存するか設定します。
撮影枚数	スナップショット間隔で、最大何枚のスナップショットを撮影するか設定します。

※「4.4 **アラーム設定**」や「4.5 **イベント設定**」の連携するアラーム出力で、[写真を SD カードに保存]が有効(チェックあり)のときに実行されます。

SD カードへのスナップショット保存例

[例 1] アラーム持続期間：20 秒、スナップショット間隔：5 秒、撮影枚数：3 枚の場合

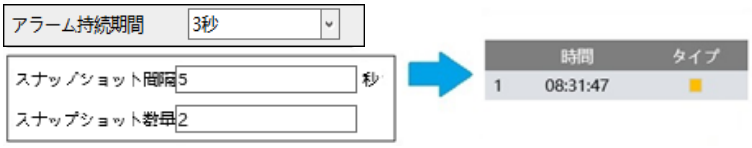
→ イベント発生時に 1 枚、その後 5 秒間隔で 1 枚ずつ撮影され、計 3 枚(最大)のスナップショットが保存されます。



※ここでは、イベント発生時、発生から 5 秒後、10 秒後のスナップショットを保存しています。

[例 2] アラーム持続期間：3 秒、スナップショット間隔：5 秒、撮影枚数：2 枚の場合

→ イベント発生時に 1 枚、3 秒でアラーム持続期間が終了したため、5 秒後のスナップショットは撮影されず、発生時の 1 枚のみ保存されます。



※アラーム持続期間が終了した時点で、それ以降のスナップショットは保存されません。

●設定された時間で実行

表示	説明
有効	チェックを入れると、スケジュールによる写真の保存を行います。
スナップショット間隔	有効の時間帯で何秒間隔の写真を保存するのか設定します。

●スケジュールの設定方法

◆　**一週間の日程**

日曜日～土曜日の一週間のスケジュールを設定します。

削除　　：写真保存を無効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(白)

追加　　：写真保存を有効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(緑)

手動入力：[削除]または[追加]を選択してから、タイムライン右下の[手動入力]をクリックし、時間帯を設定します。

◆　**休日設定とスケジュール**

日付を指定してスケジュールを設定します。

日付を指定し、[＋]をクリックします。その後、タイムラインでスケジュールを設定して保存します。

削除するときは、日付を選択してから[―]をクリックします。

Windows の仕様により、Internet Explore を起動することができないことがあります。
SD カードに録画した動画のデータをダウンロードするには HCMS ソフトウェアをご利用ください。ただし、スナップショット画像は HCMS からは一切扱えません。
HCMS については、営業担当またはサポートまでお問合せください。

4.2 画像設定

画質調整、映像/音声、OSD、プライバシーマスクなどのサブメニューがあります。



4.2.1 画質調整

カメラの画質(輝度、コントラスト、彩度など)に関するパラメータを設定します。



➢ カメラのパラメータ

[カメラのパラメータ]タブを開き、通常・昼間・夜のモード別に、輝度やコントラストなどを設定できます。



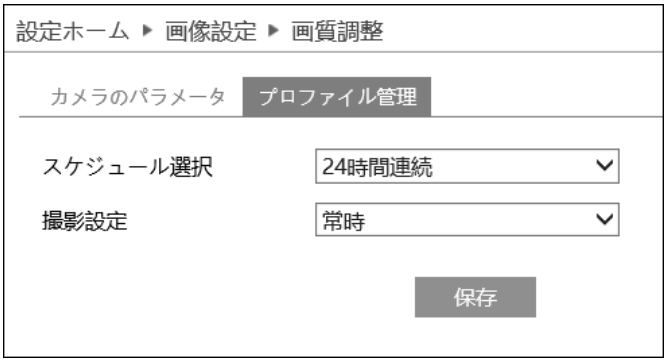
表示	説明
撮影設定	3 パターンの撮影設定（常時、昼間専用、夜）を行います。 それぞれに適したパラメータを以下より設定します。
輝度	カメラ画像の明るさ調整します。
コントラスト	最も明るい部分と最も暗い部分の明るさの差を調整します。
色相	色味を調整します。
彩度	色の濃さを調整します。0 に調整すると白黒画像になります。
WDR	ハイライト部と暗部の両方を自動調整し、鮮明な画像に調整します。

シャープネス	シャープネスにチェックを入れ、有効にします。 画像の輪郭強調レベルを調整します。
ノイズ除去	ノイズ除去にチェックを入れ、有効にします。 映像に発生しているランダムノイズの除去レベルを調整します。値を大きくするとノイズは減りますが、画像の解像度は低下します。
BLC	逆光補正機能(BLC)の設定を、以下から選択します。 オフ　：逆光補正機能を無効にします。(デフォルト) HLC　：ハイライト補正。強い光源をカバーします。 BLC　：逆光補正。逆光で陰になった部分を明るく補正します。
フリッカレス	オフ：フリッカ除去機能をオフにします。 50Hz/60Hz：50Hz または 60Hz の照明条件でちらつきを低減します。
ホワイトバランス	自動、屋内、屋外を選択した場合は、環境に応じて自動的に色温度を調整します。マニュアルを選択した場合は、赤レベルと青レベルのメニューを表示しますので、手動で色温度を設定します。
昼/夜モード	自動　：昼モードと夜モードを自動で切替えます（デフォルト）切り替えの感度（明るさ）と、切替遅延時間を設定できます。 昼　：カラー撮影固定 夜　：白黒撮影固定 設定された時間で実行：昼モード/夜モードの切り替え時刻を設定できます。
感度	昼/夜モードを切替える感度を設定します。 高い・中・低いから選択します。
切替遅延時間(秒)	昼/夜モードを切替えるときに遅延させる時間を設定します。すぐに切り替わらないようにするときは長く設定します。（10～360 秒）
IR 照明自動調光	自動　：IR 照明を自動で調整します。 オフ　：IR 照明は最大で発光します。 マニュアル：光グループ 1 のメニューを表示しますので、IR 照明を手動で設定します。
露出モード	自動またはマニュアルから選択します。 マニュアル：シャッター速度およびゲインを手動で設定します。 ゲインの数値が大きいほど、画像が明るくなり、画像のノイズが多くなります。
ゲイン制限	ゲイン値が高いほど、画像が明るくなり、画像のノイズが多くなります。

表示		説明
ビデオ調整	映像周波数	60Hz と 50Hz を選択します。
	IR 照明	自動、オフ、オンから選択します。 自動　：カメラの近くの被写体が白飛びしないように、自動で IR 照明を調光します。 オフ　：IR 照明は点灯しません。 オン　：IR 照明は最大で発光します。（昼でも常時点灯）
	画像左右反転	カメラ画像を左右反転します。
	画像反転	カメラ画像を上下反転します。
レンズ調整	最短撮影距離	フォーカスを合わせる最短距離を設定します。
	Digital Zoom	望遠側を最大 8 倍まで画像を大きくします。 （※：デジタルズームのため画質の劣化があります。）
	ズーム表示	画像の倍率を画面の左下に表示します。
	ズーム速度	ズーム速度を設定します。（未対応）
	スキャン速度	スキャン中の移動速度を設定します。（未対応）
	レンズの初期化	フォーカスの初期化を行います。フォーカスが合わないときに使います。 ※レンズの初期化を実行してもプリセットなどの設定は初期化されません。
	方位（北）設定	北 をクリックすると現在のカメラの向きを北として設定します。 方位角を表示したいとき、「4.2.3 **OSD**」で設定してください。北の場合：N と表示します。 ※画面の上下反転を ON にした場合、正常に表示できません。

➢ プロファイル管理

[プロファイル管理]タブを開き、昼間と夜の時間帯を指定します。



スケジュールの設定方法

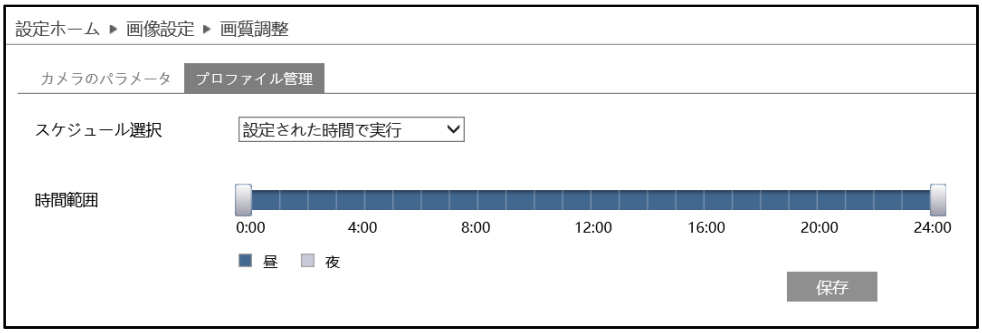
「24 時間連続」と「設定された時間で実行」が選択できます。

●**24 時間連続 :**撮影設定で「常時」または「自動」を選択します。

「常時」：カメラのパラメータ設定の「撮影設定：常時」で設定したパラメータで撮影します。

「自動」：カメラのパラメータ設定「撮影設定：昼または夜」で設定した昼と夜を自動で切り替えて撮影します。カメラのパラメータ設定「撮影設定：昼または夜」は、カメラのパラメータ設定の昼/夜モード切り替えと連動します。

●**設定された時間で実行**：カメラのパラメータ設定「撮影設定：昼または夜」で設定したパラメータを設定した時刻で切り替えて撮影します。

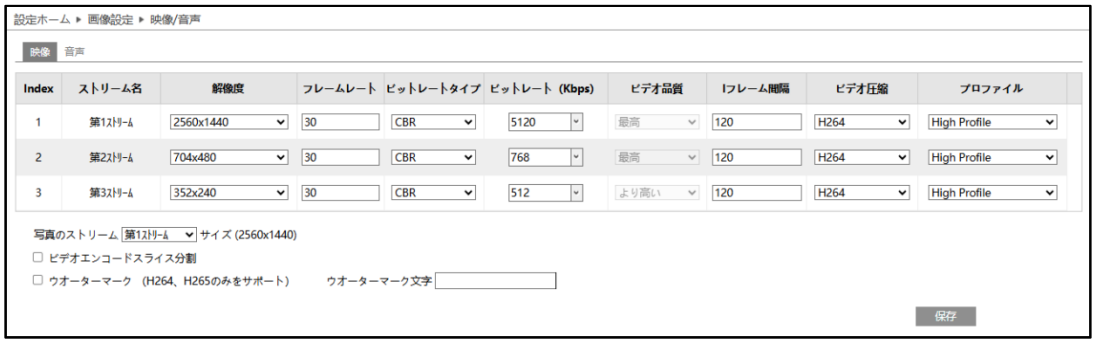


タイムライン上の“ ”をドラッグして昼間と夜の時間帯を設定します。 ブルーが昼間時間、グレーが夜時間を表します。

設定が完了したら保存します。

4.2.2 映像/音声

映像、音声の IP ストリーム(圧縮方式や解像度、フレーム数、ビットレートなど)を設定します。



➢ 映像

[映像]タブを開き、第 1/第 2/第 3 ストリームの解像度やフレームレートなどをそれぞれ設定します。

表示	説明
解像度	カメラ画像の表示解像度を設定します。
フレームレート	フレームレートを設定します。（範囲 1 ～30 フレーム：映像周波数 60Hz の場合）フレームレートが高いほど、映像は滑らかになります。
ビットレートタイプ	VBR または CBR から選択します。 VBR：可変ビットレート / CBR：固定ビットレート
ビットレート（Kbps）	CBR を選択した場合、ビットレート設定ができます。 ビットレートが高いほど、画質が向上しますが、データサイズは大きくなります。
ビデオ品質	VBR を選択した場合、ビデオ品質設定ができます。 品質が高いほど、ビットレートは高くなり、データサイズも大きくなります。 CBR の適切なビットレート値が分からないときは VBR を選択します。
I-フレーム間隔	I-フレームの送信間隔を設定します。I フレーム間隔の時間は、I フレーム間隔÷fps です。
ビデオ圧縮	H.264 / H.265 / H.264+ / H.265+ / MJPG からビデオの圧縮方式を選択します。
プロファイル	H.264 / H.264+を選択した場合、プロファイルを選択します。
写真のストリーム	イベント発生時に送信する、写真のサイズ（解像度）を選択します。
ビデオエンコードスライス分割	ビデオエンコードスライス分割にチェックを入れ、有効にします。 この機能を有効にすると、低性能の PC を使用しても滑らかな画像を得ることができます。
ウォーターマーク	ウォーターマークにチェックを入れ、有効にします。

	ウォーターマーク符号に透かしテキストを入力します。検索画面で、ローカルに記録されたビデオを再生する時にウォーターマークを表示できます。

➢ 音声

[音声]タブを開き、音声圧縮方式や音声入出力レベルを設定します。



表示	説明
有効	音声出力を有効にする場合はチェックを入れます。
音声形式	音声圧縮方式を選択します。（G.711A または G.711U）
音声タイプ	内蔵 MIC と外部 LINE 入力を選択します。
MIC ボリューム	MIC（外部音声入力）の音量を設定します。
音声出力音量	外部音声出力の音量を設定します。

★お知らせ★

RTMP 機能を使用して YouTube Live へ配信する場合は、必ず音声を有効にする必要があります。また、音声圧縮形式は G.711A を選択してください。

また、無音で配信する場合は、LIN ボリュームを 0 に設定してください。0 に設定してもノイズが聞こえる場合は、一度有効のチェックを外して保存し、再び有効をチェックして保存すると反映されます。

4.2.3 OSD

OSD（On Screen Display）に関する設定を行います。



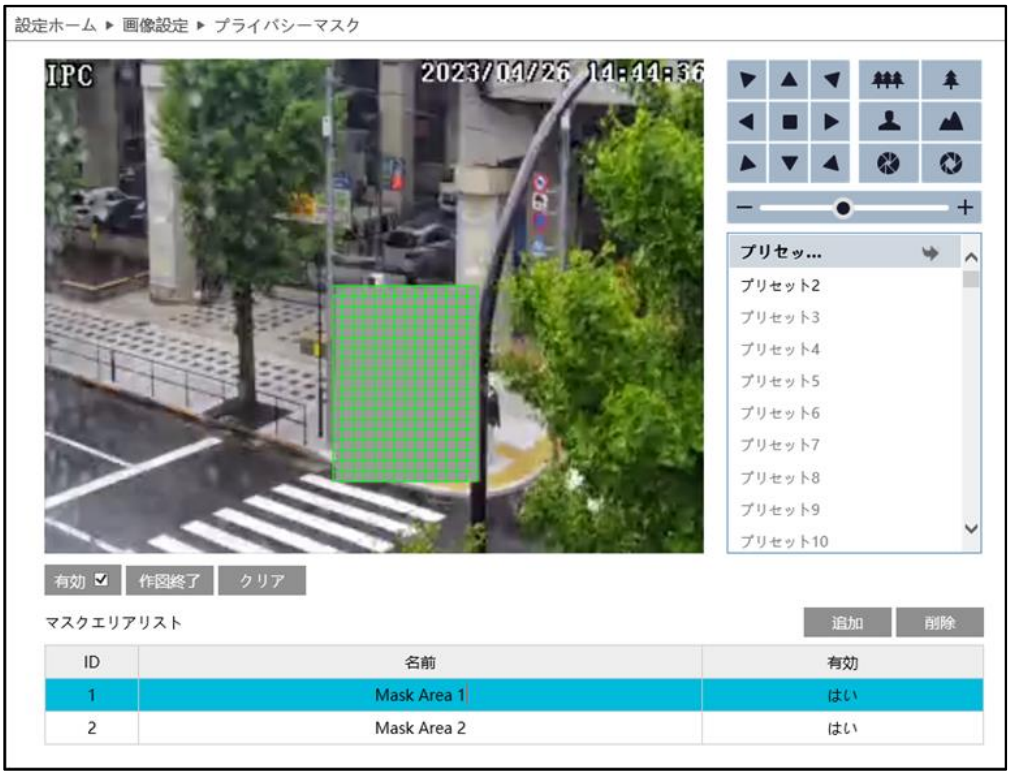
表示	説明
日付形式	[日付時刻を画面表示する]にチェックを入れ、画面表示を有効にします。 表示形式を選択します。ディスプレイ上に赤枠でタイムスタンプを表示します。赤枠はドラッグして位置を変更できます。(時間は最後尾に表示します。) 《 YYYY：年、 MM：月、 DD：日 を表します 》
デバイス名	[デバイス名を画面表示する]にチェックを入れ、画面表示を有効にします。 デバイス名を入力すると、ディスプレイ上に赤枠でデバイス名を表示します。赤枠はドラッグして位置を変更できます。 ここで変更したデバイス名は、「4.1.1 **基本情報**」にも反映されます。
デバイスステータス言語	ステータスを表示する言語を選択します。英語または中国語から選択します。
方位角を表示	チェックすると、方位角を N,E,S,W などで表示します。 方位角は、事前に「4.2.1 **画質調整**」で北を設定する必要があります。
実行ステータス表示	実行ステータスを表示する場合は、チェックします。

追加 OSD	チェックを入れ、追加 OSD または写真オーバーレイを有効にします。 ・ 追加 OSD を選択した場合、文字列を入力するとディスプレイ上に表示されるので、ドラッグして位置を変更します。 [1 行追加]にチェックを入れると、文字列をもう 1 行追加できます。 ・ 写真オーバーレイを選択した場合、ロゴや文字などの画像を表示することができます。保存先変更から画像を指定し、アップロードをクリックします。表示できる画像のサイズは縦 X 横が 200 ピクセル以下です。

注意
OSD に使用する文字は英数字を使用してください。
日本語を入力すると文字バケや欠落が発生します。

4.2.4　プライバシーマスク

プライバシーマスクに関する設定を行います。プライバシーマスクは最大 8 か所に設定できます。



プライバシーマスクの設定

① 事前にプリセットを登録しておきます。

② [有効]にチェックを入れ、プライバシーマスクを有効にします。

③ マスクを設定したいプリセットを選択したあと、[エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でマウスを左クリックしながらドラッグしてプライバシーマスクを描画します。追加をクリックしてプライバシーマスクを保存します。同じプリセット位置にも複数のマスクが設定できます。別のプリセットに設定することもできます。プライバシーマスクは最大 8 か所まで設定できます。

④ [作図終了]をクリックすると、プライバシーマスクの描画を終了します。

⑤ [クリア]をクリックすると選択したプライバシーマスクを削除します。

⑥ プライバシーマスクを削除するときは、マスクエリアリストから削除したい行を選択して削除をクリックします。

プライバシーマスク機能は、プライバシーマスクを設定したプリセット位置でご使用ください。

4.3 PTZ コントロール

PTZ 設定、PTZ 設定の復元、PTZ 機能などのサブメニューがあります。

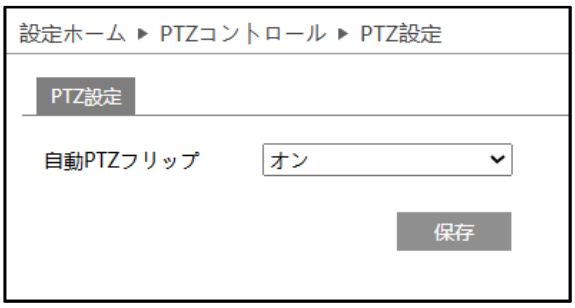


4.3.1 PTZ 設定

カメラの PTZ 機能でチルト操作をしたとき自動で画像を反転させることができます。

➢ PTZ 設定

[PTZ 設定]タブを開き、PTZ の設定をします。



表示	説明
自動 PTZ フリップ	カメラの上下を自動で反転させます。（初期値：オン）
保存	設定を保存します。

4.3.2　PTZ 設定の復元（工場メンテナンス用）

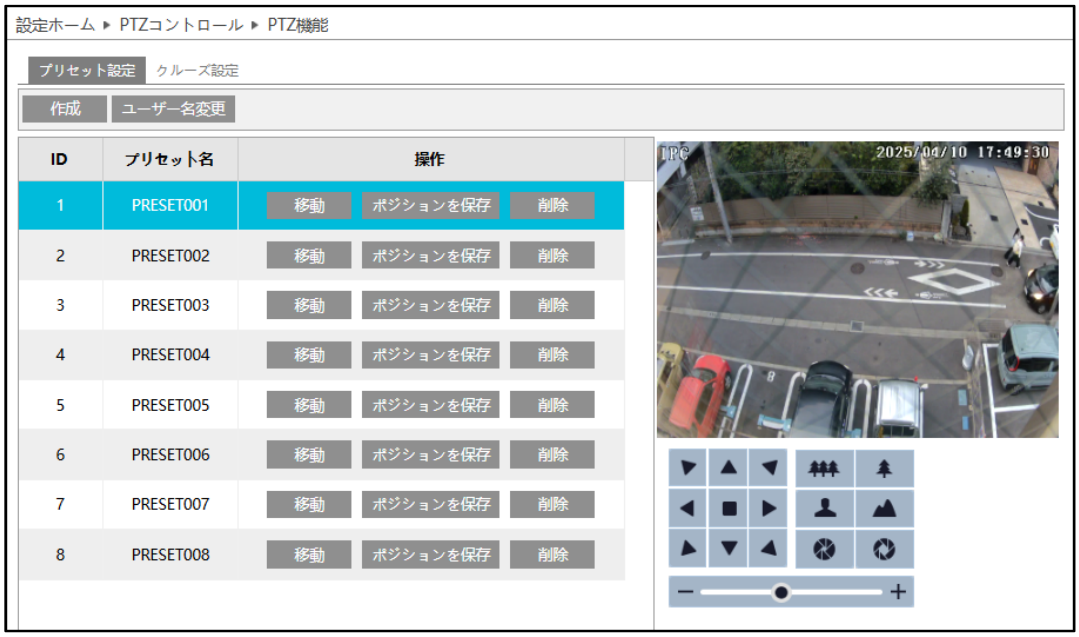
PTZ カメラの設定情報をリセットします。
※カメラ設定メニュー表示に関する設定です。工場メンテナンスで使用します。



表示	説明
リセット	PTZ 設定で設定した項目を初期化します。 PTZ 機能で設定したプリセットなどは削除しません。
クリア	PTZ 設定および PTZ 機能で設定したすべての項目を初期化します。

4.3.3 PTZ 機能

プリセット設定、クルーズ設定２つの設定を行います。



右側映像の操作アイコン

アイコン	説明	アイコン	説明
	カメラの向きを左上へ移動		カメラの向きを右上へ移動
	カメラの向きを上へ移動		カメラの向きを下へ移動
	カメラの向きを左へ移動		カメラの向きを右へ移動
	カメラの向きを左下へ移動		カメラの向きを右下へ移動
	カメラの移動を停止		移動速度調整
	ズームアウト（広角）		ズームイン（望遠）
	フォーカス近く		フォーカス遠く
	絞り＋		絞り－

➢ プリセット設定

カメラ位置を設定します。

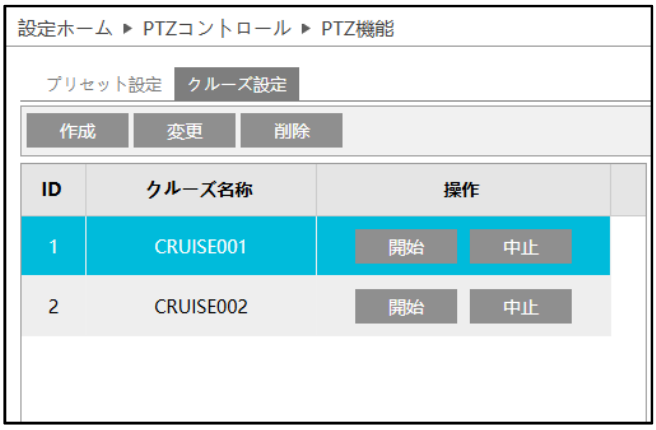


表示	説明
作成	新しいプリセットを作成します。クリックするとプリセット名を入力するウィンドウが表示さます。プリセット名を入力して[OK]をクリックすると、現在のカメラの向きで登録されます。
ユーザ名変更	プリセット名を変更します。
移動	保存してあるプリセット位置を呼び出してカメラの向きを移動します。
ポジションを保存	現在のカメラの向きでプリセットを保存します。
削除	選択したプリセットを削除します。

➢ クルーズ設定

PTZ のクルーズ設定を行います。

プリセットされた方向に指定された時間留まってカメラの向きを移動していきます。



表示	説明
作成	新しいクルーズを作成します。 クルーズ名称の設定と事前に登録したプリセット、滞在時間を選択して、登録します。
変更	クルーズ内容を変更します。
削除	選択したクルーズを削除します。
開始	クルーズを開始します。
中止	クルーズを終了します。

作成方法

(1) [作成]をクリックします。



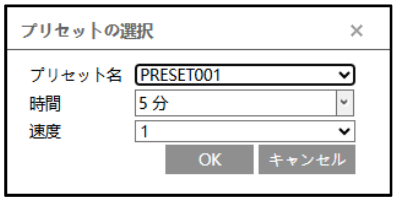
(2) クルーズ名称を入力します。

(3) [プリセットを追加]をクリックして、登録済みのプリセットと滞在時間を選択して[OK]をクリックします。

(4) 変更したい ID を選択してから[変更]をクリックすると、プリセットと滞在時間を変更できます。

(5) 削除したい ID を選択してから[削除]をクリックすると、リストから 1 行削除できます。

(6) [OK]をクリックして、登録します。



クルーズ設定を作成するとき、プリセットを使用するため、事前にプリセット設定を行う必要があります。

滞在時間を短く設定することは故障の原因となるため、お勧めできません。

4.4 アラーム設定

モーション検出、異常、アラーム入力、アラーム接点出力、アラームサーバ、Smart Tracking などのサブメニューがあります。

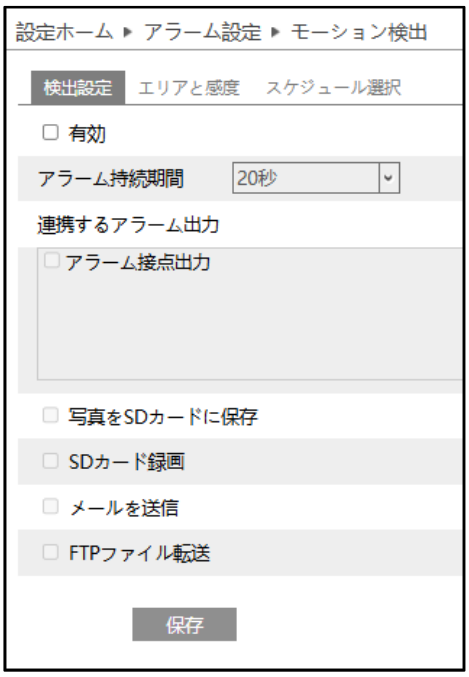


4.4.1　モーション検出

モーション検出は、画像の中の動きを検出して通知する機能です。エリア設定や感度、連携アラーム、スケジュールを設定します。

➢　検出設定

[検出設定]タブを開き、モーション検出のアラームを設定します。



表示	説明
有効	モーション検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効である場合、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 モーションを検出すると、アイコン は赤く点滅します。
アラーム持続期間	モーションアラームの持続時間を設定します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコン が赤く点滅しています。 3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	モーション検出では、以下の 5 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、4.4.1 項の連携するアラーム出力を参照してください。
保存	設定を保存します。

■連携するアラーム出力■

連携するアラーム出力は、「4.4.3 アラーム入力」と「4.5 イベント設定」の各種検知機能との共通設定項目です。

◆ アラーム接点出力

[アラーム接点出力]にチェックを入れると、カメラに接続している外部リレー出力がトリガーされます。
アラーム出力に関する設定は、「4.4.4 **アラーム接点出力**」で行う必要があります。

◆ Trigger Track

[Trigger Track]にチェックを入れると、イベントを検出したときにカメラが自動追尾します。
Trigger Track に関する設定は、「4.4.6 **Smart Tracking**」で行う必要があります。

◆ 写真を SD カードに保存

チェックを入れると、検出時に画像をキャプチャし SD カードに保存します。
キャプチャ画像の解像度は「4.2.2 **映像/音声**」の写真のストリームで設定します。
SD カードへの画像保存に関する設定は、「4.1.4 **ストレージ**」の「写真撮影」で行う必要があります。

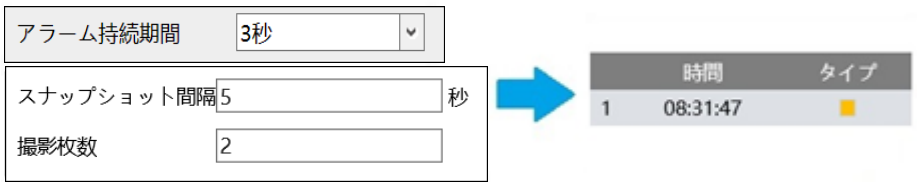
SD カードへのスナップショット保存例

[例 1] アラーム持続期間：20 秒、スナップショット間隔：5 秒、撮影枚数：3 枚の場合
→ イベント発生時に 1 枚、その後 5 秒間隔で 1 枚ずつ撮影され、計 3 枚(最大)のスナップショットが保存されます。



※ここでは、イベント発生時、発生から 5 秒後、10 秒後のスナップショットを保存。

[例 2] アラーム持続期間：3 秒、スナップショット間隔：5 秒、撮影枚数：2 枚の場合
→ イベント発生時に 1 枚、アラーム持続期間が 3 秒で終了したため、5 秒後のスナップショットは撮影されず、発生時の 1 枚のみ保存されます。



※アラーム持続期間が終了した時点で、それ以降のスナップショットは保存されません。

◆ SD カード録画

チェックを入れると、検出時のビデオが SD カードに保存されます。

SD カードへの録画に関する設定は、「4.1.4 **ストレージ**」の「録画」で行う必要があります。

◆ メールを送信

[メールを送信]にチェックを入れると、E メールによる通知が有効になります。

通知メールの送信先をリストから選択し、メールの件名と内容を入力します。検出時の写真を添付する場合は[写真添付]にチェックを入れます。



E メール通知の送受信に関する設定は、「4.6.11 **Email**」で事前に行う必要があります。

◆ FTP ファイル転送

[FTP ファイル転送]にチェックを入れると、FTP サーバへのファイル転送が有効になります。
FTP サーバをリストから選択し、検出時の写真を添付する場合は[写真添付]にチェックを入れます。



FTP サーバに関する設定は、「4.6.12 **FTP**」で事前に行う必要があります。

テキストファイルとスナップショットは、《 指定フォルダ > MAC アドレス > イベント名 > 日付 > 時間 》に保存されます。



(1) 写真添付なしの場合

イベント発生時に、イベントの内容がテキストファイルで転送されます。

(2) 写真添付ありの場合

イベント発生時に、テキストファイルとスナップショット 1 枚が転送されます。アラーム持続期間(5 秒)が経過後、スナップショット 1 枚が転送されます。



(3)イベント発生時間がアラーム持続期間を超える場合

イベント発生時に、テキストファイルとスナップショット 1 枚が転送されます。アラーム持続期間を経過するごとにスナップショット 1 枚が転送されます。

[例] イベント発生時間：25 秒、アラーム持続期間：10 秒の場合

イベント発生時に「テキストファイル」と「スナップショット 1 枚」、

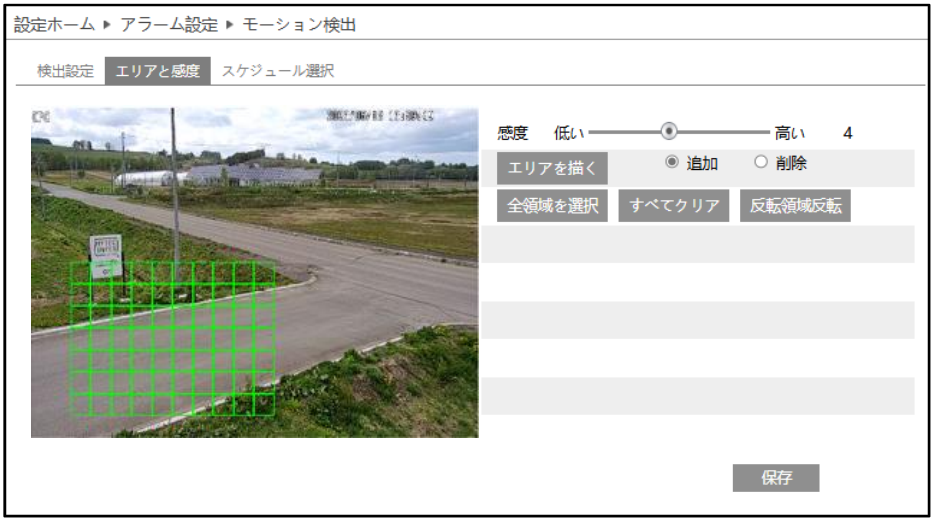
1・2 回目のアラーム持続期間経過後に「スナップショット 1 枚ずつ(計 2 枚)」、

3 回目のアラームの途中でイベントが終了し、アラーム持続期間経過後に「最後のスナップショット 1 枚」



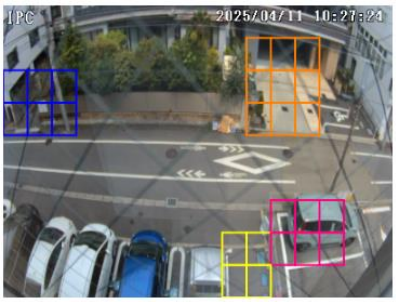
➢ エリアと感度

[エリアと感度]タブを開き、モーション検出エリアと感度を設定します。



<u>モーション検出エリアの設定</u>

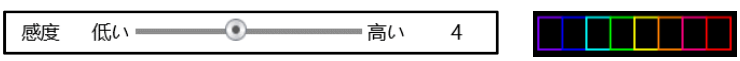
（１） エリアを描く をクリックし、[追加]を選択してディスプレイ上でマウスをドラッグすると検出エリアを描画できます。[削除]を選択して検出エリア上でマウスをドラッグすると、検出エリアを一部分消去できます。検出エリアの色は感度により異なります。感度１(紫)、感度２(青)、感度３(水色)、感度４(緑)、感度５(黄)、感度６(橙)、感度 7(桃)、感度 8(赤)



（２） 作図終了 をクリックすると、検出エリアの描画を終了します。

（３） 全領域を選択 をクリックすると、全領域が検出エリアとなります。 すべてクリア をクリックすると、検出エリアがすべて削除されます。 反転領域反転 をクリックすると、検出エリアと未検出エリアが反転します。

（４） 感度を設定します。数値が大きいほど感度は高くなります。



（５） 保存 をクリックし、検出エリアを保存します。

➢ スケジュール選択

[スケジュール選択]タブを開き、モーション検出のスケジュールを設定します。



スケジュールの設定方法

◆ 一週間の日程

日曜日～土曜日の一週間のスケジュールを設定します。

削除　　：モーション検出を無効にする時間帯を、タイムライン上でクリックまたはドラッグします。(白)

追加　　：モーション検出を有効にする時間帯を、タイムライン上でクリックまたはドラッグします。(緑)

手動入力：[削除]または[追加]を選択してから、タイムライン右下の[手動入力]をクリックし、時間帯を設定します。

◆ 休日設定とスケジュール

日付を指定してスケジュールを設定します。

日付を指定し、[＋]をクリックします。その後、タイムラインでスケジュールを設定して保存します。

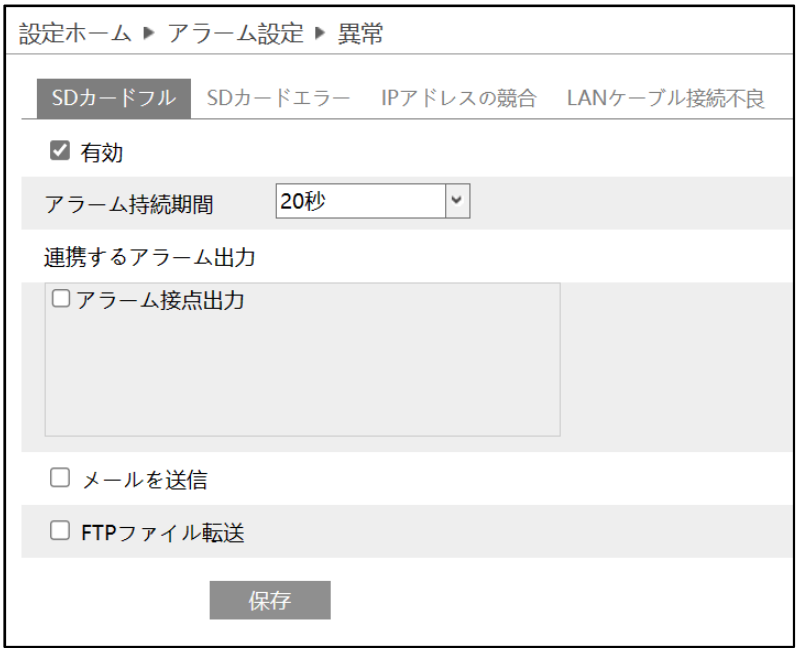
削除するときは、日付を選択してから[―]をクリックします。

4.4.2 異常

異常アラーム関連のパラメータ、連動アラームを設定します。

➢ SD カードフル

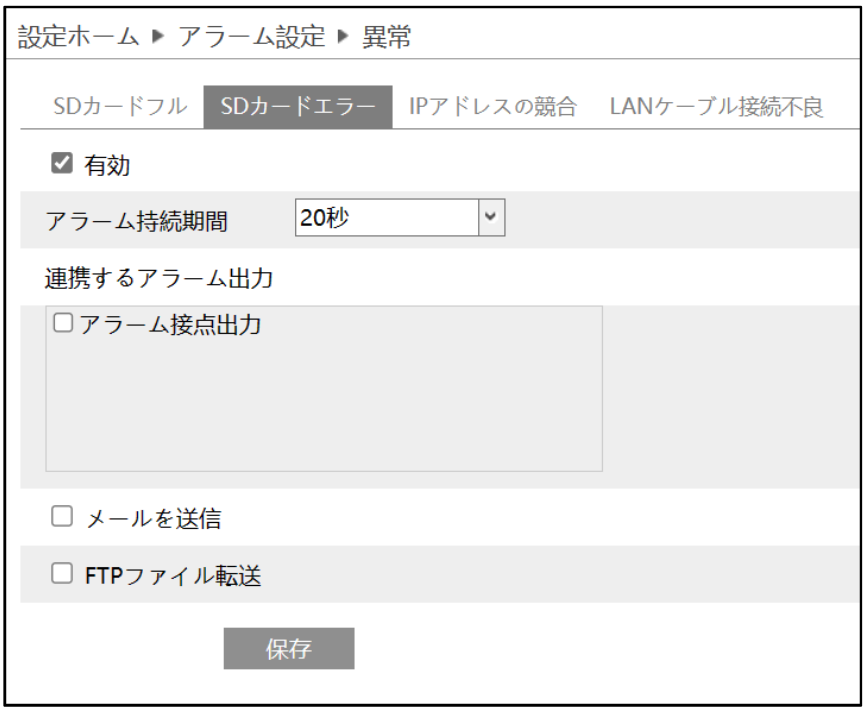
[SD カードフル]タブを開き、SD カードの容量が一杯になったときのアラームを設定します。



表示	説明
有効	SD カードの容量が一杯になったときに通知する場合は、チェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	SD カードフルでは、以下の 3 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、4.4.1 項の連携するアラーム出力を参照してください。
保存	設定を保存します。

➢ SD カードエラー

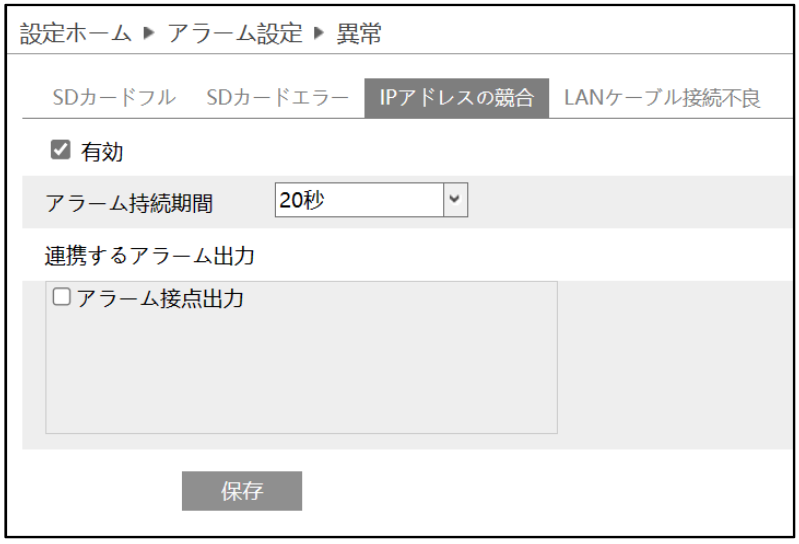
[SD カードエラー]タブを開き、SD カードへの書き込みにエラーが生じたときのアラームを設定します。



表示	説明
有効	SD カードへの書き込みにエラーがあること通知する場合は、チェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	SD カードエラーでは、以下の 3 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、4.4.1 項の連携するアラーム出力を参照してください。
保存	設定を保存します。

➢ IP アドレス競合

[IP アドレスの競合]タブを開き、IP アドレスが競合したときのアラームを設定します。



表示	説明
有効	IP アドレスの競合を検出されたとき通知する場合は、チェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	IP アドレスの競合エラーでは、以下のアラームを設定できます。 アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、4.4.1 項の連携するアラーム出力を参照してください。
保存	設定を保存します。

➢ LAN ケーブル接続不良

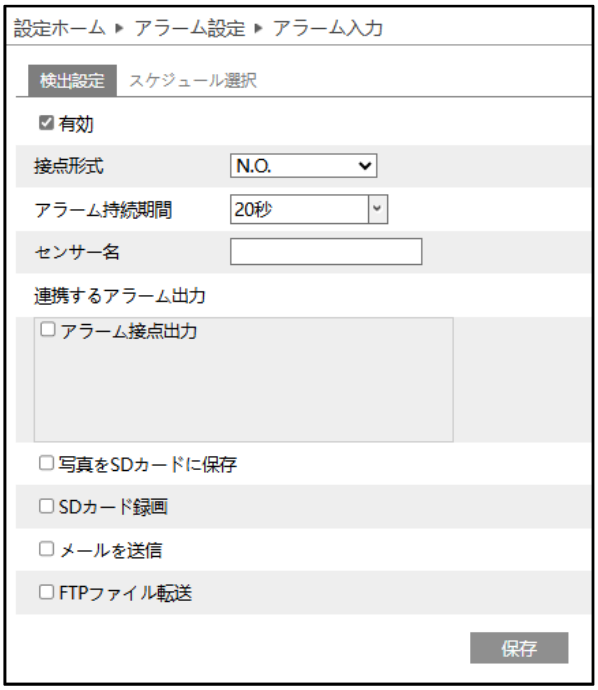
[LAN ケーブル接続不良]タブを開き、ネットワーク接続にエラーが生じたときのアラームを設定します。



表示	説明
有効	LAN ケーブル接続不良を通知する場合は、チェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	LAN ケーブルの接続不良では、以下のアラームを設定できます。 アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、4.4.1 項の連携するアラーム出力を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.4.3　アラーム入力

センサーアラームの関連パラメータ、連動アラームを設定します。



表示	説明
有効	アラーム入力があるときに通知する場合は、チェックを入れます。
接点形式	接点形式を選択します。 N.O.：A 接点。通常＝OFF　　N.C.：B 接点。通常＝ON
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
センサー名	表示するセンサー名を設定します。　<> などの文字は使用できません。
連携するアラーム出力	アラーム入力では、以下の 5 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、4.4.1 項の連携するアラーム出力を参照してください。
保存	設定を保存します。

➢　スケジュール選択

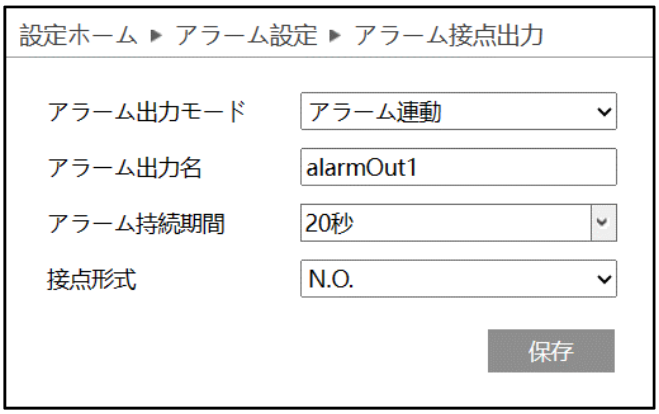
[スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力とイベントの各種検知機能での共通設定項目です。、4.4.1 項　モーション検知の「スケジュール選択」を参照してください。

4.4.4　アラーム接点出力

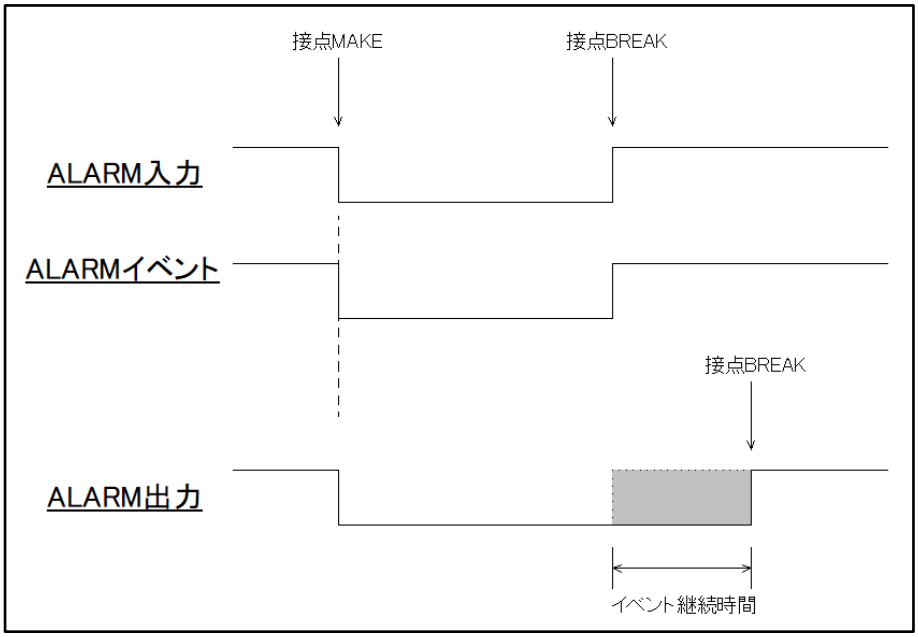
センサーアラームの出力についての関連パラメータを設定します。次の 4 つのアラーム出力モードから選択します。アラーム連動、手動操作、昼/夜の切替えとの連動、設定された時間で実行。

➢　アラーム連動

イベントの検出(モーション検出やラインクロスなど)に連動して、アラームを出力します。
アラーム出力を行う場合、各イベントの設定で[アラーム接点出力]を有効にする必要があります。

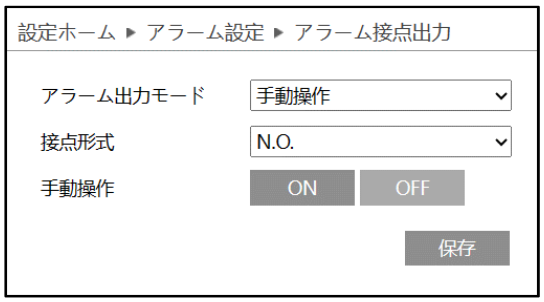


表示	説明
アラーム出力モード	アラーム連動を選択します。
アラーム出力名	アラーム出力名を設定します。 例：alarmOut1
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 イベントのアラーム持続時間が終了した後の、アラーム出力によるアラーム持続時間を設定します。 1 秒、2 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、35 秒、40 秒、45 秒、50 秒、55 秒、60 秒、2 分、常時から選択します。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O.：A 接点。通常＝OFF　　N.C.：B 接点。通常＝ON
保存	設定を保存します。



➢ 手動操作

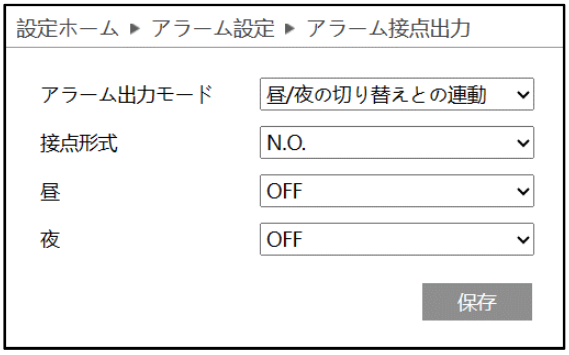
手動でアラーム接点出力の ON/OFF を操作します。



表示	説明
アラーム出力モード	手動操作を選択します。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O.：A 接点。通常＝OFF　　N.C.：B 接点。通常＝ON
手動操作	ON または OFF をクリックしてアラーム接点出力を操作します。
保存	設定を保存します。

➢ 昼/夜の切り替えとの連動

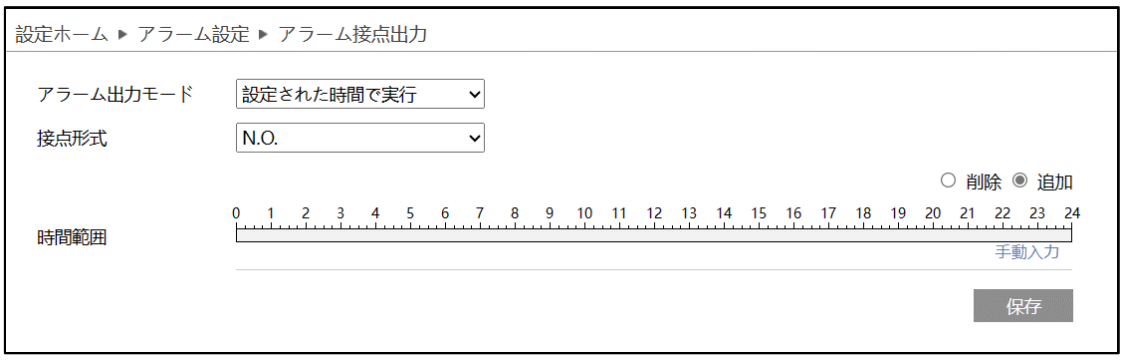
カメラが昼間モード⇔夜モードに切り替るのと連動して、アラーム接点出力を制御します。



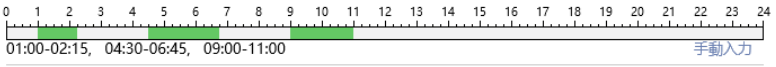
表示	説明
アラーム出力モード	昼/夜の切り替えとの連動を選択します。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O.：A 接点。通常＝OFF　　N.C.：B 接点。通常＝ON
昼	昼モードの時に、アラームを ON または OFF にするのか選択します。
夜	夜モードの時に、アラームを ON または OFF にするのか選択します。
保存	設定を保存します。

➢ 設定された時間で実行

指定した時間にアラームを ON にします。

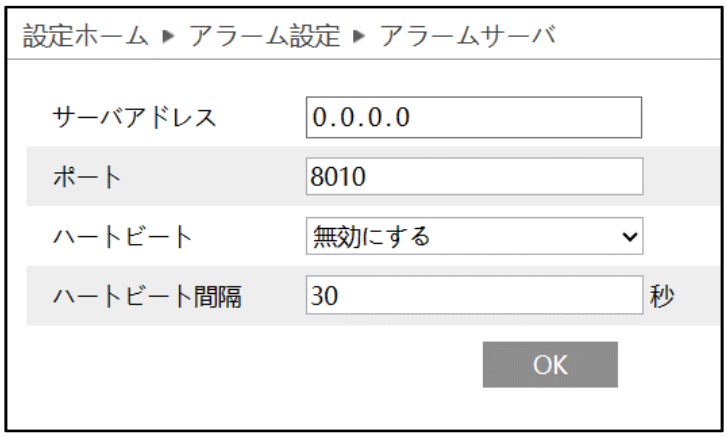


表示	説明
アラーム出力モード	設定された時間で実行を選択します。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O.：A 接点。通常＝OFF　　N.C.：B 接点。通常＝ON
時間範囲	緑ラインのときに、アラームが ON になります。

	削除(OFF)/追加(ON)を選択してから、[手動入力]をクリックして時間を指定するか、マウスをドラッグして時間を設定します。 
保存	設定を保存します。

4.4.5　アラームサーバ

サードパーティのアラームサーバにアラーム情報を送信する場合に、アラームサーバを設定します。アラームが発生すると、アラームイベントをアラームサーバに転送します。

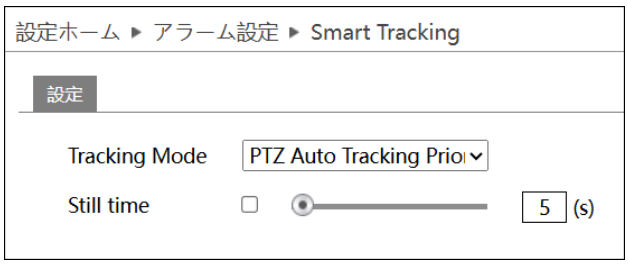


サーバアドレス、ポート、ハートビート、ハートビート間隔を設定します。アラームが発生すると、カメラはアラームイベントをアラームサーバに転送します。

アラームサーバが不要な場合は、この項を設定する必要はありません。

4.4.6 Smart Tracking

イベント機能のうち、ラインクロス、領域に入る、領域を出る、エリア侵入検知で、事前に設定した人や車両を検知すると、ターゲットが画面から消えるまで自動的にズームインして画面中央に表示します。ターゲットが画面から消えると追跡開始位置に戻ります。



表示	説明
Tracking Mode （追跡モード）	スマートトラッキング のモードを設定します。 ● PTZ Auto Tracking Priority ターゲット追跡中に手動で PTZ 操作をすることができません。 ● Manual PTZ Control Priority ターゲット追跡中に PTZ 操作をすることができます。手動で PTZ 操作すると、追跡を止めて 5 秒経過後に追跡開始位置に戻ります。
Still Time （静止時間）	追跡しているターゲットが静止するか、障害物に隠れて見えなくなった時に自動追尾を止めて追跡開始位置に戻る時間を設定します。

例：信号待ちなどで車が 30 秒間赤信号で止まっているとき、静止時間が 20 秒に設定されていると追跡を停止します。ただし、静止時間が 40 秒に設定されている場合は、赤信号が緑に変わり、車が動き始めると追跡を続けます。

自動追尾モードを有効にするには、PTZ 操作を無効（ロック）する必要があります。イベント設定のエリア設定メニューで「Lock(ロック)」をクリックして「Unlock(ロックを解除)」と表示させてから保存します。

自動追尾機能を使用する場合の、推奨設置高さは 2.5m です。



例：ラインクロスのメニュー画面

4.5　イベント設定

妨害検知、ラインクロス、領域に入る、領域を出る、エリア侵入検知などのサブメニューがあります。

注：複数の機能を同時に設定できません。



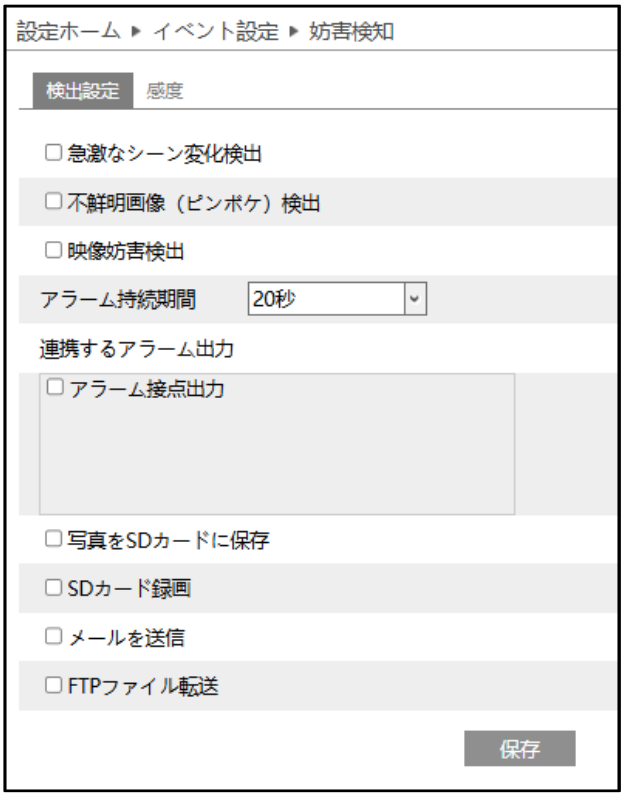
4.5.1　妨害検知

カメラへの妨害を検知します。

・急激なシーン変化検出→カメラの向きが急に変わる
・不鮮明画像（ピンボケ）検出
・映像妨害検出→色異常検出

➢　検出設定

[検出設定]タブを開き、妨害検知によるアラームを設定します。



表示	説明
急激なシーン変化検出	急激なシーン変化検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 カメラの向きが急に変わるなどを検出すると、アイコン は赤く点滅します。
不鮮明画像 （ピンボケ）検出	不鮮明画像検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 ピンボケなどを検出すると、アイコン は赤く点滅します。
映像妨害 （色異常）検出	妨害によって異常な色になったことを検出する場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 画像が異常な色であることを検出すると、アイコン は赤く点滅します。

アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	以下の 5 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、4.4.1 項の連携するアラーム出力を参照してください。
保存	設定を保存します。

➢ 感度

検出感度を設定します。



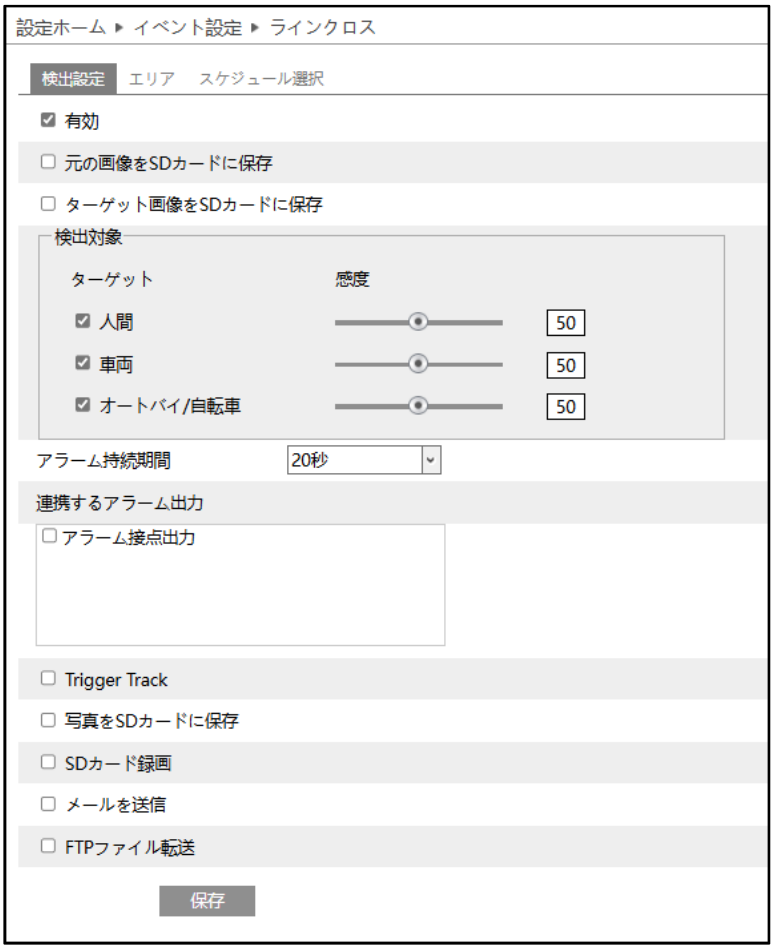
表示	説明
感度	妨害検知する感度を設定します。値が大きいほど感度は高くなります。 （設定範囲：１～１００）
保存	設定を保存します。

4.5.2　ラインクロス（ライン越え検知）

設定したラインを検出対象が指定方向に通過したことを検知します。

➢　検出設定

[検出設定]タブを開き、ラインクロスによるアラームを設定します。



表示	説明
有効	ラインクロスを有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 ラインクロスを検出すると、アイコン は赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	ラインクロス検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カード※2 に保存されます。
ターゲット画像を SD カードに保存	ラインクロスで検出した全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カード※2 に保存されます。

検出対象	ラインクロスを検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 通常時 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線 検出時 ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
連携するアラーム出力	以下の 6 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、Trigger Track、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、4.4.1 項の連携するアラーム出力を参照してください。
保存	設定を保存します。

※ 1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。**ブラウザにより機能がない場合があります。**

写真は、《 静止画保存のパス ＞ picture ＞ IP アドレス ＞ PEA ＞ 日付 》に保存されます。



※2 :SD カードに保存する場合は、4.4.1 項の連携するアラーム出力の「写真を SD カードに保存」にチェックを入れて有効にする必要があります。

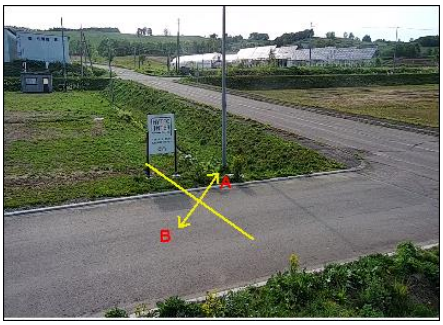
➢ エリア

[エリア]タブを開き、ラインクロスの検出エリアを設定します。



表示		説明
検出領域	検出ライン	検出ラインを選択します。検出ラインは最大 4 パターン設定できます。
	検出方向	設定した検出ラインを通過する方向を設定します。 A→B、B→A、A⇔B
PTZ アイコン群		検出ラインを描画する前にカメラの向きやズームを操作して適切な画角に設定します。
Lock／Unlock （ロック/ロックを解除）		トリガートラックを使用するときはロックしてください。 （トリガートラックを使用するときは Unlock 表示にします。）
エリアを描く/作図終了		検出ラインを画面上に描画します。
クリア		設定した検出ラインを削除します。
保存		設定を保存します。

ラインクロスのライン設定



① 検出ラインと検出方向を選択します。最大 4 つ設定できます。

② エリアを描く をクリックし、ディスプレイ上でドラッグし検出ラインを引きます。

③ 作図終了 をクリックすると、検出ラインの描画を終了します。

④ クリア をクリックすると、検出ラインが削除されます

⑤ 保存 をクリックし、検出ラインを保存します。

➢ スケジュール選択

[スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力とイベントの各種検知機能での共通設定項目です。4.4.1 項 モーション検知の「スケジュール選択」を参照してください。

■カメラとその周辺の設定条件■

1. 樹木の多いシーンや光の変化の多いシーン（ヘッドライトの点滅が多いなど）、また照度が低く、暗いシーンは避けてください。
2. カメラは 2.8 メートル以上の高さに設置してください。
3. カメラの推奨俯角は 30°～45°です。
   歩行者の場合、頭部と胴体がはっきりと映像に映るようにカメラの向きを調整してください。

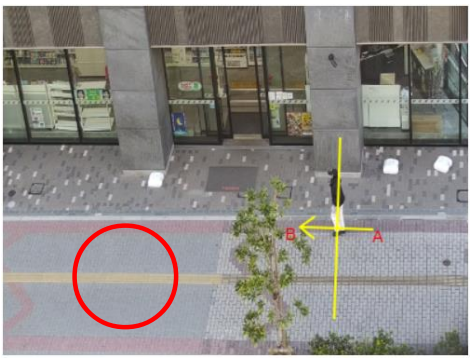


車両の場合は、下図のような正面や横から撮影してください。上からの撮影アングルは避けてください。



4. 正確な検出のためには、ターゲットは検出ラインを超える、または検出領域に侵入する前に、少なくとも 2 秒間画面に映っていること。例えば、右端にラインを設定し、右から侵入するような設定は避けてください。



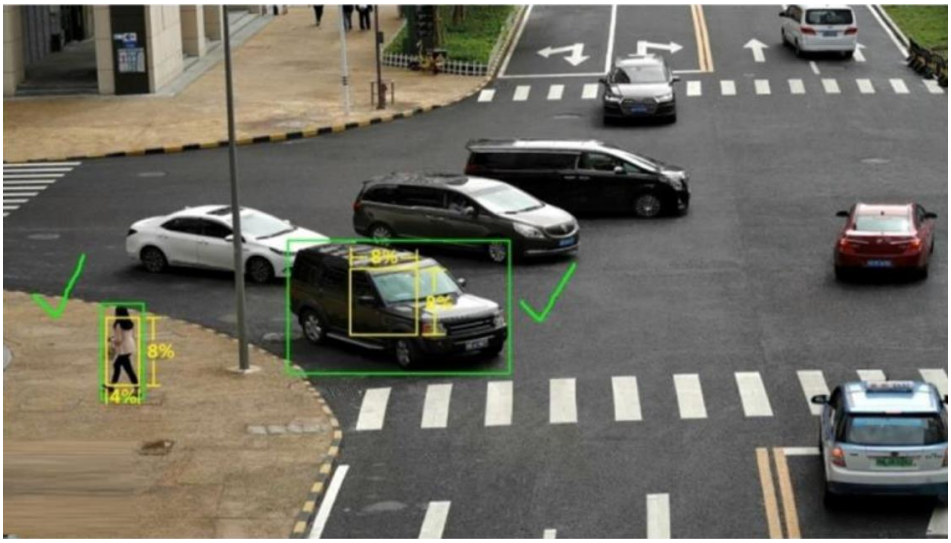


5. 十分な明るさがあり、シンプルな背景画像であること。
6. 次のターゲット認識サイズに合わせて、カメラの設置位置や ZOOM を調整してください。

推奨ターゲット認識サイズ

	人間	自動車	バイク/自転車
最小(幅 X 高さ)	4% X 8%	8% X 8%	4% X 4%
最大(幅 X 高さ)	50% X 50%	50% X 50%	50% X 50%

注：パーセンテージは、ターゲットが画像全体に占める割合を意味します。



上の写真が、画面に対する最小認識サイズの要件を満たした設定例です。
黄色の枠が最小認識サイズの設定です。緑の枠はターゲットのサイズを示しています。
黄色の枠より緑の枠の方が大きいため、最小認識サイズの要件を満足しています。



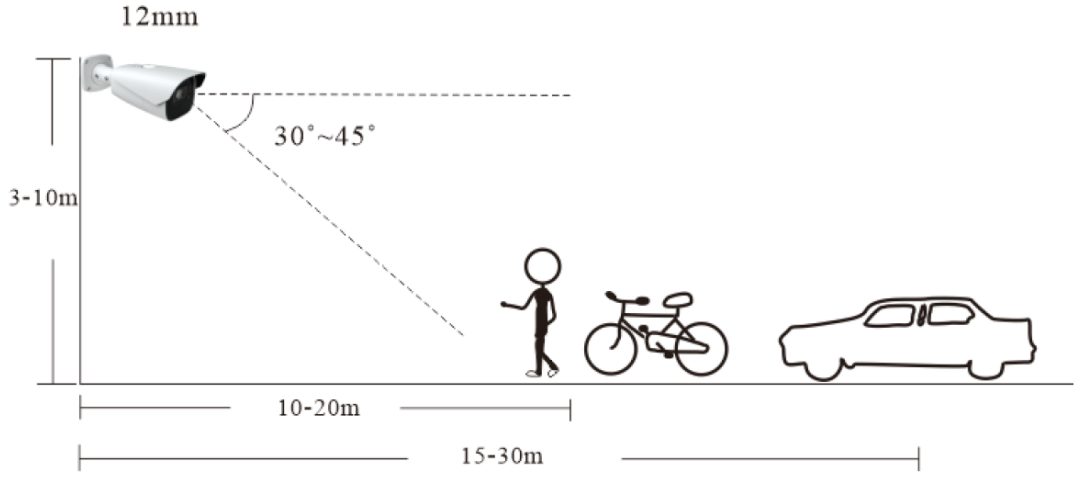
上の写真では、緑の枠より黄色の枠の方が大きく、最小認識サイズの要件を満たしていません。
カメラの設置位置を被写体に近づけるか、ZOOM を調整する必要があります。

7. 設置方法

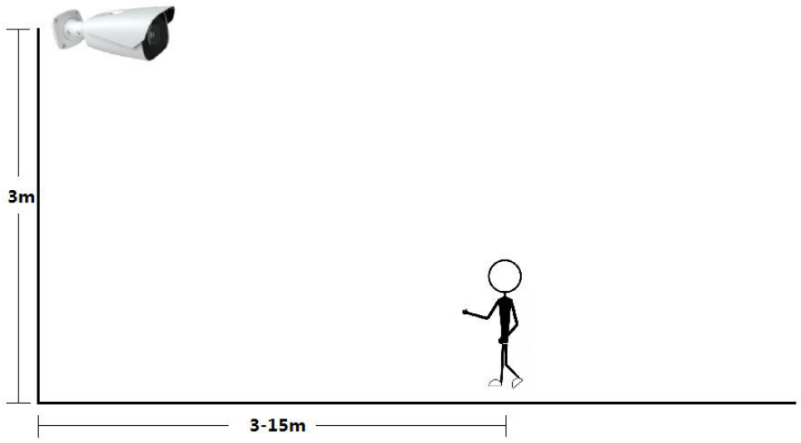
屋外設置：検出対象までの最適な距離は、レンズの焦点距離により異なります。以下の表を参照してください。

焦点距離	設置高さ(m)	人間/バイク/自転車		自動車	
		最長距離(m)	推奨距離(m)	最長距離(m)	推奨距離(m)
2.8mm	3-10	8	4-8	15	10-15
3.6mm	3-10	10	5-10	20	15-20
12mm	3-10	25	10-20	35	15-30
22mm	3-10	45	30-40	70	20-50

焦点距離＝12mm の場合



屋内設置：天井高さ＝3m 程度を想定すると、検出対象までの距離は 3～15mです。



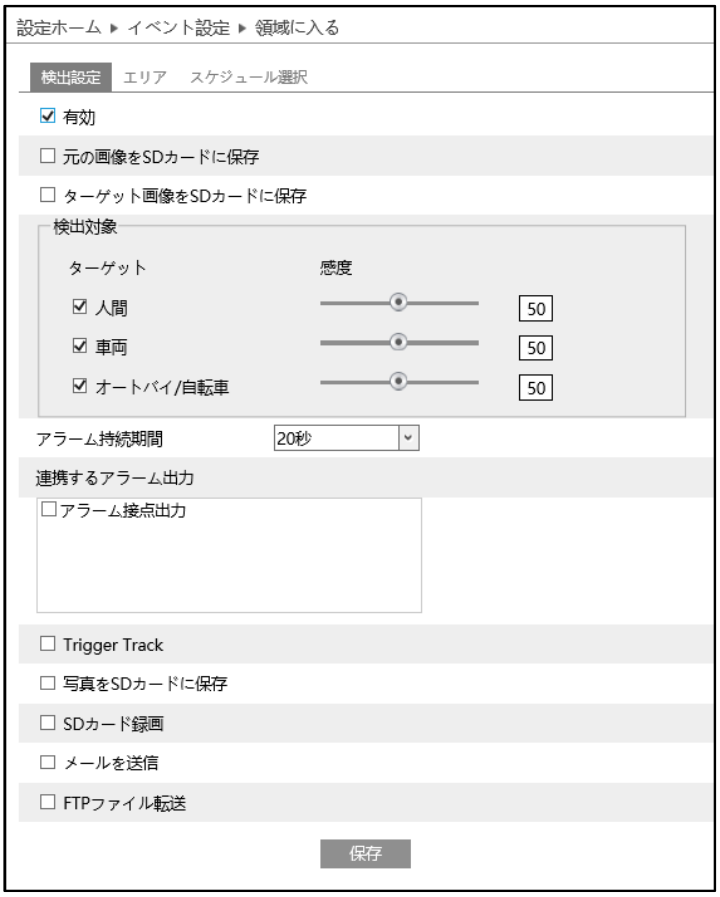
4.5.3　領域に入る（エリア侵入検知）

指定したエリアに侵入する人や車両を検出します。検出のタイミングは、検出エリアを囲む線を、エリアの内側方向に跨いだ時です。

※設定したエリアの枠を跨ぐとき検出します。設定したエリアに入ってしまった後は検出しません。

➢　検出設定

[検出設定]タブを開き、指定領域に入ったときのアラームを設定します。



表示	説明
有効	領域侵入による検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 領域侵入を検出すると、アイコン は赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	領域侵入を検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カード※2 に保存されます。
ターゲット画像を SD カードに保存	領域侵入を検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カード※2 に保存されます。

検出対象	領域侵入を検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 通常時 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定した枠：青色枠 検出時 ターゲット：黄色枠 侵入エリア：赤色枠
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
連携するアラーム出力	以下の 6 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、Trigger Track、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、4.4.1 項の連携するアラーム出力を参照してください。
保存	設定を保存します。

※ 1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。**ブラウザにより機能がない場合があります。**

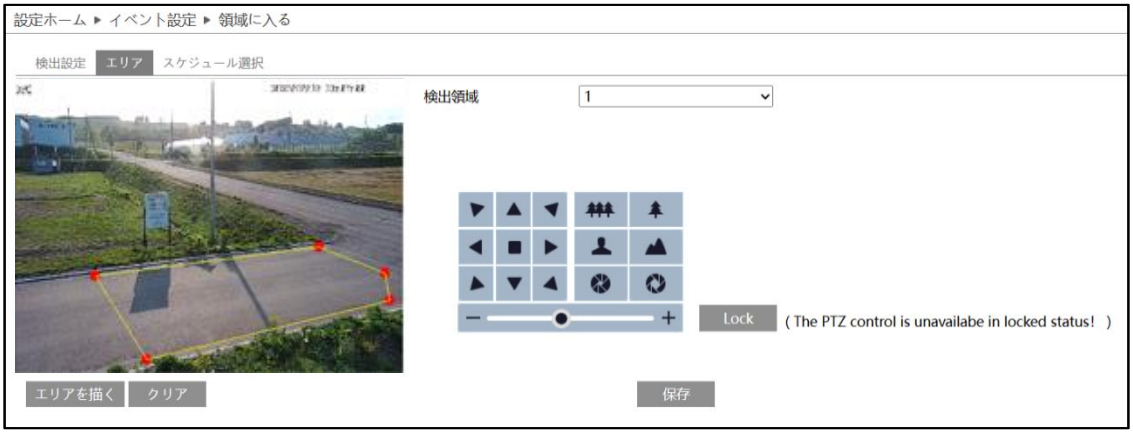
写真は、《 静止画保存のパス ＞ picture ＞ IP アドレス ＞ PEA ＞ 日付 》に保存されます。



※2 :SD カードに保存する場合は、4.4.1 項の連携するアラーム出力の「写真を SD カードに保存」にチェックを入れて有効にする必要があります。

➢ エリア

[エリア]タブを開き、領域侵入の検出エリアを描画します。



表示	説明
検出領域	検出領域を選択します。検出領域は最大 4 パターン設定できます。
PTZ アイコン群	検出エリアを描画する前にカメラの向きやズームを操作して適切な画角に設定します。
Lock／Unlock （ロック/ロックを解除）	トリガートラックを使用するときはロックしてください。 （トリガートラックを使用するときは Unlock 表示にします。）
エリアを描く/作図終了	検出エリアを画面上に描画します。 マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように 4 ～ 6 ポイントをクリックします。
クリア	設定した検出エリアを削除します。
保存	設定を保存します。

<u>領域に入る　エリア設定</u>



① 検出領域を選択します。最大 4 つ設定できます。

② エリアを描く をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4～6 カ所置き、線で繋ぎ領域侵入エリアを作成します。

③ 作図終了 をクリックすると、検出エリアの描画を終了します。

④ クリア をクリックすると、検出エリアが削除されます。

⑤ 保存 をクリックし、検出エリアを保存します。

■カメラとその周辺の設定条件■

4.5.2 項 ラインクロスの、カメラとその周辺の設定条件を参照してください。

- スケジュール選択

  [スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力とイベントの各種検知機能での共通設定項目です。

  4.4.1 項 モーション検知の「スケジュール選択」を参照してください。

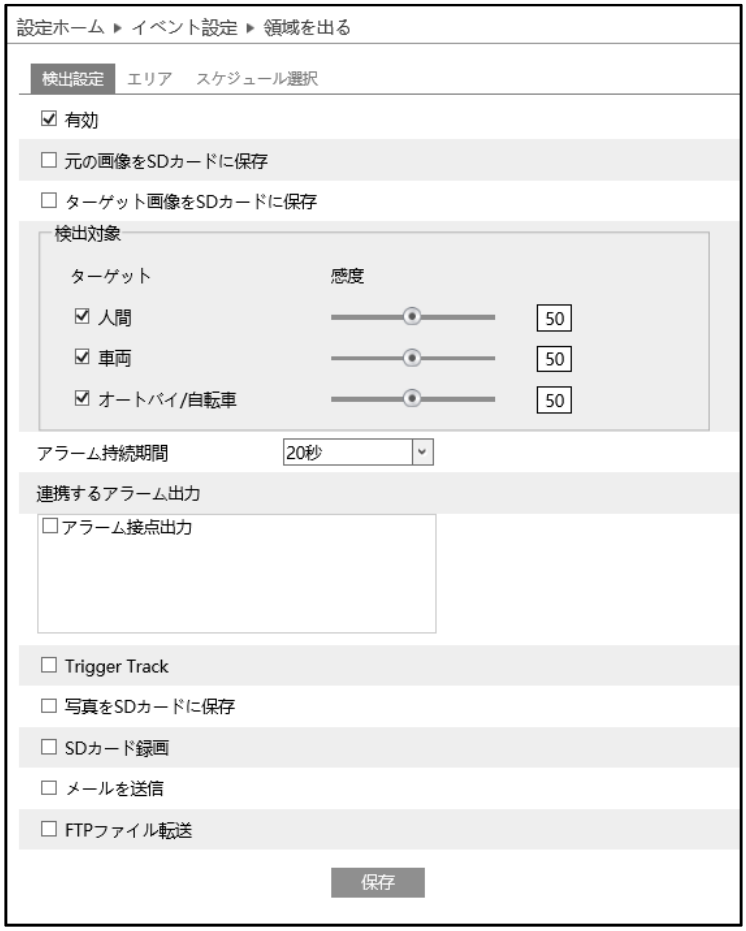
4.5.4　領域を出る（エリア退出検知）

指定したエリアから退出する人や車両を検出します。検出のタイミングは、検出エリアを囲む線を、エリアの外側方向に跨いだ時です。

※設定したエリアの枠を跨ぐとき検出します。設定したエリアから出てしまった後は検出しません。

➢　検出設定

[検出設定]タブを開き、指定領域から出るときのアラームを設定します。



表示	説明
有効	領域退出による検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 領域退出を検出すると、アイコン は赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	領域退出を検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カード※2 に保存されます。
ターゲット画像を SD カードに保存	領域退出を検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カード※2 に保存されます。

検出対象	領域退出を検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 通常時 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定した枠：青色枠 検出時 ターゲット：黄色枠 侵入エリア：赤色枠
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
連携するアラーム出力	以下の 6 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、Trigger Track、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、4.4.1 項の連携するアラーム出力を参照してください。
保存	設定を保存します。

※ 1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。**ブラウザにより機能がない場合があります。**

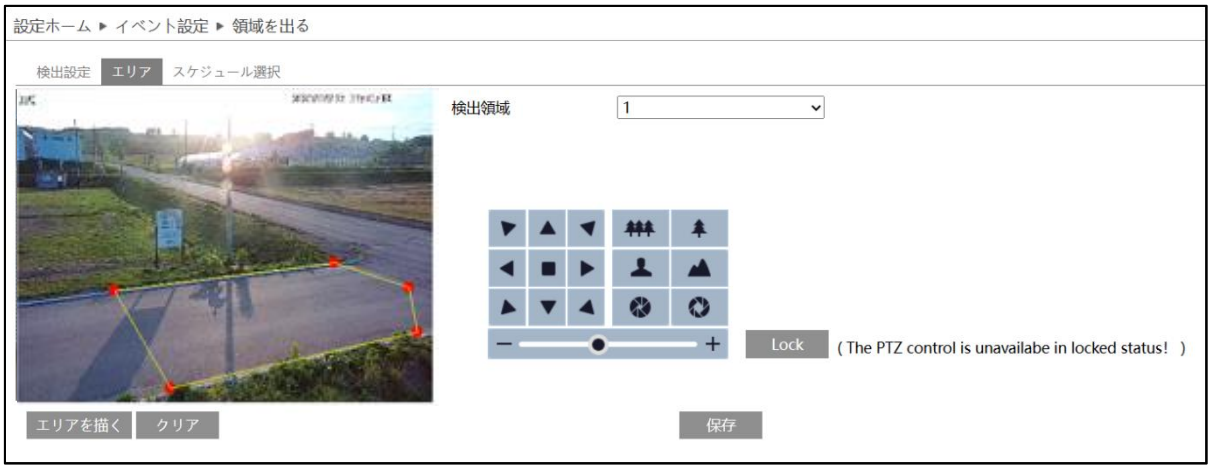
写真は、《 静止画保存のパス ＞ picture ＞ IP アドレス ＞ PEA ＞ 日付 》に保存されます。



※2 :SD カードに保存する場合は、4.4.1 項の連携するアラーム出力の「写真を SD カードに保存」にチェックを入れて有効にする必要があります。

➢ エリア

[エリア]タブを開き、領域退出の検出エリアを描画します。



表示	説明
検出領域	検出領域を選択します。検出領域は最大 4 パターン設定できます。
PTZ アイコン群	検出エリアを描画する前にカメラの向きやズームを操作して適切な画角に設定します。
Lock／Unlock （ロック/ロックを解除）	トリガートラックを使用するときはロックしてください。 （トリガートラックを使用するときは Unlock 表示にします。）
エリアを描く/作図終了	検出エリアを画面上に描画します。 マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように 4 ～ 6 ポイントをクリックします。
クリア	設定した検出エリアを削除します。
保存	設定を保存します。

<u>領域を出る　エリア設定</u>

① 検出領域を選択します。最大 4 つ設定できます。

② エリアを描く をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4～6 カ所置き、線で繋ぎ退出検知エリアを作成します。

③ 作図終了 をクリックすると、検出エリアの描画を終了します。

④ クリア をクリックすると、検出エリアが削除されます。

⑤ 保存 をクリックし、検出エリアを保存します。



■カメラとその周辺の設定条件■

4.5.2 項 ラインクロスの、カメラとその周辺の設定条件を参照してください。

- スケジュール選択

  [スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力とイベントの各種検知機能での共通設定項目です。

  4.4.1 項 モーション検知の「スケジュール選択」を参照してください。

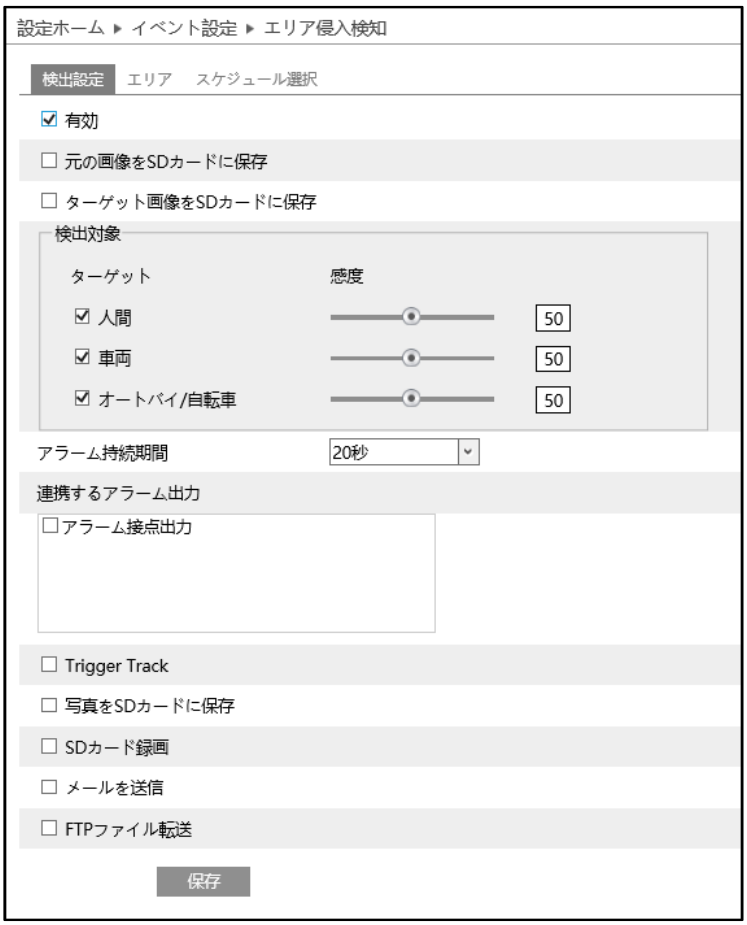
4.5.5　エリア侵入検知（エリア内活動検知）

指定したエリア内で活動する人や車両を検知します。エリア内で静止している場合検知しません。

※設定したエリアの枠の中で検出対象が活動してるあいだ検出します。設定したエリアから出てしまった後は検出しません。

➢　検出設定

[検出設定]タブを開き、指定したエリア内の活動を検出したときのアラームを設定します。



表示	説明
有効	エリア侵入による検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 エリア侵入を検出すると、アイコン は赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	エリア侵入による検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カード※2 に保存されます。
ターゲット画像を SD カードに保存	エリア侵入による検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カード※2 に保存されます。

検出対象	エリア侵入を検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 通常時 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定した枠：青色枠 検出時 ターゲット：黄色枠 エリア侵入：赤色枠
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
連携するアラーム出力	以下の 6 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、Trigger Track、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、4.4.1 項の連携するアラーム出力を参照してください。
保存	設定を保存します。

※ 1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。**ブラウザにより機能がない場合があります。**

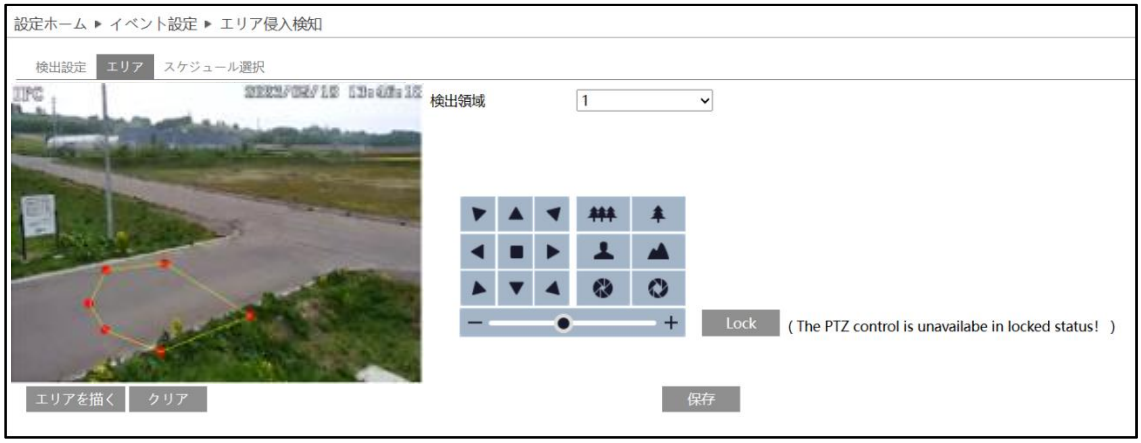
写真は、《 静止画保存のパス ＞ picture ＞ IP アドレス ＞ PEA ＞ 日付 》に保存されます。



※2 :SD カードに保存する場合は、4.4.1 項の連携するアラーム出力の「写真を SD カードに保存」にチェックを入れて有効にする必要があります。

➢ エリア

[エリア]タブを開き、エリア侵入検知の検出エリアを描画します。



表示	説明
検出領域	検出領域を選択します。検出領域は最大 4 パターン設定できます。
PTZ アイコン群	検出エリアを描画する前にカメラの向きやズームを操作して適切な画角に設定します。
Lock／Unlock （ロック/ロックを解除）	トリガートラックを使用するときはロックしてください。 （トリガートラックを使用するときは Unlock 表示にします。）
エリアを描く/作図終了	検出エリアを画面上に描画します。 マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように 4 ～ 6 ポイントをクリックします。
クリア	設定した検出エリアを削除します。
保存	設定を保存します。

エリア侵入検出　エリア設定



① 検出領域を選択します。最大 4 つ設定できます。

② エリアを描く をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4～6 カ所置き、線で繋ぎ検出エリアを作成します。

③ 作図終了 をクリックすると、検出エリアの描画を停止します。

④ クリア をクリックすると、検出エリアが削除されます

⑤ 保存 をクリックし、検出エリアを保存します。

■カメラとその周辺の設定条件■

4.5.2 項 ラインクロスの、カメラとその周辺の設定条件を参照してください。

- スケジュール選択

  [スケジュール選択]はモーション検出、アラーム入力とイベントの各種検知機能での共通設定項目です。

  4.4.1 項 モーション検知の「スケジュール選択」を参照してください。

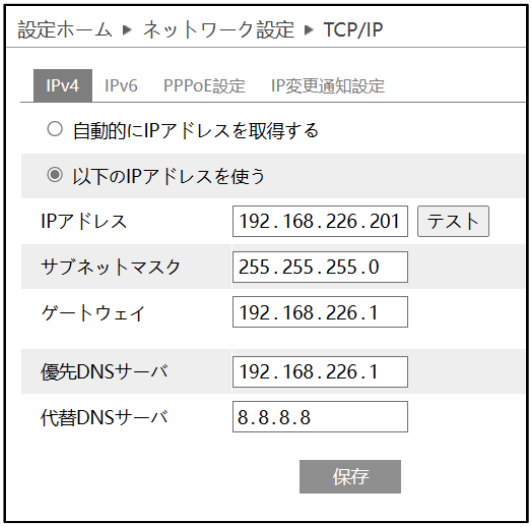
4.6　ネットワーク

TCP/IP、ポート、サーバ、ONVIF、DDNS、SNMP、802.1X、RTSP、RTMP、UPnP、Email、FTP、HTTP POST、HTTPS、QoS などのサブメニューがあります。



4.6.1 TCP/IP

ネットワークの設定を行います。（IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、PPPoE など）



➢ IPv4

IPv4 の設定方法

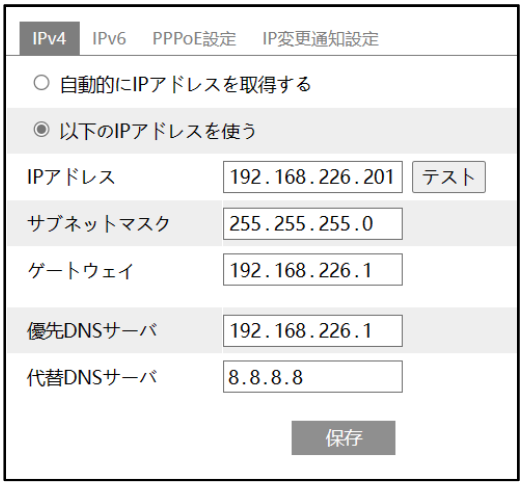
◆ **自動的に IP アドレスを取得する**

DHCP より自動的に IP アドレスを取得します。

◆ **以下の IP アドレスを使う**

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS サーバを手動で設定・変更する必要があります。

テスト をクリックすると、IP アドレスが使えるのか(競合していないか)確認することができます。



保存 をクリックして、設定を保存します。

➢ IPv6

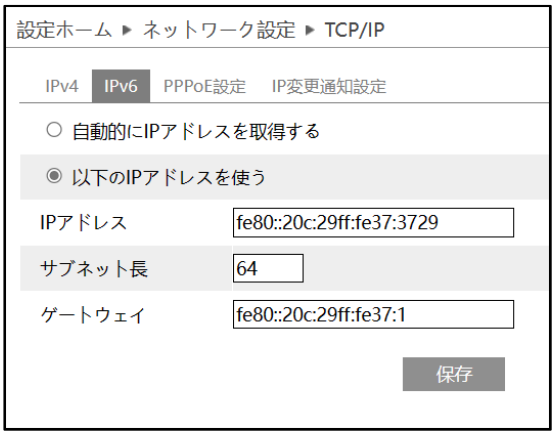
IPv6 の設定方法

◆ **自動的に IP アドレスを取得する**

DHCP より自動的に IP アドレスを取得します。

◆ **以下の IP アドレスを使う**

IP アドレス、サブネットプレフィックス長さ、ゲートウェイを手動で設定・変更する必要があります

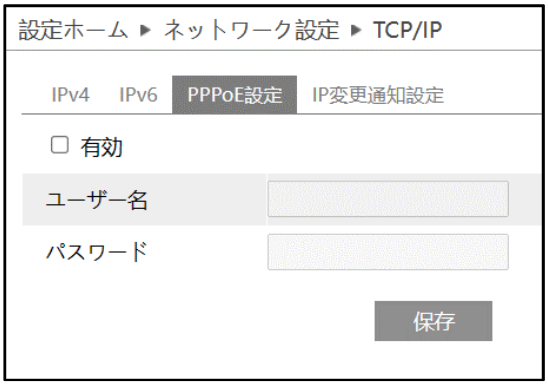


➢ PPPoE 設定

有効にチェックを入れ、PPPoE を有効にします。

ISP(プロバイダ)から提供された、ユーザ名とパスワードを入力し、保存をクリックします。

WAN IP を取得すると、インターネットに接続できます。



保存 をクリックして、設定を保存します。

➢ IP 変更通知設定

デバイスの IP アドレスを変更すると、新しい IP アドレスが自動的にメールまたは FTP に送信されます。



[メールを送信]にチェックを入れると、e メールによる通知が有効になります。
通知メールの送信先をリストから選択します。
※e メール通知の送受信に関する設定は、「4.6.11 **Email**」で事前に行う必要があります。

[FTP ファイル転送]にチェックを入れると、FTP サーバへのファイル転送が有効になります。
FTP サーバをリストから選択します。
※FTP サーバに関する設定は、「4.6.12 **FTP**」で事前に行う必要があります。

保存 をクリックして、設定を保存します。

4.6.2　ポート

HTTP、HTTPS、データ、RTSP のポート番号を設定します。



表示	説明
HTTP ポート	HTTP プロトコルで制御を行うポートです。（初期値：80）
HTTPS ポート	HTTPS プロトコルで制御を行うポートです。（初期値：443）
データポート	カメラ制御を行うポートです。（初期値：9008）
RTSP ポート	RTSP プロトコル制御を行うポートです。（初期値：554）
ロングポーリングポート	Long Polling により HTTP でスマート検出データをプッシュ送信します。（初期値：8080）
WebSocket ポート	Microsoft Edge、Google Chrome（プラグインフリー）で映像を表示するための通信ポートです。（初期値：7681）
保存	設定を保存します。

保存 をクリックして、設定を保存します。

4.6.3 サーバ

CMS/VMS の認証サーバにプッシュで接続する場合に設定します



サーバを設定します。

① 有効にチェックを入れ、サーバを有効にします。

② CMS/VMS の映像転送サーバの IP アドレスとオートリポート番号を確認します。

デフォルトのオートリポート番号は 2009 です。



③ 上記で確認したサーバポート/IP アドレス/デバイス ID を入力して 保存 をクリックして設定を保存します。デバイス ID は任意の数字です。

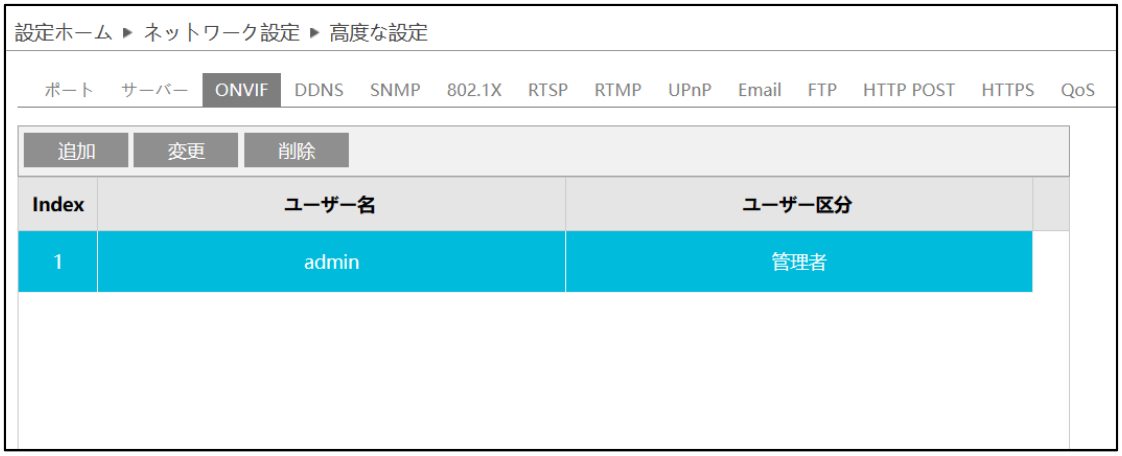
④ CMS/VMS の「デバイス管理→デバイスの追加と編集→追加されていないオートリポートデバイス」を開きます。



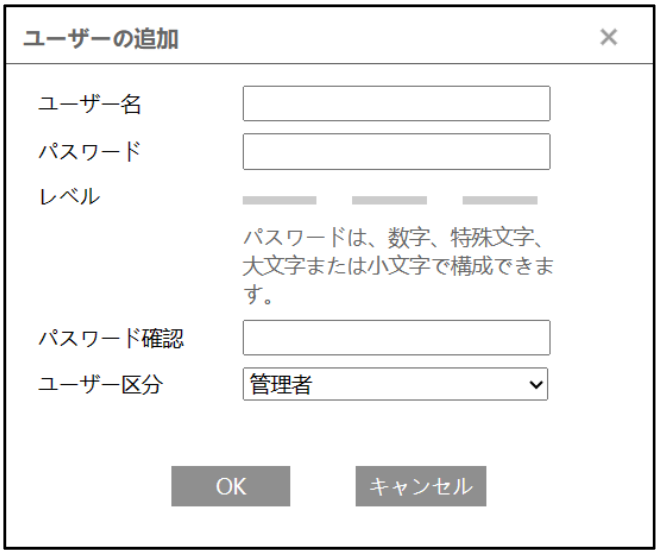
⑤ CMS/VMS に未登録のデバイスが表示されていますので、左端の☑を有効にして、OK をクリックして CMS/VMS にデバイスを登録します。

4.6.4 ONVIF

ONVIF プロトコルでアクセスできるユーザを登録します。初期設定では ONVIF ユーザは未登録ですので本機に ONVIF プロトコルではアクセスできません。（この機能は、ONVIF プロトコルを装備したカメラのみ利用できます。）



[追加]ボタンをクリックしてユーザを追加します。ユーザ名、パスワード、ユーザ区分を入力して[OK]をクリックします。ヒントに従ってパスワードを設定してください。



パスワードを変更する場合は、該当ユーザを選択して[変更]ボタンをクリックします。

ユーザを削除したい場合は、該当ユーザを選択して[削除]ボタンをクリックします。

注意
ユーザ名　：**最大 15 文字** 英数字のみ、記号**不可**
パスワード：**最大 16 文字** 英数字 と 記号**可**

4.6.5 DDNS

DDNS 設定方法

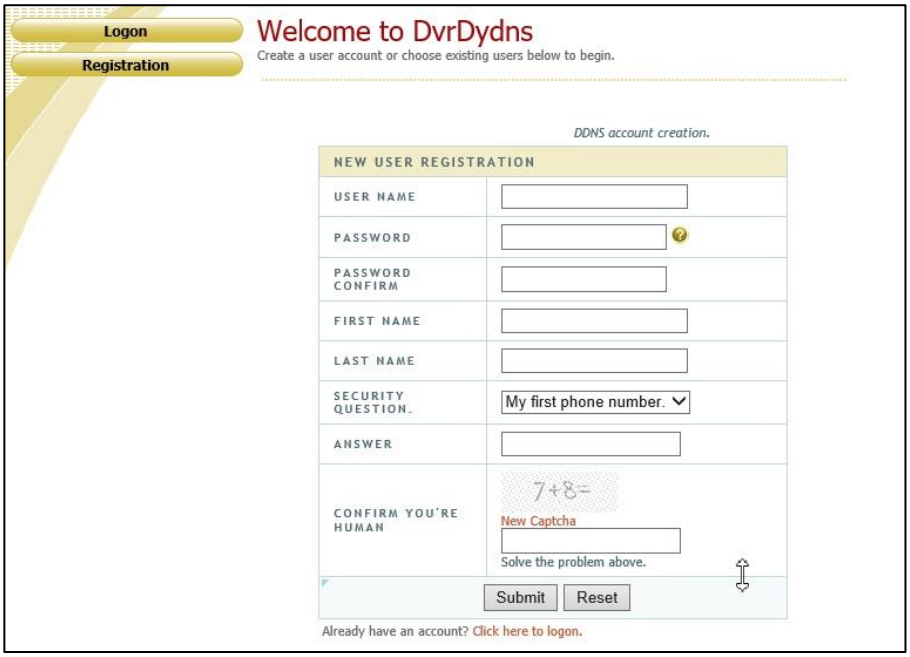
複数の DDNS サービスが登録されていますのでお好みのサービスを選択してください。
サーバタイプのプルダウンから DDNS サービスを選択して、ユーザ名、パスワード、ドメイン名を入力します。
これらの入力する情報は、各 DDNS サービスのウェッブサイトで事前に登録しておく必要があります。

《例 1》**www.dvrdydns.com** の場合

① IE アドレスバーに **www.dvrdydns.com** を入力し、DDNS ウェブサイトにアクセスしてください。



② [Registration（登録）]ボタンをクリックすると、以下のインタフェースに進みます。
DDNS アカウント情報（ユーザ名、パスワードなど）を設定し、[Submit（送信）]ボタンをクリックして、アカウントを保存します。



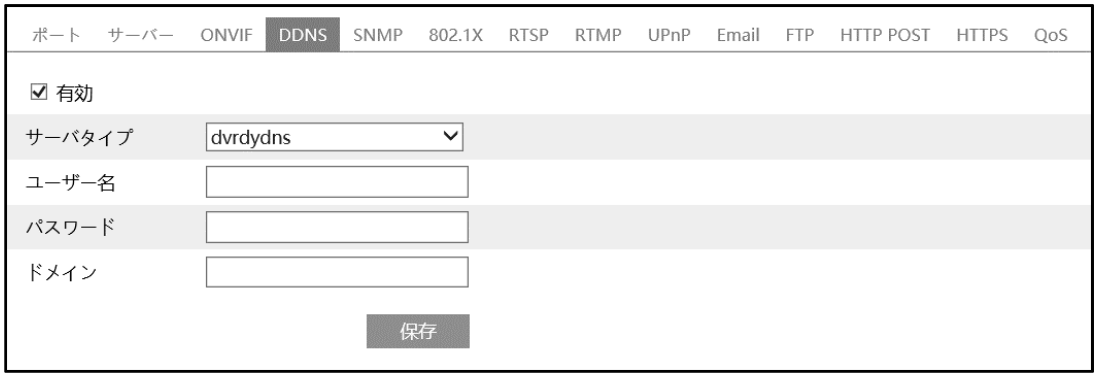
③ ドメイン名を作成し、[Request Domain（ドメインの要求）]をクリックします。



④ ドメイン名を要求すると、ドメイン名の情報がリストに表示されます。



⑤ DDNS 設定を開きます。DDNS を有効にし、DDNS タイプは www.dvrdydns.com を選択します。登録したユーザ名、パスワード、ドメイン名を入力し、[保存]をクリックします。



⑥ インターネットから本機にアクセスするには、ブラウザのアドレスバーに http://www.xxx.dvrdydns.com:81 のような登録済みのドメイン名と HTTP ポートを入力します。「2.2 **WAN**」を参照してください。

《例２》www.autoddns.com の場合

www.autoddns.com は無償提供の DDNS サービスです。以下の手順で設定します。

① サーバタイプ:www.autoddns.com を選択します。

ユーザ名は任意の文字列を入力します。入力した文字列がドメイン名になります。



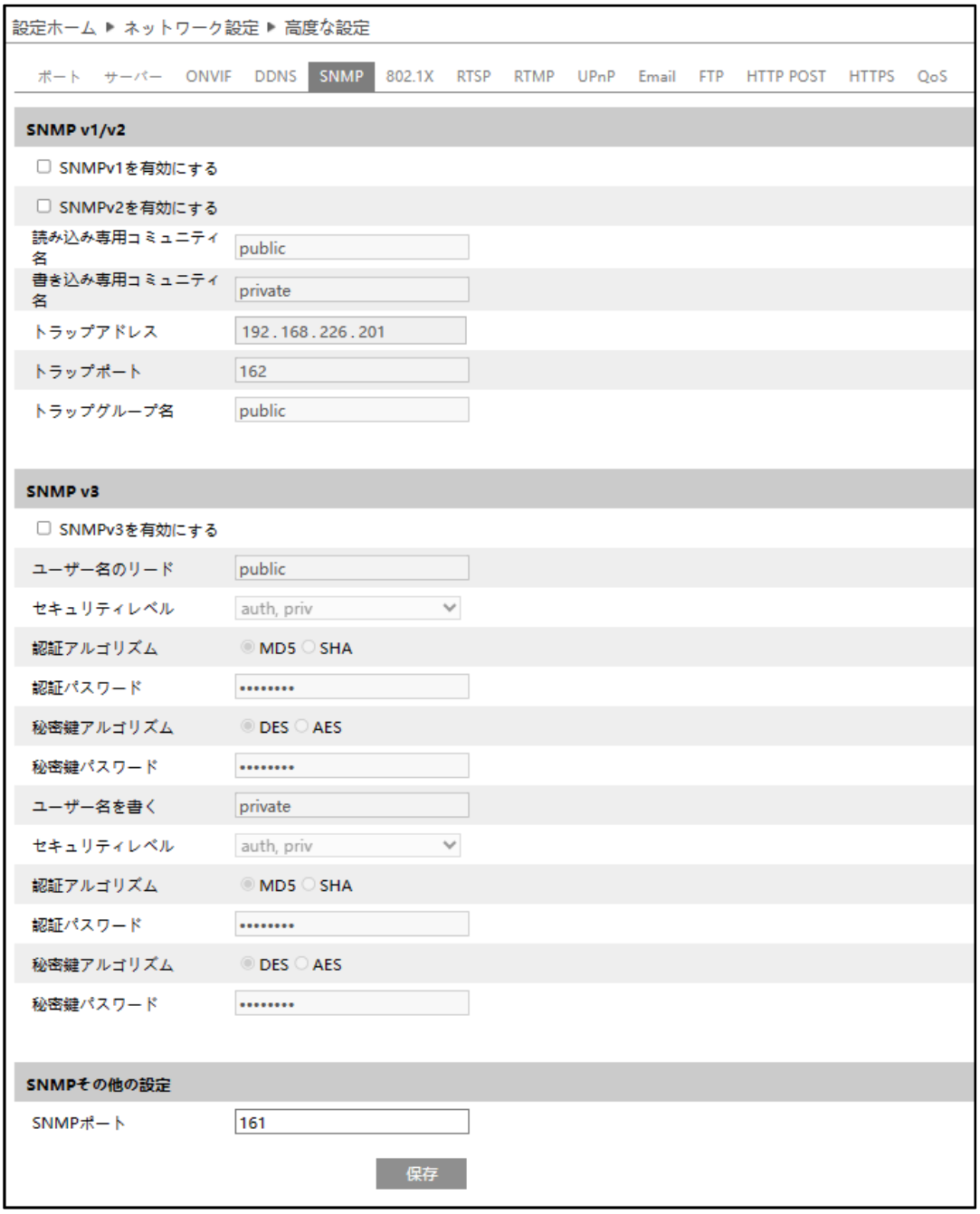
② インターネットから本機にアクセスするには、ブラウザのアドレスバーに http://ドメイン名:81 ドメイン名と HTTP ポート（例 http://hytecinter_test100.autoddns.com:81）を入力します。

「2.2 **WAN**」を参照してください。

4.6.6 SNMP

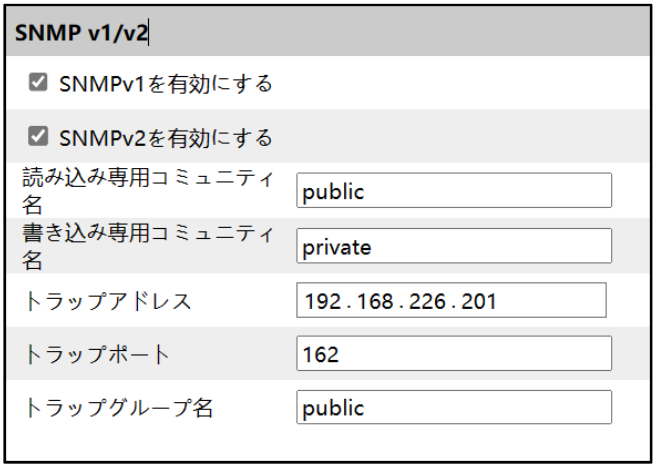
SNMP を設定します。

SNMP 機能は、カメラのステータスやパラメータ、アラーム情報を取得し、カメラをリモートで管理できます。



➢ SNMP v1/v2

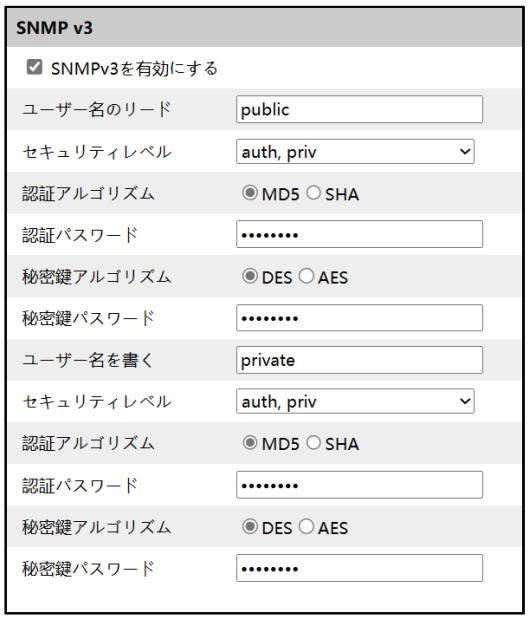
[SNMPv1 を有効にする][SNMPv2 を有効にする]にチェックを入れ、SNMPv1/v2 を有効にします。



表示	説明
読み込み専用コミュニティ名	Read-only。SNMP による読み取り専用のコミュニティ名を入力します。
書き込み専用コミュニティ名	Read-write。SNMP による書き込み専用のコミュニティ名を入力します。
トラップアドレス	トラップ送信先 SNMP マネージャの IP アドレスを入力します。
トラップポート	トラップポートを入力します。
トラップグループ名	トラップのコミュニティ名を入力します。
保存	設定を保存します。

➢ SNMP v3

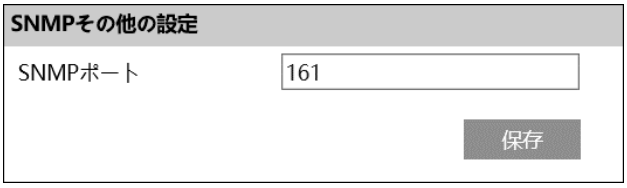
[SNMPv3 を有効にする]にチェックを入れ、SNMPv3 を有効にします。



表示	説明
ユーザ名のリード	SNMP による読み取り専用のユーザ名を入力します。
ユーザ名を書く	SNMP による読み書き専用のユーザ名を入力します。
セキュリティレベル	ユーザ認証には 3 つのセキュリティレベルがあります。 ・ auth, priv ：認証アリゴリズムで認証。暗号化あり。 ・ auth, no priv ：認証アルゴリズムで認証。暗号化なし。 ・ no auth, no priv ：ユーザ名のみで認証。暗号化なし。
認証アルゴリズム	認証方式を MD5 または SHA から選択します。
認証パスワード	認証パスワードを設定します。
秘密鍵アルゴリズム	暗号化方式を DES または AES から選択します。
秘密鍵パスワード	暗号化パスワードを設定します。
保存	設定を保存します。

➢ SNMP その他の設定

SNMP ポートを設定して、 保存 をクリックします。



4.6.7　802.1X

802.1X を設定します。
有効にすると、カメラのデータを保護できます。カメラが IEE802.1x で保護されたネットワークに接続されている場合、ユーザ認証が必要です。
この機能を使用するためには、802.1x プロトコルをサポートするスイッチにカメラを接続する必要があります。スイッチはローカルネットワークでデバイスを識別するための認証システムとして利用できます。
スイッチのネットワーク・インターフェースに接続されたカメラが、スイッチの認証に合格すると、ローカルネットワーク経由でアクセスできます。



802.1X の設定方法

① 有効にチェックを入れ、802.1X 認証を有効にします。

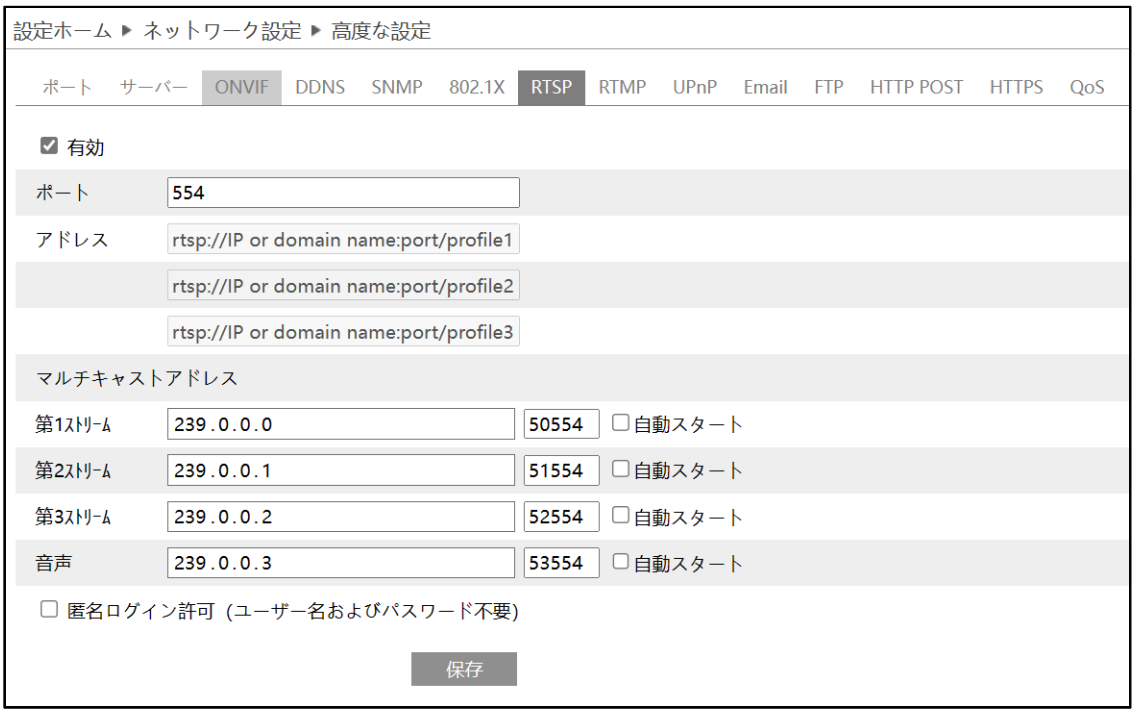
② プロトコルタイプと EAPOL バージョンは、デフォルト設定でご使用ください。

③ ユーザ名とパスワードは、認証サーバに登録されているユーザ名とパスワードを入力してください。

④ 保存 をクリックして設定を保存します。

4.6.8 RTSP

RTSP を設定します。



[有効]にチェックを入れ、RTSP を有効にします。

- ポート：「4.6.2 **ポート**」の RTSP ポートと連動しています。
- アドレス：VLC プレーヤーなどで再生する時に使用する RTSP アドレスを表示します。
  【例】RTSP アドレス（ユニキャスト）。IP アドレスが 192.168.1.226 の場合。
  第 1 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile1
  第 2 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile2
  第 3 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile3
- マルチキャストアドレス：マルチキャストアドレス、ポート番号を設定します。
  【例】RTSP アドレス（マルチキャスト）。IP アドレスが 192.168.1.226 の場合。
  第 1 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile1?transportmode=mcast
  第 2 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile2?transportmode=mcast
  第 3 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile3?transportmode=mcast
  カメラ起動時に、自動的に配信開始したい場合は、[自動スタート]をチェックします。
- [匿名ログインを許可（ユーザ名およびパスワード不要）] に、チェックを入れると RTSP 認証を省いて再生できます。

4.6.9 RTMP

RTMP を設定します。YouTube 配信に使用します。



[有効]にチェックを入れ、RTMP を有効にします。

表示	説明
ストリーム形式	YouTube 配信で使用するストリームを選択します。※１、※２
タイムアウト後に再接続する	設定した時間以内なら再接続します。
サーバアドレス	YouTube Studio でメモしたストリーム URL/ストリームキーを貼付けます。 例：rtmp://a.rtmp.youtube.com/live2/abcd-efgh-ijkl-mnop-qrst
接続状態	接続完了の表示になれば YouTube との接続は完了しています。
保存	設定を保存します。

※1:ストリーム設定は「4.2.2 **映像/音声**」で設定します。通信回線の速度に応じて、最適な設定を行います。ビデオ圧縮は必ず、「**H.264**」を設定する必要があります。また、音声を有効に設定します。

※2:お使いのインターネット接続で安定して映像を転送できる品質に設定します。実際に配信する動きや音声でテストを行う必要があります。設定した解像度、フレームレート、ビットレートは YouTube が自動的に検出します。

4.6.10 UPnP

UPnP を使用すると LAN 経由で簡単にカメラにアクセスできます。

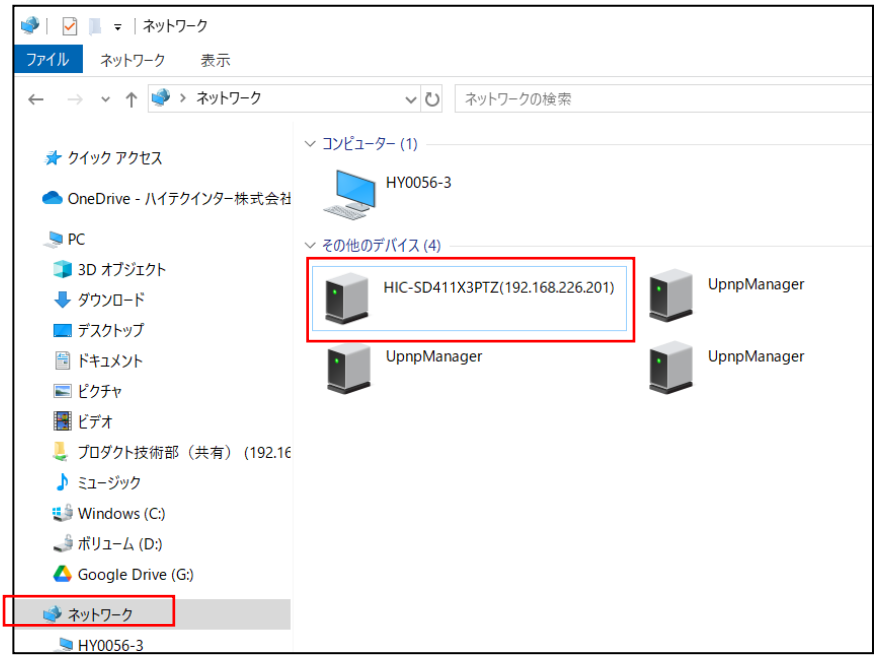


UPnP の設定方法

① 有効をチェック☑して、UPnP 名を入力し 保存 をクリックして設定を保存します。

② PC でエクスプローラを起動したあと、ネットワークをクリックすると、設定した UPnP 名のカメラが表示されます。

※事前に PC 側で「ネットワーク探索とファイル共有」を有効に設定しておく必要があります。



③ 表示されたカメラをダブルクリックするとブラウザが起動して、カメラに接続します。

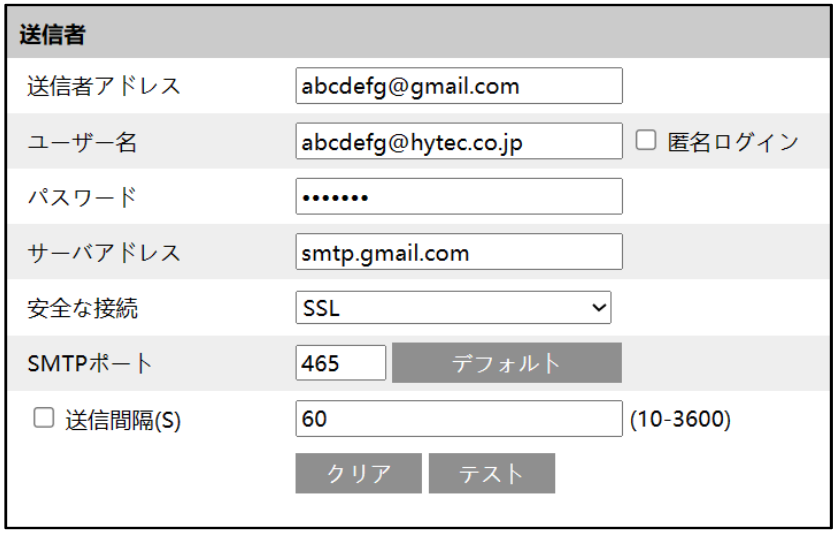
4.6.11 Email

Email に関する設定を行います。



➢ 送信者

送信者の E メールアドレス、SMTP サーバなどを設定します。



送信者の設定方法

ISP から提供された E メールサービスの情報に従って入力します。

① 送信者の E メールアドレスを入力します。

② ユーザ名とパスワードを入力します。

③ サーバアドレスに SMTP サーバ情報を入力します。

④ 暗号化プロトコル SSL/TLS を選択します。

⑤ SMTP ポートを設定します。 デフォルト で初期値に戻ります。

⑥ E メールの送信間隔を設定します。
送信間隔にチェックを入れ 300 秒に設定した場合、300 秒に 1 通のメールが送信されます。300 秒の間に複数検出された場合、検出時間などをまとめて 1 通で通知します。添付ファイルの静止画は最初に検出した静止画のみを添付します。

⑦ テスト をクリックして、アカウントの接続テストを行います。

注 1 Yahoo や Gmail 等のフリーメールはご利用いただけません。ISP が提供するメールサービスをお使いください。

➢ 受信者

[受信者アドレス]欄に受信者のメールアドレスを入力し、 追加 をクリックしてリストに追加します。
削除する場合は、リストから削除するアドレスを選択し、 削除 クリックしてリストから削除します。



最後に[保存]ボタンをクリックして、設定を保存してください。

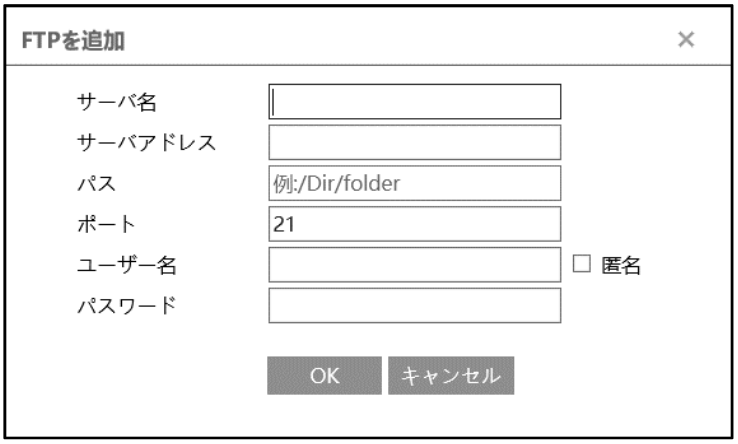
4.6.12 FTP

FTP サーバの設定を行います。



➢ FTP 追加/変更

FTP サーバを追加するには、追加 をクリックします。変更する場合は、変更 をクリックします。



表示	説明
サーバ名	FTP サーバの名前を入力します。
サーバアドレス	FTP サーバの IP アドレスまたはドメイン名を入力します。

パス	ファイルのアップロード先を設定します。
ポート	FTP サーバのポート番号を入力します。
ユーザ名/パスワード	FTP サーバのユーザ名とパスワードを入力します。 匿名にチェックを入れると、ユーザ名とパスワードの入力を省きます。
OK	ウィンドウを閉じます。（まだ保存されてません。）
保存	設定を保存します。

➢ テスト

テスト をクリックすると、選択している FTP サーバとの接続確認を行います。

➢ FTP 削除

削除 をクリックすると、選択している FTP サーバを削除します。

FTP 保存パス: /device MAC address/event type/date/time/
例:顔検出発生時のパス：FTP file path ¥00-18-ae-a8-da-2a¥VFD¥2021-01-09¥14¥

イベントによるファイル名の一覧

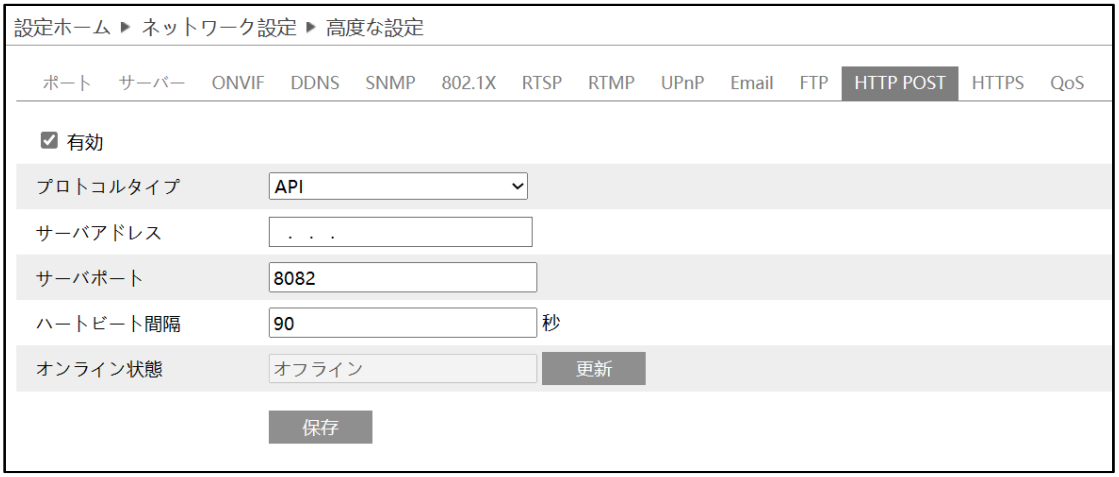
ファイル名	イベント	ファイル名	イベント
IP	IP アドレス	MOTION	モーション検出
SENSOR	アラーム入力	TRIPWIRE	ラインクロス(ライン超え)
PERIMETER	エリア侵入(エリア内活動)	OSC	物体出現/消失
AVD	映像異常	VFD	顔検出
AOIENTRY	エリア侵入	AOILEVE	エリア退出
PASSLINECOUNT	ライン通過カウント	TRAFFIC	エリア内滞留カウント
LOITER	徘徊検知	PVD	違法駐車検知
SDFULL	SD カードフル	SDERROR	SD カードエラー
VSD	メタデータ		

テキストファイルの構成:
　デバイス名: xxx mac: デバイス MAC アドレス　イベントタイプ：イベント時刻
例:

device name: IPC mac: 00-18-ae-a8-da-2a MOTION time: 2021-03-16 12:20:07

4.6.13 HTTP POST

HTTP POST を設定します。



[有効]にチェックを入れ、HTTP POST を有効にします。

表示	説明
プロトコルタイプ	API 固定
サーバアドレス	HTTP POST サーバの IP アドレスを入力します。
サーバポート	HTTP POST サーバのポート番号を入力します。
ハートビート間隔	HTTP POST サーバの稼働状態を確認する間隔を設定します。
オンライン状態	HTTP POST サーバの接続状態を表示します。
保存	設定を保存します。

上記のパラメータを設定した後、 保存 をクリックして設定を保存します。

カメラは自動的にサードパーティ製プラットフォームに接続します。

カメラが正常にプラットフォームに接続された後、スマートアラームがトリガーされると、カメラはプラットフォームにアラーム情報（HTTP 形式）を送信します。アラーム情報には、ターゲットのトレース座標、ターゲットの特徴、キャプチャされたオリジナル/ターゲット画像（キャプチャされた顔写真、自動車写真）などが含まれます。

4.6.14 HTTPS

HTTPS を設定します。 HTTPS は Web サイトの認証を提供し、ユーザのプライバシーを保護します。



有効にチェックを入れて、HTTPS へのアクセスを有効にし、保存 をクリックして設定を保存します。

Web ブラウザを使用して、「https://IP アドレス:HTTPS ポート」にアクセスします。
《 例：https://192.168.226.201:443 》

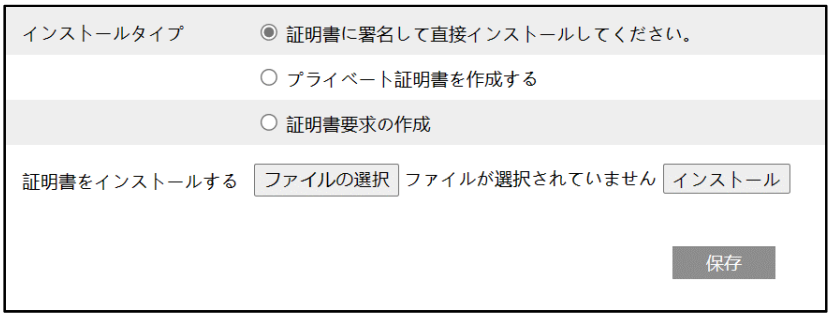
「HTTP ポートを無効にする」にチェックを入れると、http ではアクセスできなくなるので https://IP アドレス:HTTPS ポートでアクセスする必要があります。

デフォルトで証明書がインストールされています。

デフォルトの証明書を使用しない場合は、削除 をクリックして証明書を削除し、プライベート証明書を作成することもできます。3 種類のインストールタイプを選択して、各タイプで設定してください。

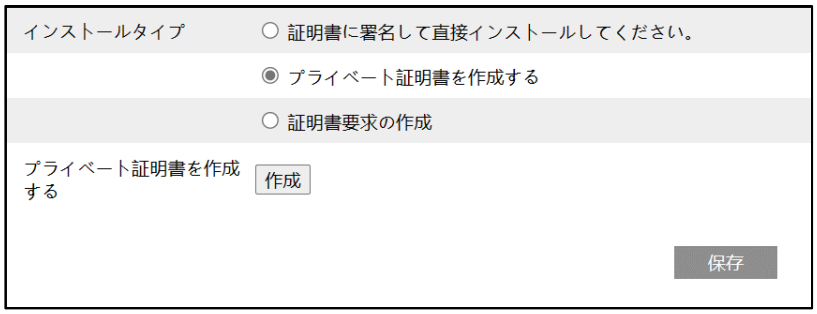


➢ 証明書に署名して、直接インストールしてください

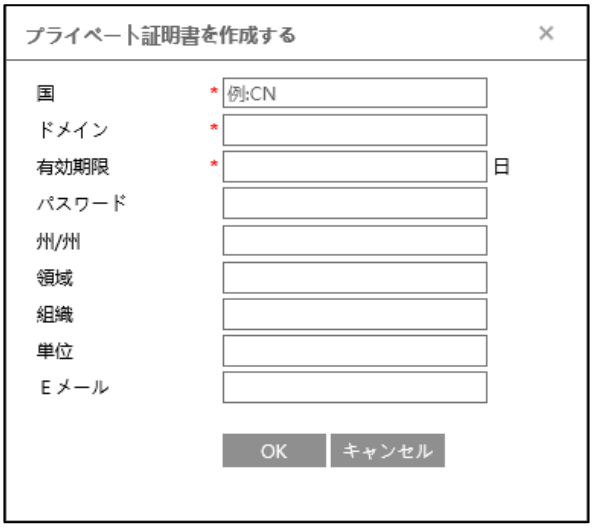


[ファイルの選択]ボタンをクリックして、インストールする証明書ファイルを選択してから、[インストール]ボタンをクリックして証明書をインストールします。
最後に[保存]ボタンをクリックします。

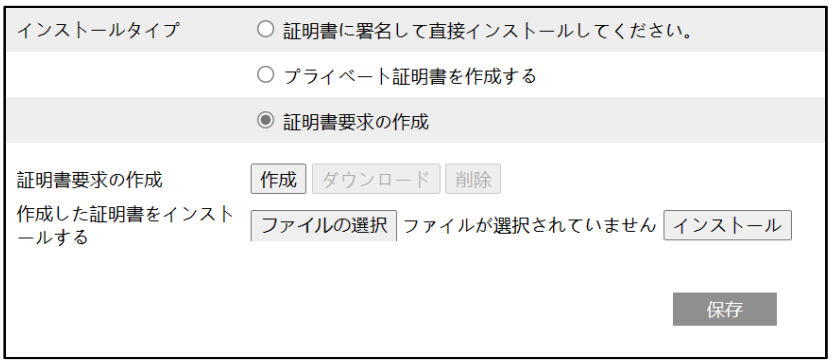
➢ プライベート証明書を作成する



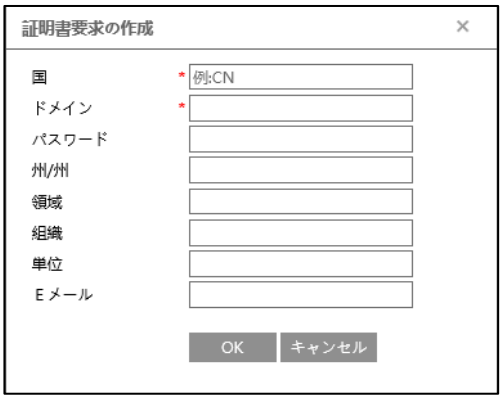
[作成]ボタンをクリックして、プライベート証明書を作成します。国(2 文字のみ利用可能)、ドメイン(NVR の IP アドレス/ドメイン)、有効期限、パスワード、州(都道府県)、領域(地域)などを入力します。「*」は、必須項目です。次に、[OK]をクリックして設定を保存します。最後に[保存]ボタンをクリックします。



➢ 証明書要求を作成



[作成]をクリックして証明書要求を作成します。



国(2 文字のみ利用可能)、ドメイン(NVR の IP アドレス/ドメイン)、パスワード、州(都道府県)、領域(地域)などを入力します。「*」は、必須項目です。次に、[OK]をクリックして設定を保存します。

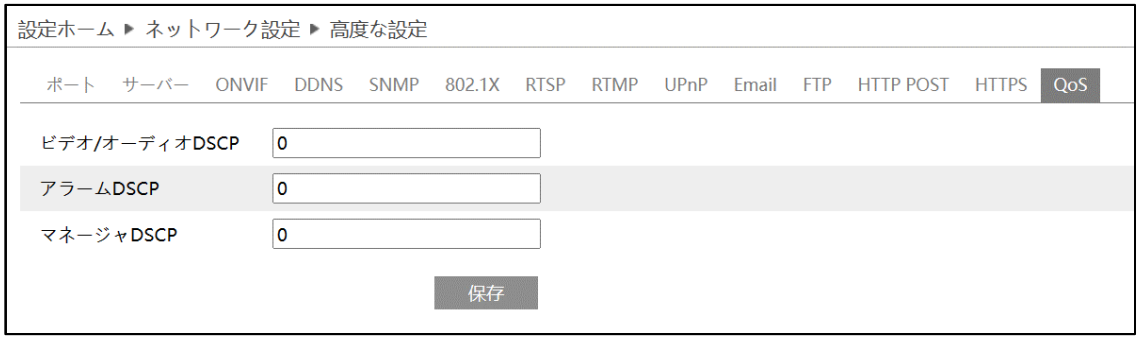
そうすると、[ダウンロード]ボタンがアクティブになりますので、クリックして、証明書要求ファイルをダウンロードし、署名のために信頼された証明機関に送信します。署名された証明書を受け取った後、証明書をデバイスにインポートします。上述の[証明書に署名して、直接インストールしてください]項で証明書をインストールしてください。

また、[削除]をクリックして、作成した証明書要求ファイルを削除できます。

4.6.15 QoS

QoS（Quality of Service）機能は、ネットワークアプリケーションごとに異なるサービス品質を提供するための機能です。

帯域幅が不足している場合、ルータやスイッチがデータストリームをソートし、優先順位に従って転送することで、ネットワークの遅延やネットワークの輻輳を解決します。



表示	説明
ビデオ/オーディオ DSCP	0 ～63 の範囲でビデオ/オーディオの優先度を設定します。
アラーム DSCP	0 ～63 の範囲でアラームの優先度を設定します。
マネージャ DSCP	0 ～63 の範囲でマネージャの優先度を設定します。
保存	設定を保存します。

数値が大きいほど、優先度は高くなります。

4.7 セキュリティ設定

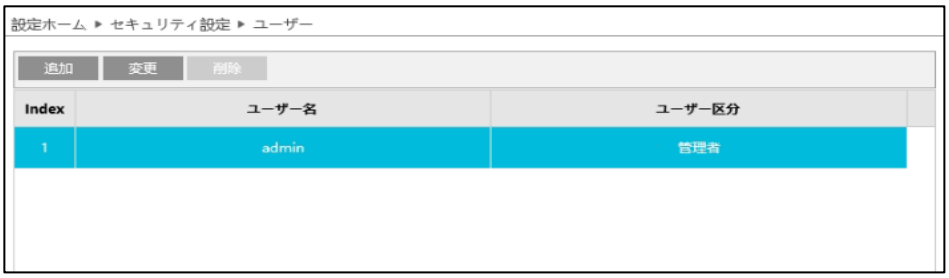
ユーザ、オンラインユーザ、ブロックと許可リスト、セキュリティ管理などのサブメニューがあります。



4.7.1 ユーザ

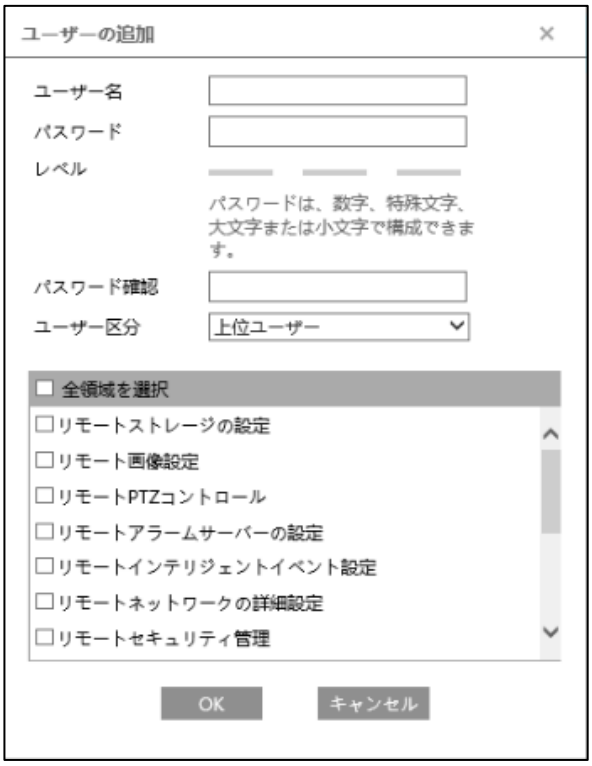
ユーザの追加、変更、削除の設定を行います。

管理者アカウントの admin は削除できません。また、ユーザ名は admin から変更できません。



ユーザの追加方法

① 追加 をクリックすると、「ユーザの追加」がポップアップします。



② ユーザ名とパスワード(パスワード確認)は、1～15 文字の英数字で設定します。

> 注意
> ユーザ名 ：**最大 15 文字** 英数字のみ、記号**不可**
> パスワード：**最大 16 文字** 英数字 と 記号**可**

レベルは、パスワードの強度を示します。「4.7.4 **セキュリティ管理**」にあるパスワードセキュリティで設定したレベル以上の組み合わせが必要です。

③ ユーザ区分を選択します。

- 管理者　　：すべての権限を持っています。（管理者を追加することはできません。）
- 上位ユーザ　：「ユーザ」、「ブロックと許可リスト」、「バックアップと復元」、「アップグレード」以外、管理者と同じ権限を持てます。
- ノーマルユーザ：「ライブ」の表示と「検索」のみ可能です。設定の変更はできません。

④ リモートで操作できる項目をチェックします。「全領域を選択」をチェックすると、選択できる権限が全て選択できます。

⑤ [OK]をクリックして、追加します。

上位ユーザとノーマルユーザの初期権限

システム設定	基本情報		○
	日付と時刻		○
	ローカル設定		○
アラーム設定	モーション検出	検出設定	×
		エリアと感度	○
		スケジュール	○
	異常		○
	アラーム入力		○
	アラーム出力		○
ネットワーク設定			閲覧のみ
セキュリティ設定	ユーザ		○※
	オンラインユーザ		○

※ログイン中ユーザのパスワード変更

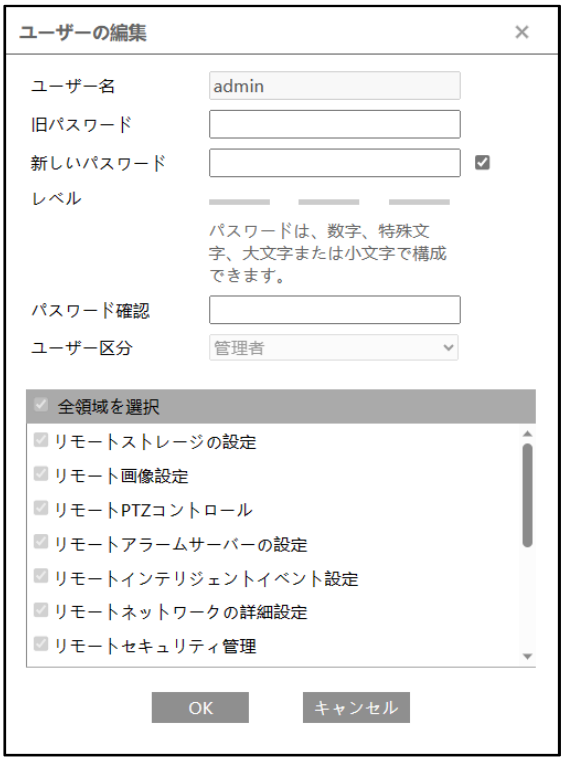
ユーザレベルと付与可能な権限

	上位ユーザ	ノーマルユーザ
ストレージ設定	○	×
画像設定（全項目）	○	○
PTZ コントロール	○	○
アラームサーバ設定	○	○
イベント設定	○	○
ネットワーク設定	○	×
セキュリティ設定	○※	×
バックアップと復元	○	×
再起動とアップグレード	○	×
ログ閲覧	○	○
音声インターホン（双方向音声通話）	○	○
プレビュー（ライブ）	○	○
再生（検索）	○	○
ユーザ管理	×	×

※ユーザ編集を除く、セキュリティメニュー

パスワードの変更方法

① 変更 をクリックすると、「ユーザの編集」がポップアップします。



② [新しいパスワード]にチェックを入れ、旧パスワードと新しいパスワードを入力し、OK をクリックします。

> 注意
> パスワード：**最大 16 文字** 英数字 と 記号**可**

レベルは、パスワードの強度を示します。「4.7.4 **セキュリティ管理**」にあるパスワードセキュリティで設定したレベル以上の組み合わせが必要です。

③ リモートで操作できる項目を変更します。

④ [OK]をクリックして保存します。

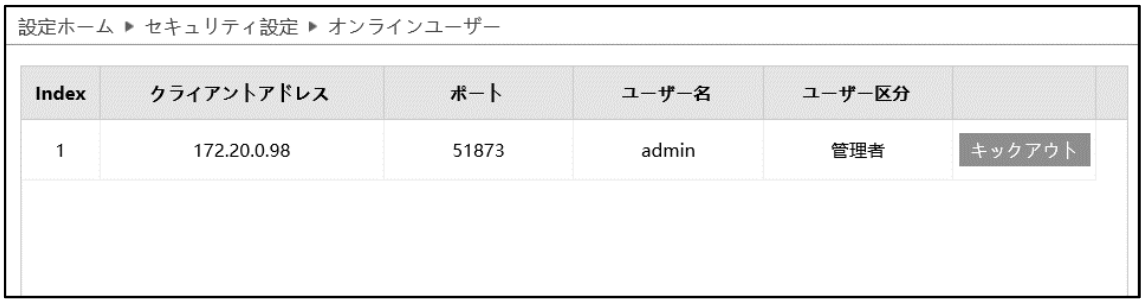
ユーザの削除方法

① 削除するユーザを選択します。選択されているユーザは青くなります。

② 削除 をクリックすると、削除の確認がポップアップするので OK をクリックして削除します。

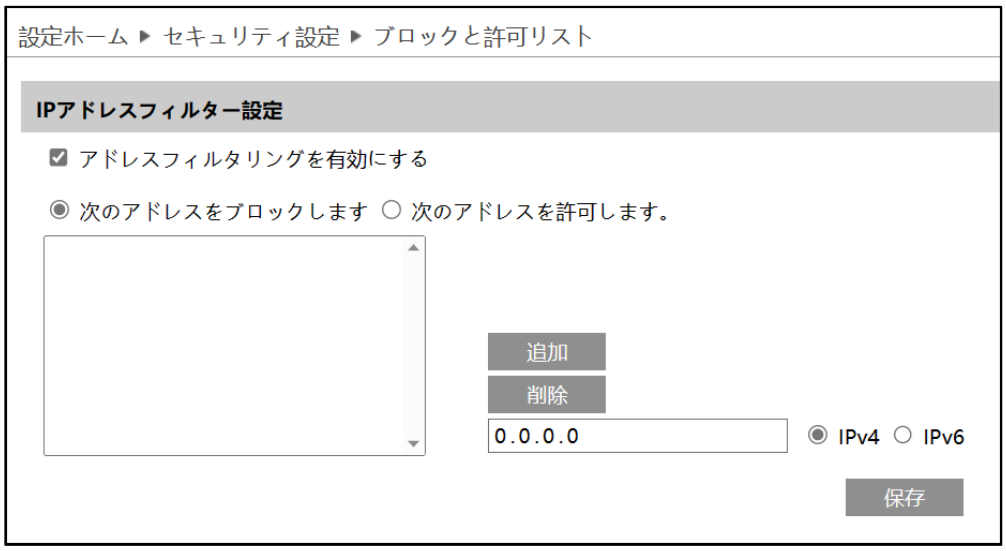
4.7.2 オンラインユーザ

本機にアクセスしているオンラインユーザを表示します。
管理者ユーザは、他のすべてのユーザを追い出す(キックアウト)ことができます。



4.7.3　ブロックと許可リスト

特定の IP アドレスからのアクセスを許可またはブロックします。
[アドレスフィルタリングを有効にする]にチェックを入れ、許可/ブロックの設定を行います。



IP アドレスフィルタの追加方法

① [次のアドレスをブロックします]または[次のアドレスを許可します]のどちらかを選択します。
- ブロック　：リスト内のみブロックし、その他のデバイスは許可されます。
- 許可　　：リスト内のみ許可し、その他のデバイスはブロックされます。

② IPv4、IPv6 のどれかを選択し、アドレスを入力します。

③ 追加 をクリックすると、リストに表示されます。

④ 保存 をクリックして保存します。

IP アドレスフィルタの削除方法

① リストからアドレスを選択します。

② 削除 をクリックすると、選択しているアドレスを削除します。

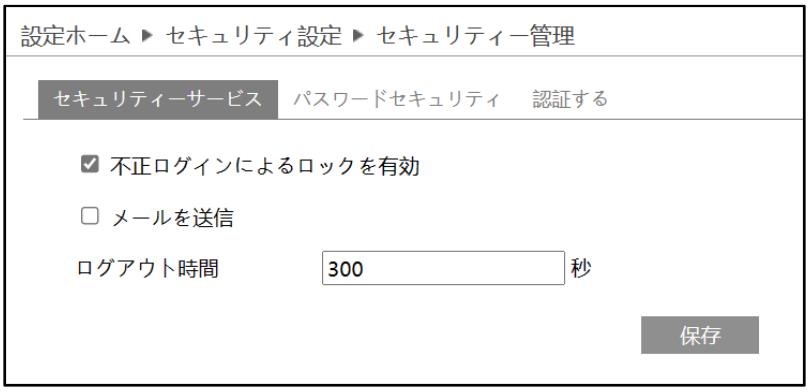
③ 保存 をクリックして保存します。

4.7.4　セキュリティ管理

不正ログインを検出した時の対応を設定します。

➢　セキュリティサービス

[セキュリティサービス]タブを開き、不正ログインによるロック解除を防ぐことができます。



[不正ログインによるロックを有効]にチェックを入れると、ログイン試行に 6 回失敗するとロックされます。

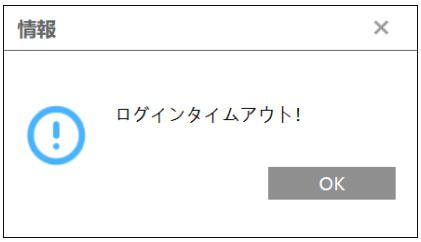
ロックから **30 分後**または**カメラの再起動**によって、カメラは再度ログインすることができます。

[メールを送信」をチェックすると、通知をメールで受け取れます。送信先をチェックして選択します。

メールの送信先の設定は、「4.6.11 **Email**」で登録します。



[ログアウト時間]で設定した時間（設定範囲：30～3600 秒（初期値 300 秒））が経過すると、（Web ブラウザなどで設定時間操作されない場合）、自動的にログアウトされます。次に操作するまで画面はそのままですが、操作しようとすると、タイムアウトメッセージをポップアウトで表示して、ログインウィンドウに移動しますので、再度ログインしてください。



➢ パスワードセキュリティ

[パスワードセキュリティ]タブを開き、パスワードのレベルと有効期限を設定します。



パスワードレベルは、パスワード変更で利用できる文字の種類と長さを設定します。
弱い　　：「英字の大文字」「英字の小文字」「数字」「記号」から 1 文字以上
中　　：「英字の大文字」「英字の小文字」「数字」「記号」から 2 種類以上を組合わせて 9 文字以上
強い　　：「英字の大文字」「英字の小文字」「数字」「記号」の全種類を組合わせて 9 文字以上

有効期限：30 日、60 日、180 日、365 日、永久から選択します。
　　期限が切れるとパスワードの変更画面がポップアップします。

➢ 認証する

HTTP でアクセスする際の、認証方法を設定します。

認証方法は、”Basic”と”Token”を選択できます。



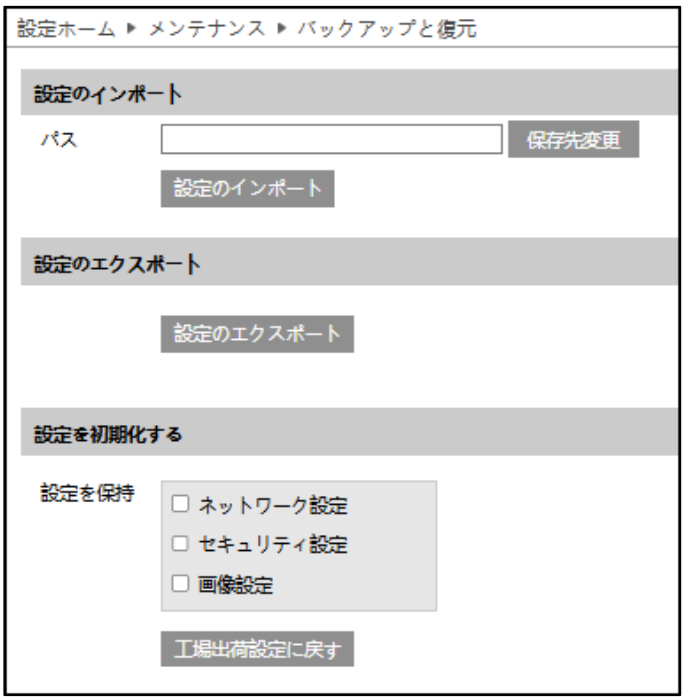
4.8 メンテナンス

バックアップと復元、再起動、アップグレード、操作ログなどのサブメニューがあります。



4.8.1 バックアップと復元

カメラの設定情報のインポート（復元）とエクスポート（バックアップ）、工場出荷時への初期化を行います。



➢ 設定のインポート（復元）

[保存先変更]をクリックして、バックアップファイルを選択します。 設定のインポート をクリックして、設定を復元します。



注意：設定ファイルは同じバージョンのカメラからエクスポートしたファイルを使用します。

➢ 設定のエクスポート（バックアップ）

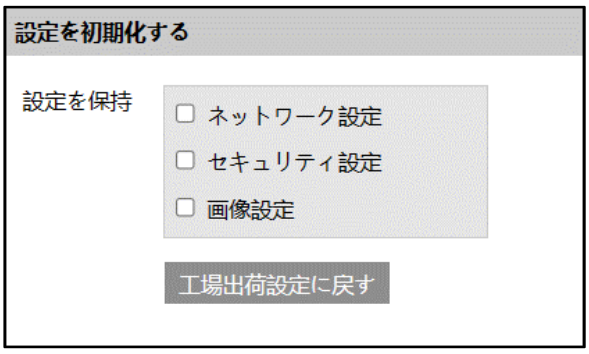
設定のエクスポート をクリックして、設定をバックアップします。



➢ 設定を初期化する

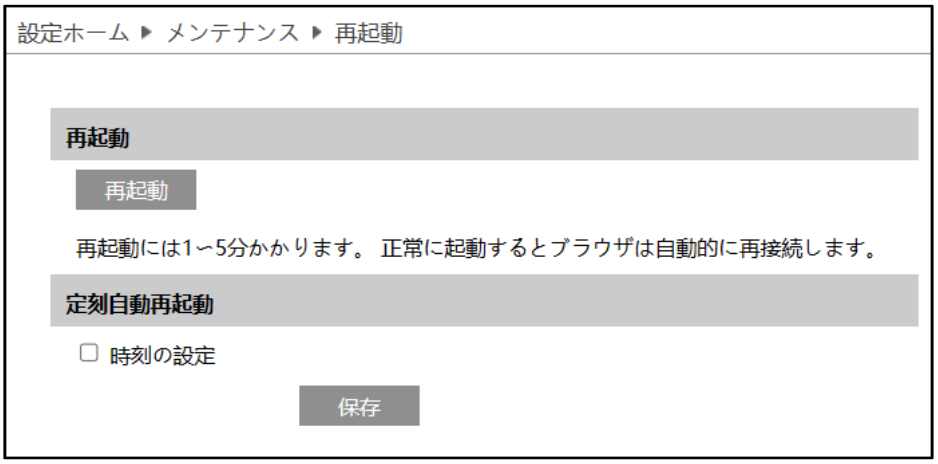
工場出荷設定に戻す をクリックして、設定を初期状態に戻します。

「設定を保持」で選択した設定項目は、初期化されず、現在の設定を保持します。



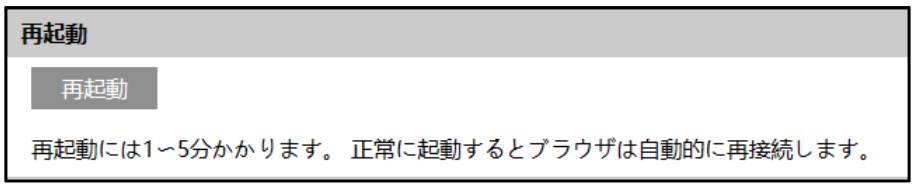
4.8.2 再起動

カメラの再起動を行います。



➢ 再起動

再起動 をクリックすると、パスワード入力画面がポップアップします。パスワードを入力するとカメラは再起動を行います。再起動には 1～5 分かかります。正常に完了すると、自動的に再接続、ログイン画面に戻ります。



➢ 定刻自動再起動

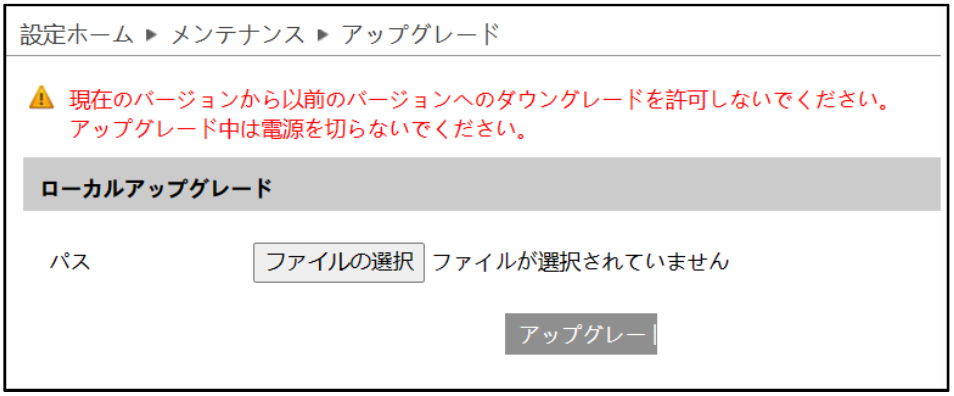
定期的に再起動を行います。

[時刻の設定]にチェックを入れると、自動的な再起動が有効になります。毎日または週に一度、決まった時間帯を指定します。



4.8.3　アップグレード

カメラのソフトウェアを更新します。



ソフトウェアのアップグレード方法

① [ファイルの選択]をクリックして、アップグレードファイルを選択します。

② アップグレード をクリックして、ソフトウェアのアップグレードを開始します。

③ アップグレード終了後、カメラは自動的に再起動します。

※ 現在のバージョンから古いバージョンへ戻さないでください。

※ アップグレード中はブラウザを更新・閉じたり、カメラをネットワークから切断したりしないでください。システム障害の原因になります。アップグレード後、10 分間は再度アップグレードしないでください。

※ アップグレード中は電源を切らないでください。

※ アップグレード中は監視などの機能は動作しません。

4.8.4 操作ログ

ログの種類を選択、開始時間と終了時間を指定、 検索 をクリックすると、ログが表示されます。



<u>ログの取得方法</u>

① 第一区分、第二区分より、取得するログの種類を選択します。

② 開始時間と終了時間を設定し、検索するログの時間帯を指定します。

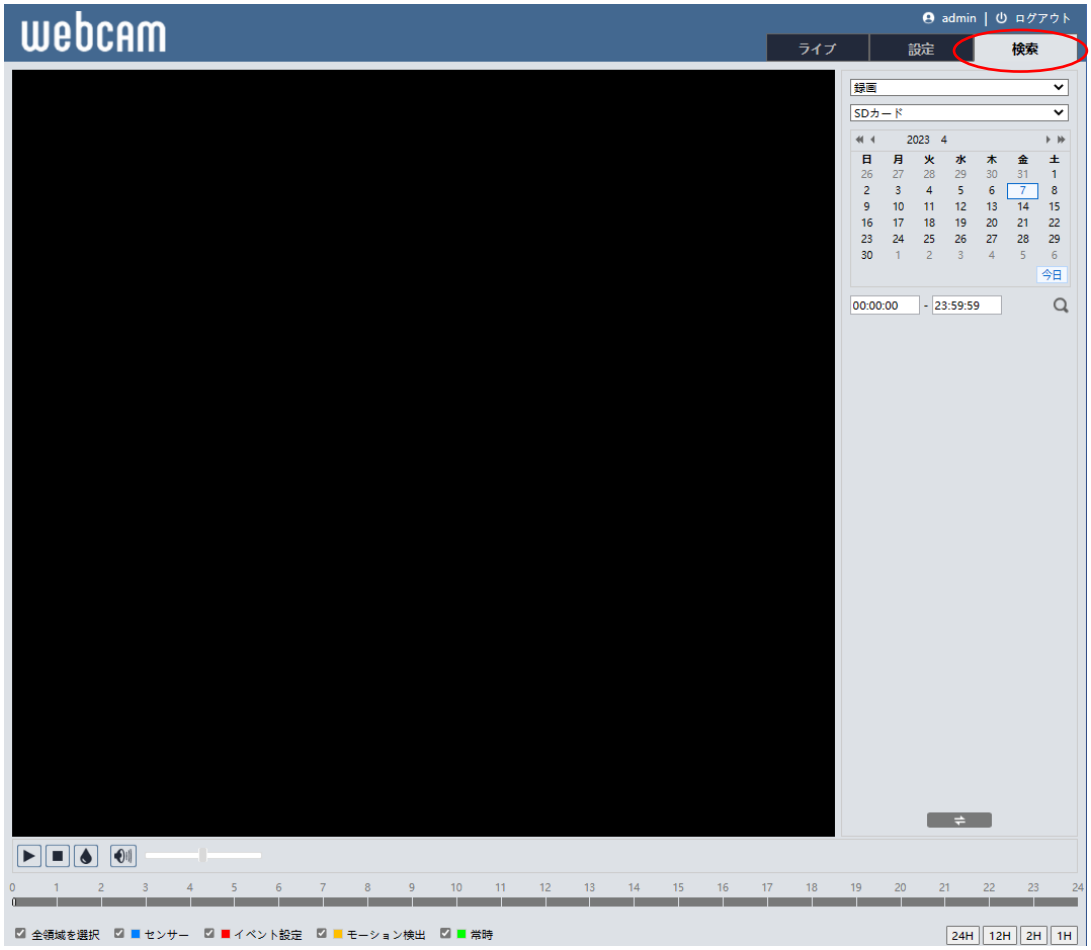
③ 検索 をクリックすると、指定時間内のログを表示します。

④ エクスポート をクリックして、ログをエクスポート・保存することができます。

5. 検索

右上の[**検索**]タブを開きます。

ここでは、カメラ本体に取付けた SD カードに保存されている録画映像と写真を表示できます。



注意：SD カードのデータを検索再生するときは、Microsoft Edge（IE 互換モード）を使用する必要があります。

SD カードのデータをダウンロードするには Internet explorer または HCMS ソフトウェアをご利用ください。ただし、静止画像は HCMS からは一切扱えません。

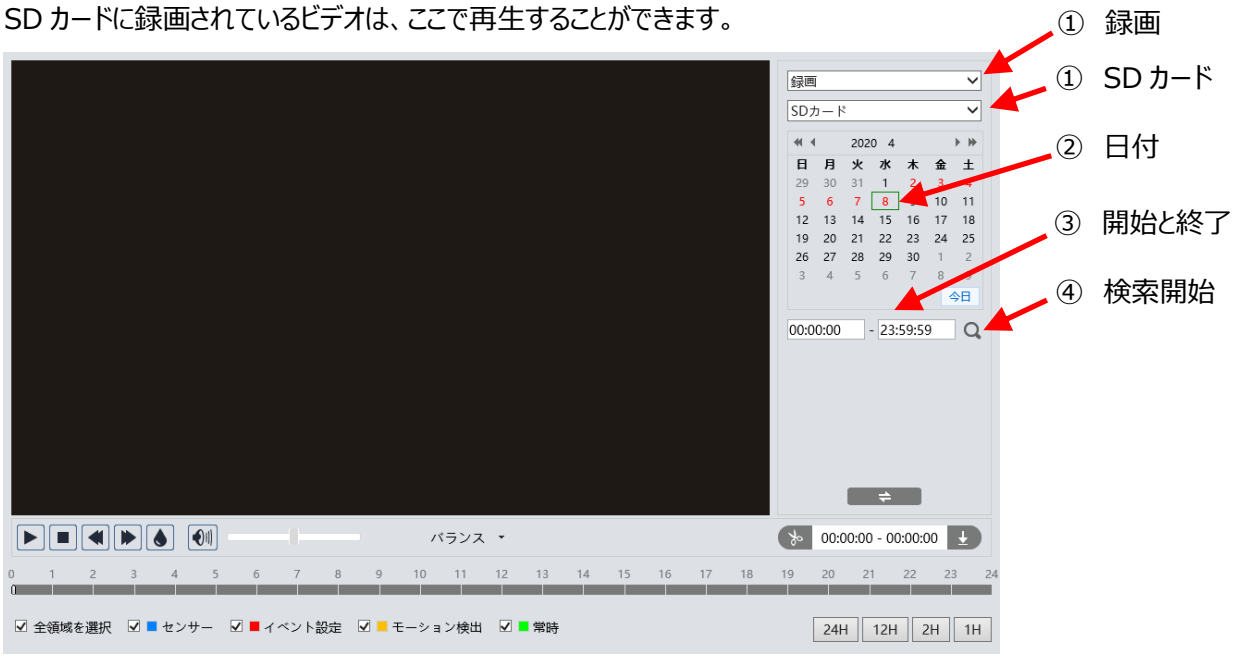
HCMS については、営業担当またはサポート窓口にお問合せください。

Windows の仕様により、Internet Explore を起動することができないことがあります。

5.1 録画検索

5.1.1 SD カード録画（動画）

SD カードに録画されているビデオは、ここで再生することができます。



録画検索画面のアイコンを説明します。

アイコン	説明	アイコン	説明
▶ ⏸	再生/一時停止ボタン	■	停止ボタン
◀◀	スピードダウン	▶▶	スピードアップ
💧	電子透かし表示	🔊	スピーカーON/OFF

検索方法

① 右上のドロップダウンメニューから、”録画”-“SD カード”を選択します。

② 検索したい日を設定します。
※録画データがある日はカレンダーの数字が赤色になっています。

③ 開始時間と終了時間を選択します。

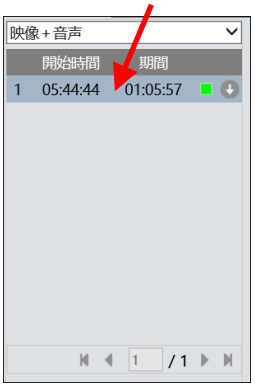
④ 🔍をクリックして、録画ファイルを検索します。

⑤ ミックスストリーム(映像＋音声)または、ビデオストリーム(映像のみ)を選択します。

⑥ 検索後に表示する録画ファイルリスト内のファイルをダブルクリックして再生を開始します。

⑦ ⇌ で、検索前と検索後の画面を移動できます。

ダブルクリックで再生開始



検索後に表示する録画ファイルリスト

⑧　タイムテーブルは 24H / 12H / 2H / 1H 形式で表示できます。
センサー(青)、イベント設定(赤)、モーション検出(橙)、常時録画(緑)で色分けされています。



ビデオクリップとダウンロード

①　タイムテーブル上をクリックして、開始時間を選択します。

②　 をクリックすると青色  に変わり、開始時間が設定されます。

③　終了時間も①②と同様に行います。

④　 をクリックして、PC にビデオファイルをダウンロードします。

⑤　ダウンロード中は、以下のような画面が表示されます。
設定（setup）：PC の保存ディレクトリを指定 / パス（path）：保存フォルダを開く
キャンセル（cancel）：ダウンロードの中止 / 開く：ビデオを再生
リストクリア（clearList）：ダウンロードリストの削除 / OFF（close）：ダウンロード画面を閉じる

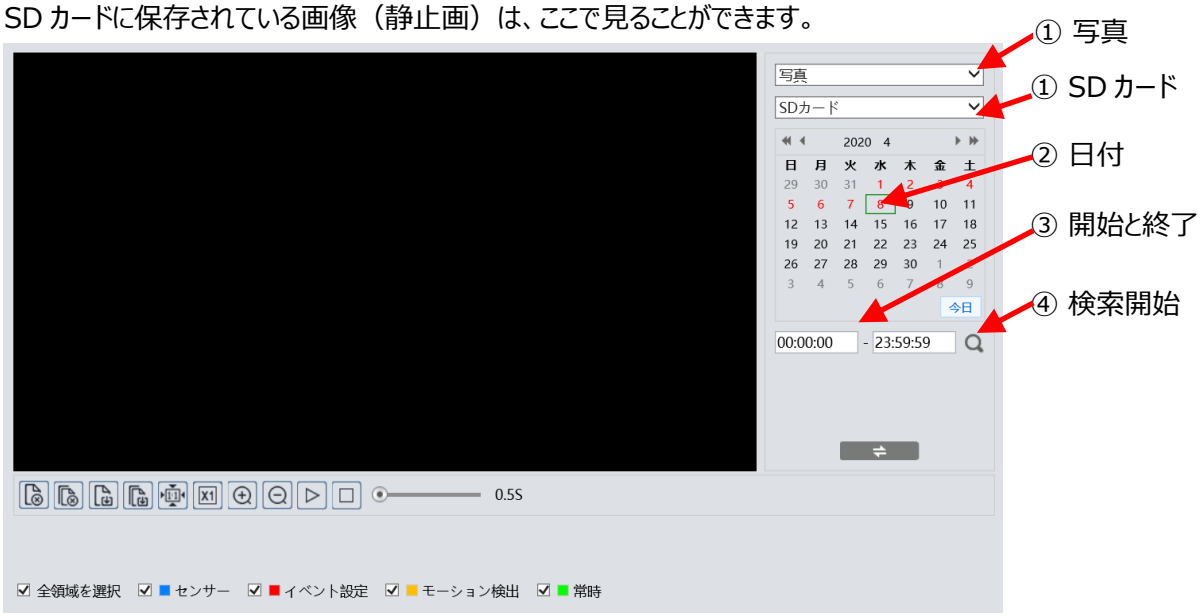


※　ファイル横の  で、イベントごとにダウンロードすることもできます。

5.2画像検索

5.2.1　SD カード画像（静止画）

SD カードに保存されている画像（静止画）は、ここで見ることができます。



画像検索画面のアイコンを説明します。

アイコン	説明	アイコン	説明
	現在の画像を閉じる		すべての画像を閉じる
	現在の画像を保存		すべての画像を保存
	画面サイズに画像を調節する		実際の画像サイズ
	ズームイン/ズームアウト		スライドショー再生/一時停止
	スライドショー停止	0.5S	スライドショーの再生速度

検索方法

① 右上のドロップダウンメニューから、”写真”-“SD カード”を選択します。

② 検索したい日を設定します。

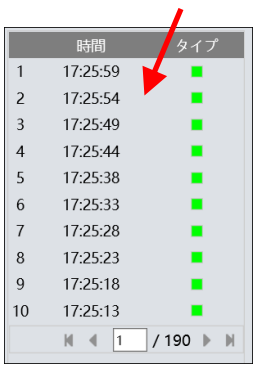
※画像データがある日はカレンダーの数字が赤色になっています。

③ 開始時間と終了時間を選択します。

④ をクリックして、画像ファイルを検索します。

⑤ 検索後に表示する画像ファイル内をダブルクリックして、保存された画像を表示します。

ダブルクリックで画像を表示

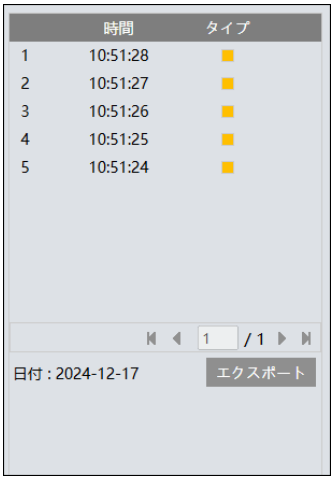


検索後に表示する画像ファイルリスト

⑥ ⇌ をクリックすると、検索前と検索後の画面を移動できます。



⑦ エクスポートをクリックすると、静止画を保存できます。



注意：SD カードのデータを検索再生するときは、Microsoft Edge（IE 互換モード）を使用する必要があります。
SD カードのデータをダウンロードするには Internet explorer または HCMS ソフトウェアをご利用ください。ただし、静止画像は HCMS からは一切扱えません。
HCMS については、営業担当またはサポート窓口にお問合せください。
Windows の仕様により、Internet Explore を起動することができないことがあります。

6. 製品仕様

●HIC-SD411X3PTZ

製品名	**HIC-SD411X3PTZ**
形状	ドーム
カメラ部	
撮像素子	1/2.7”4M CMOS SENSOR
最低被写体照度	Color：0.02Lux@F1.6 AGC：ON B/W：0.004Lux@F1.6 AGC：ON IR ON 時：0Lux
赤外線 LED	4 個 実装、照射距離＝最大 20m
S/N 比	52dB 以上（AGC OFF 時）
レンズ	3.2～7.4mm 光学 2.5 倍 AF レンズ（画角＝水平 44°～113°）
デジタル Zoom	8 倍
パン・チルト角度	パン＝0°～355°（※注１）、チルト＝15°～90°（90°で自動反転）
パン・チルト速度	パン・チルト：0.5°～80°/秒（プリセット時 80°/秒）
PTZ 機能	プリセット（最大 360 ヶ所）/ クルーズ（※注 2）
DAY&NIGHT	自動 / 昼間 / 夜 / スケジュール
露出調整	自動 / マニュアル（シャッター・ゲイン）
シャッター速度	自動、手動（60Hz:1/30～1/30,000）及びフリッカレス
ホワイトバランス	自動 / 屋内 / 屋外 / マニュアル
DNR（ノイズ除去）	OFF / ON (LEVEL0～255)
WDR 機能	120dB OFF / ON (LEVEL0～255)
逆光補正(BLC/HLC)	OFF / BLC（エリア：上 / 下 / 左 / 右 / センター）/ HLC
画質調整	明度、コントラスト、色相、彩度、シャープネス
その他の機能	IR LED 自動調光、プライバシーマスク（8 エリア）、OSD（タイトル表示 / 時刻表示）、画像左右反転 / 上下反転、SD カード録画
スマート機能	
基本	モーション検知、妨害検知 異常検出（SD カードエラー、IP アドレス競合、ネットワーク接続）
スマート検出	ラインクロス（ライン越え）、領域に入る（エリア侵入）、領域を出る（エリア退出）、エリア侵入検知（エリア内活動）
スマートトラッキング	手動トラッキング、自動トラッキング

アラーム連携	SD カード録画、SD カード静止画保存、アラーム接点出力 FTP アップロード、E メール通知、ローカル録画、ローカル静止画保存				
DORI（※注 3）		D:検出	O:観察	R:認識	I:識別
	Wide(3.2mm)	63m	25m	13m	6m
	Tele(7.4mm)	148m	59m	30m	15m
ネットワーク部					
画像圧縮方式	H.265 / H.265＋ / H.264 / H.264＋ / MJPEG（※注 4）				
音声圧縮	G.711A / μ				
インタフェース規格	ONVIF Profile S				
フレームレート	1～30fps				
ビットレート制御	CBR / VBR				
画像サイズ	第 1 ストリーム	2688x1520 / 2560×1440 / 2048x1536 1920×1080 / 1280x960 / 1280×720			
	第 2 ストリーム	1280x720 / 704×480 / 640×480 352×240			
	第 3 ストリーム	1920x1080 / 1280x960 / 1280×720 704×480 / 640×480 / 352×240			
ビットレート	2688x1520 2560×1440	8,192kbps ~ 2,048kbps :H.264 7,168kbps ~ 1,536kbps :H.265			
	2048x1536	6,144kbps ~ 1,024kbps :H.264 6,144kbps ~ 1,024kbps :H.265			
	1920×1080	6,144kbps ~ 1,024kbps :H.264 4,096kbps ~ 768kbps :H.265			
	1280x960 1280x720	4,096kbps ~ 512kbps :H.264 2,048kbps ~ 256kbps :H.265			
	704×480 640x480	2,048kbps ~ 256kbps :H.264 1,024kbps ~ 128kbps :H.265			
	352×240	1,024kbps ~ 128kbps :H.264 768kbps ~ 64kbps :H.265			
プロトコル	UDP, IPv4, IPv6, DHCP, NTP, RTSP, RTMP, RTP, RTCP, ICMP, IGMP, PPPoE, DDNS, SMTP, FTP, SNMP, HTTP, 802.1x, UPnP, HTTPs, QoS				
同時アクセス数	10				
その他機能	オンラインユーザ表示、IP アドレスフィルタ、パスワード保護、不正ログイン ロック、Microsoft Edge / Google Chrome / Mozilla Firefox 接				

	続（※注 5）、CMS / VMS 接続、モバイルアプリ接続
外部インタフェース	
SD カードスロット	Micro SD / SDHC / SDXC（最大 256GB サポート）
音声	入力：1 系統（LINE / 内蔵 MIC） 出力：1 系統（LINE）
イーサネット	RJ-45（10 / 100BASE-TX）
アラーム IN/OUT	入力：1 系統 / 出力：1 系統　※無電圧接点制御
電源入力コネクタ	DC +12V (Φ2.1mm 標準 DC ジャック)
一般	
電源	DC＋12V（±10%）/ PoE IEEE802.3af ※AC ADAPTOR 付属無し
消費電力（Typ.）	12W（赤外 LED 点灯、パンチルト動作時）
動作温度	-30～+60℃
動作湿度	0%RH ～ 90%RH（結露なきこと）
寸法	115（φ）x (H)75 mm（突起部含まず）
規格・認証	VCCI Class A、RoHS10 物質
防塵 / 防水性能	IP67
耐衝撃構造	IK10（IEC 62262 準拠）
重量（Typ.）	470g
製品保証期間	1 年間

※注 1：エンドレス回転ではありません。

※注 2：クルーズモードで常時運用されますと、部品の劣化が進み使用できる寿命が短くなる可能性があります。

※注 3：撮像素子の仕様と EN 62676-4:2015 で示された基準に基づいて算出された値です。

※注 4：H.264+/H.265+は、従来の H.264/H.265 をベースに独自に拡張した圧縮形式です。同等の画質を保ちながら、より高い圧縮率でデータ量を削減できるため、録画に必要なストレージ容量を大幅に抑えられます。

※注 5：Microsoft Edge / Google Chrome / Mozilla Firefox 接続では、Main ストリームでのライブ映像表示、SD カード録画のダウンロードはできません。Microsoft Edge の IE 互換モードでの運用を推奨します。

Microsoft Edge の IE 互換モードで SD カード録画映像のダウンロードができない場合、CMS ソフトウェア：HCMS をお使いください。HCMS については、営業担当またはサポート窓口にお問合せください。

7. 困ったときには

本製品の使用中に何らかのトラブルが発生したときの対処方法について説明いたします。

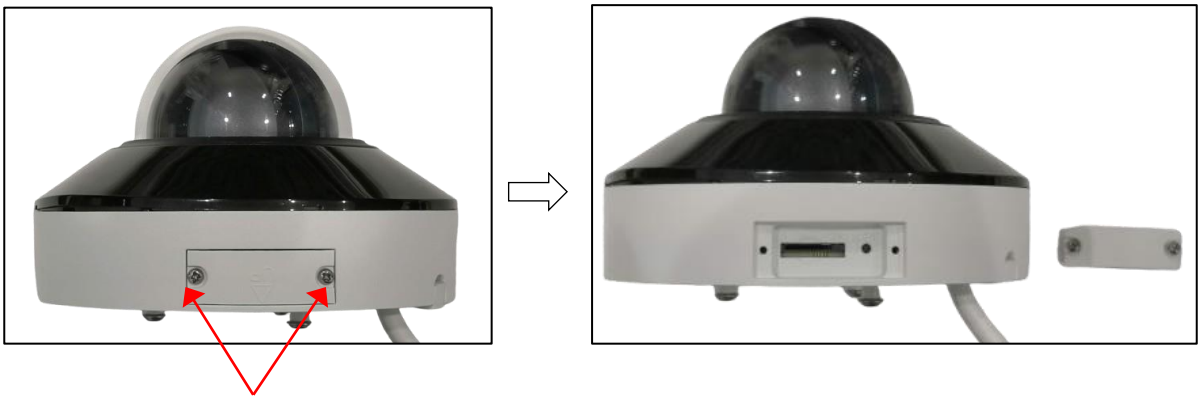
◆パスワードを忘れたときの対処方法

- リセットボタンを操作して初期化する。

※ デフォルト IP：192.168.226.201 / ユーザ名：admin / パスワード：123456

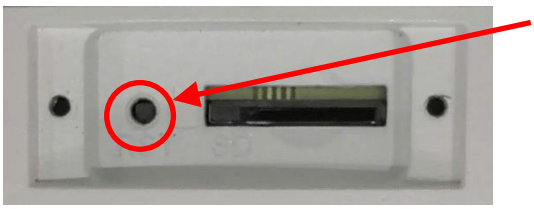
カメラのリセットボタンを押して工場出荷状態に戻す方法

① +ドライバでカバーを外す。ネジは 2 か所あります。



2 か所

② リセットスイッチを 10 秒以上長押しする。



10 秒以上長押しする。
※強く押しすぎないよう注意

③ カメラが再起動して初期値に戻ります。※再起動すると回転動作を始めます。

④ カバーを元通りに取付けます。（カバー裏の防水パッキンがめくれないように注意して取り付けます。）

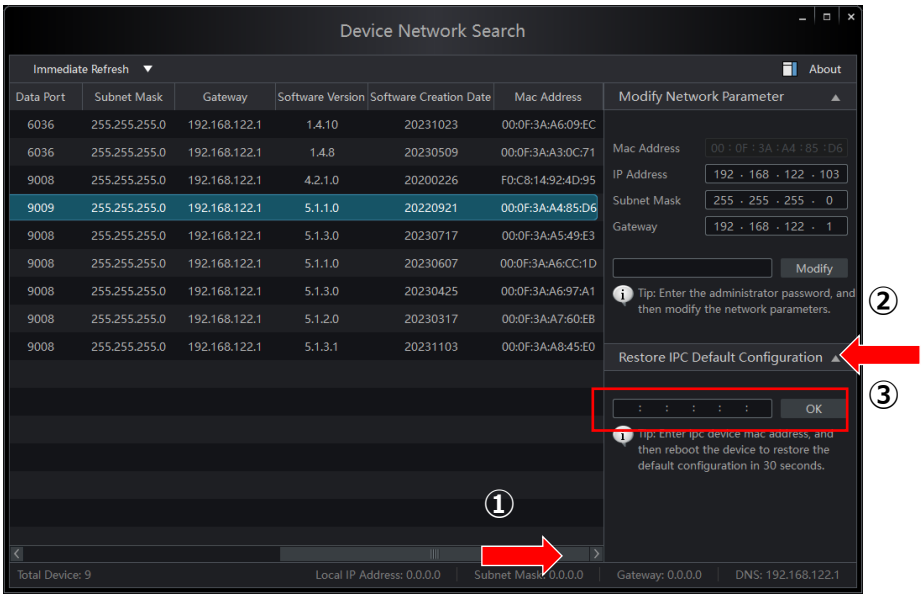
- IP Tool で初期化する。

① 下段のスクロールバーを右に操作して Mac アドレスを表示させます。

② Restore IPC Default Configuration▼をクリックして、Mac アドレス入力 BOX を表示します。

③ Mac アドレスを入力して OK をクリックします。

④ OK をクリックしたら、30 秒以内に電源を OFF→ON します。



◆本機から YouTube Live 配信設定手順

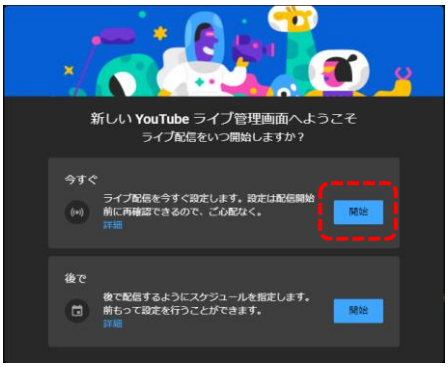
（１） YouTube を開いて Google アカウントでログインします。



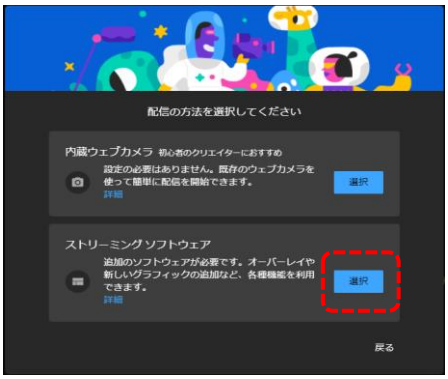
（２） ＋ 作成 をクリックして、“ライブ配信を開始”をクリックします。 ※チャンネルの確認をまだ行っていない場合は、画面の指示に沿ってチャンネルの確認を完了させます。ライブ配信が最初に有効になるまで、最大 24 時間かかるときがあります。



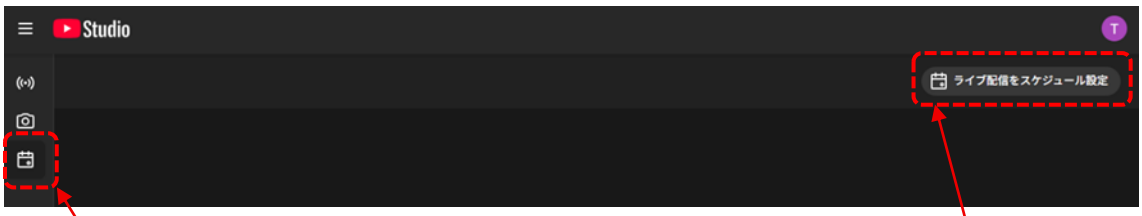
（３） 「新しい YouTube ライブ管理画面へようこそ」が表示されたら、今すぐ「開始」をクリックします。



（４） 「配信方法を選択してください」が表示されたら、「ストリーミングソフトウェア」を選択します。



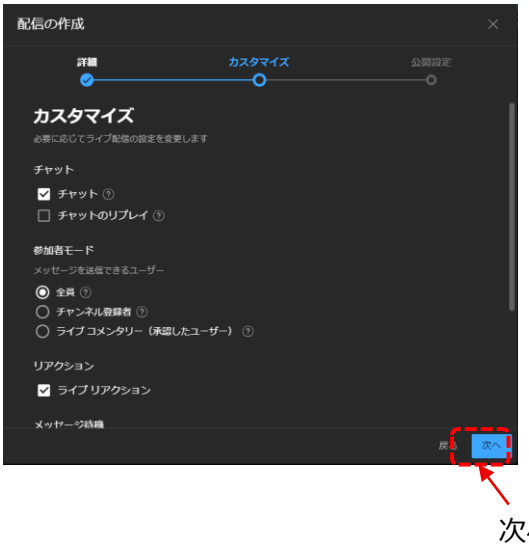
（５） YouTube Studio の画面が開くので、「管理」をクリック後、「ライブ配信をスケジュール設定」をクリックして、ライブ配信のスケジュールを設定します。新規作成をクリックします。



（６） 詳細を設定します。配信のタイトルを入力します（必須）。下にスクロールして「視聴者」を設定します。 その他の項目は必要に応じて設定し、「次へ」をクリックします。



（７） カスタマイズを設定します。設定が完了したら「次へ」をクリックします。

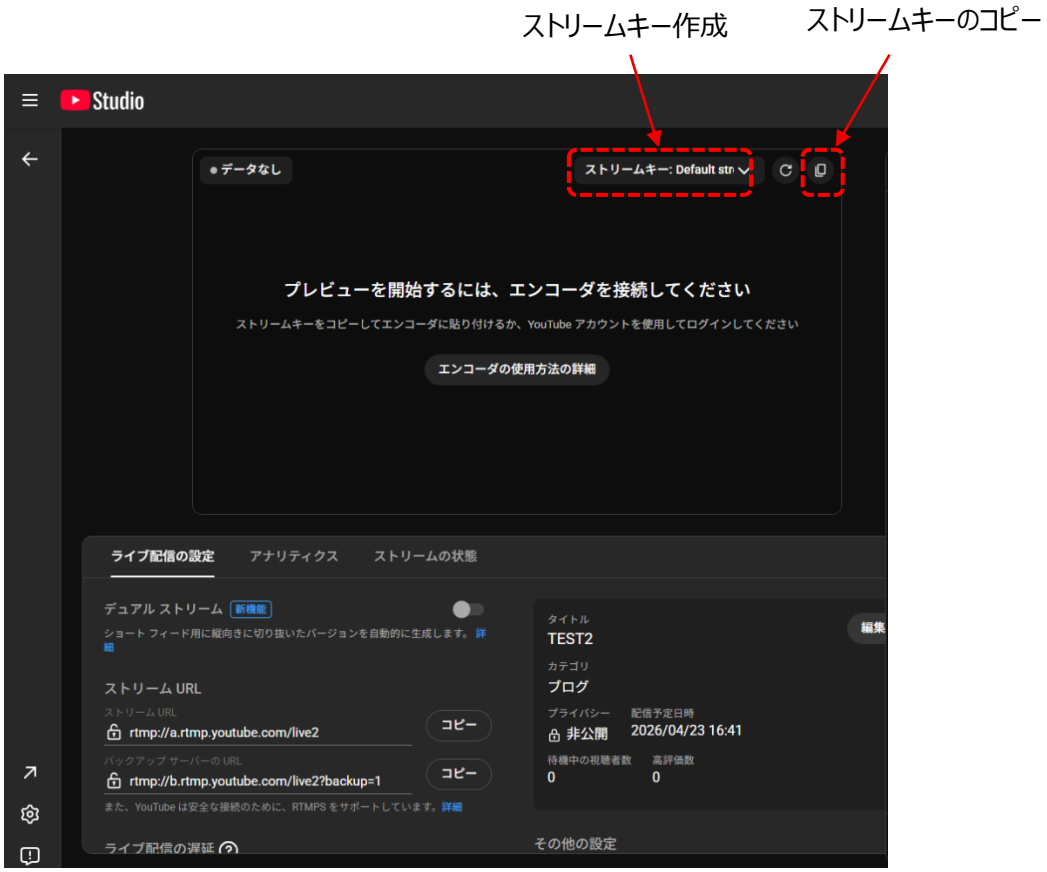


（８）　公開設定を設定します。設定が完了したら「完了」をクリックします。

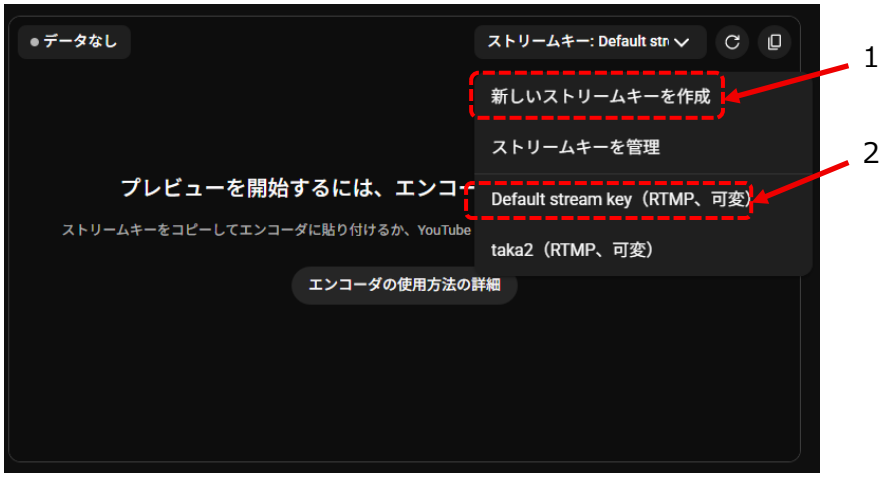


（９）　エンコーダ配信の画面で、ストリーム URL とストリームキーをコピーします。

ストリームキーはデフォルトキーを使用するか、オリジナルのキーを新規に作成することができます。
セキュリティ対策として、オリジナルキーを作成することを推奨します。



（１０）オリジナルキーを作成するときは「1」をクリックします。デフォルトキーのままで良いときは「2」をクリックします。

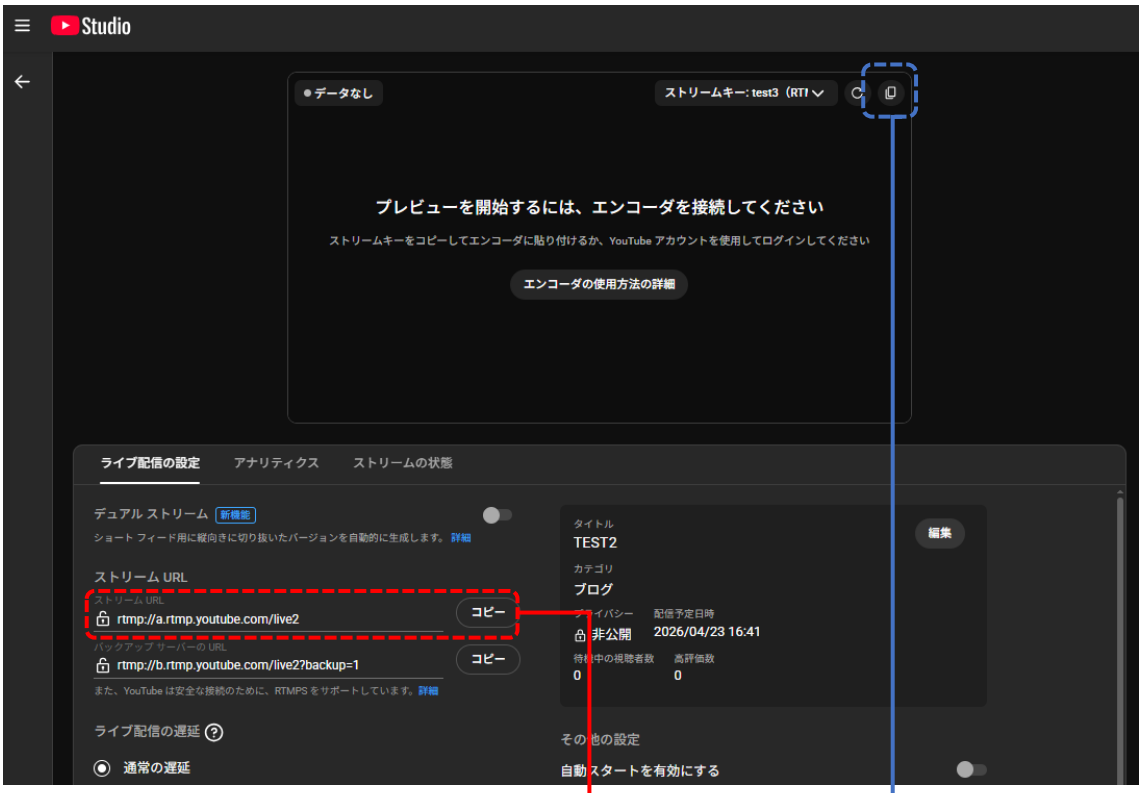


（１１） 「新しいストリームキーを作成」をクリックすると以下が表示されます。

「名前」を入力したら「作成」をクリックします。「作成」をクリックするとカスタムキーが作成されます。



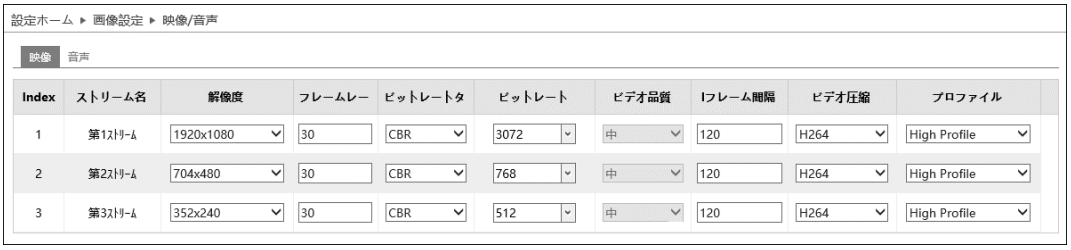
（１２） ストリームキーとストリーム URL をコピーしてメモ帳などに記録します。



rtmp://a.rtmp.youtube.com/live2/abcd-efgh-ijkl-mnop-qrst
後ほど使用しますので、ストリーム URL とストリームキーは/で区切って、
メモ帳などに記録します。

（１３）カメラに YouTube 配信に使用するストリームを設定します。

ストリーム設定は「4.2.2 **映像/音声**」で設定します。通信回線の速度に応じて、最適な設定を行います。ビデオ圧縮は必ず、「H.264」を設定する必要があります。



（１４）カメラの音声タブで音声を設定します。

YouTube Live では音声データが無いと正常に配信できませんので、必ず音声を有効に設定します。音声設定は「4.2.2 **映像/音声**」で設定します。

CASE1：音声入力がある場合（内蔵 MIC または外部マイク）

有効にチェックを入れて保存します。音声形式は G.711A を選択します。

必要に応じて MIC/LIN（外部マイク）ボリュームを調整します。

CASE2：音声入力が無い場合

有効にチェックを入れて、音声形式は G.711A を選択、MIC ボリュームを 0 に設定して保存します。この後、YouTube に接続し、もし音声にノイズが発生している場合は、有効のチェックを外して保存し、再び有効にチェックを入れて保存します。



（１５）カメラのネットワークを設定します。「4.6.9 **RTMP**」で設定します。

① 有効にチェックを入れます。

② ストリーム形式は YouTube 配信で使用するストリームを選択します。

選択するストリームが H.264 に設定されていることを確認してください。

③ サーバアドレスに YouTube Studio でメモしたストリーム URL/ストリームキーを設定します。

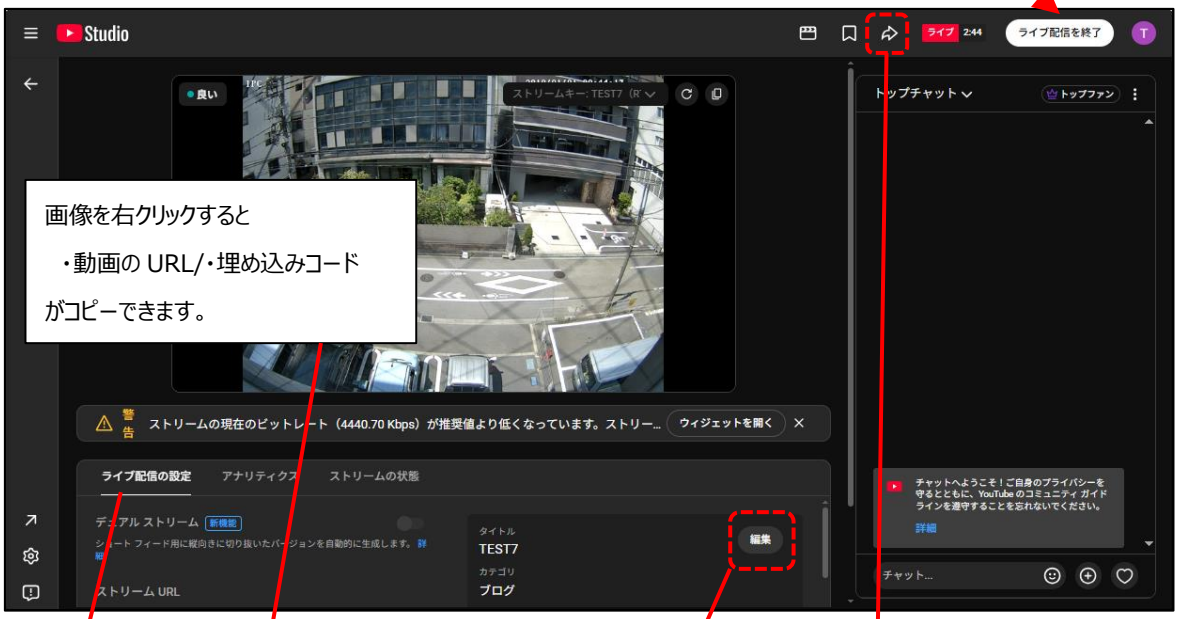
④ 保存をクリックして設定を保存します。



YouTube Studio でメモしたストリーム URL/ストリームキーを貼り付ける。
例：rtmp://a.rtmp.youtube.com/live2/abcd-efgh-ijkl-mnop-qrst

「接続完了」の表示になれば YouTube との接続は完了です。

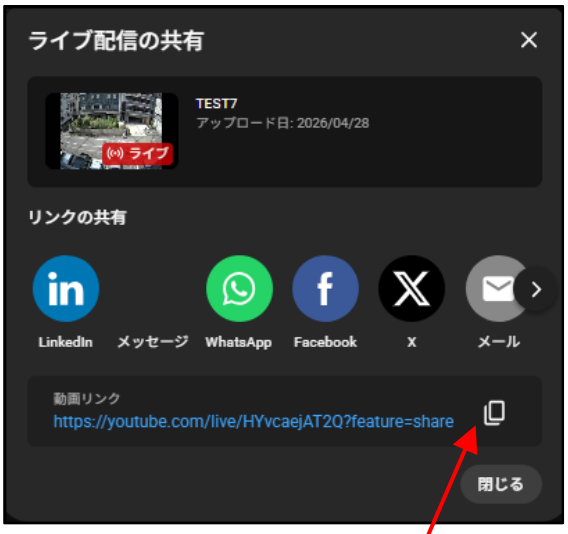
（１６）カメラからの RTMP 接続が正常に行われている場合、ライブ配信が開始され、以下のような画面となります。ライブ配信を終了したい場合は、画面右上の **“ライブ配信を終了”** ボタンをクリックします。



画像を右クリックすると
・動画の URL/・埋め込みコード
がコピーできます。



ボタンをクリックすると、動画リンクを取得出来ます。



動画リンクをコピー

ライブ配信の設定にある編集ボタンをクリックすることで、動画のタイトル、概要欄の編集、また、公開範囲の設定等が行えます。



・限定公開（リンクを知っている人だけが見れる）
・非公開
・公開（誰でも見られる）
が選択出来ます。

◆本体の電源が入らない

以下の点を確認してください。

- 電源コンセントには、電源が供給されているか。
- 電源には、適切な電圧が供給されているか。
- 正しいポートに、電圧が供給されているか。

◆RJ-45 ポートでリンクが確立しない

以下の点を確認してください。

- 接続先の機器の電源は入っているか。
- 各コネクタとケーブルが正しく接続されているか。

◆IE ブラウザ経由でデバイスを接続できない

以下の点を確認してください。

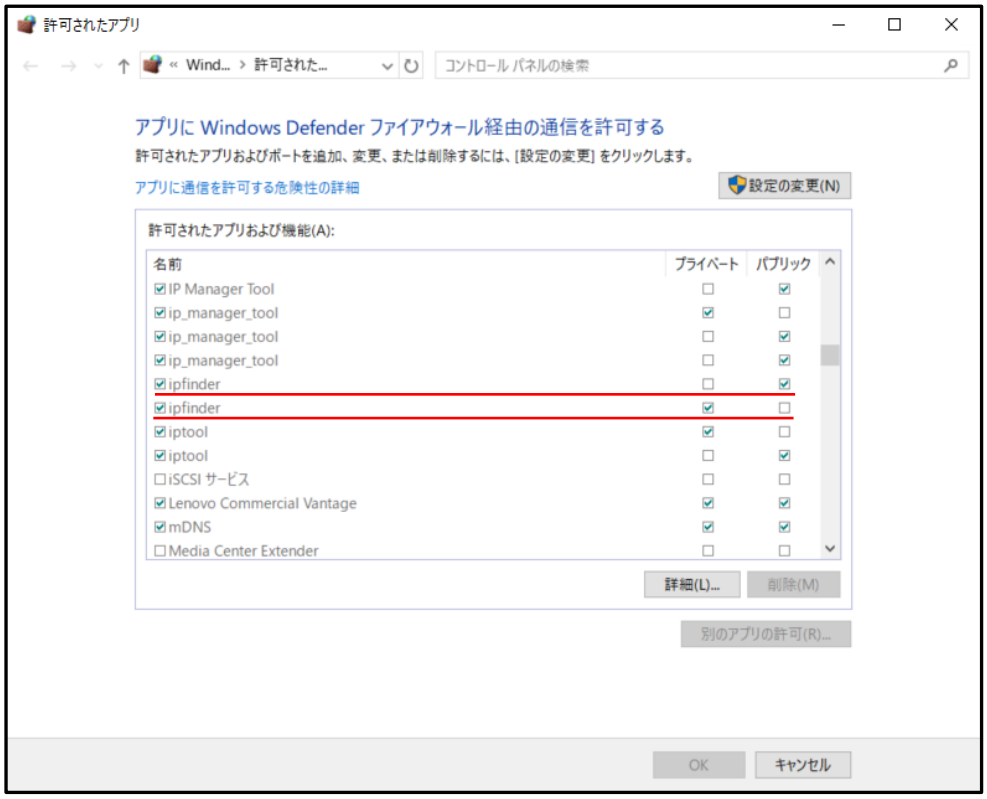
- ネットワークが正しく接続されていることを確認してください。
- IP が利用できない可能性(IP の競合など)があります。有効な IP にリセットしてください。
- Web ポート番号が改定されました。 管理者に連絡して、正しいポート番号を取得してください。

※ 上記の 3 つの理由以外の場合、IP-Tool でデフォルト設定に戻します。
デフォルト IP：192.168.226.201 / サブネットマスク：255.255.255.0

- Microsoft Edge の IE 互換モードまたは Microsoft Edge で接続してください。

◆IP-Tool でデバイスを見つけられない

- コンピュータのウイルス対策ソフトウェアが原因である可能性があります。終了して、デバイスを再度検索してください。
- スタート→設定→更新とセキュリティ→Windows セキュリティ→ファイアウォールとネットワーク保護→ファイアウォールによるアプリケーションの許可、に移動し IP-Tool がプライベート、パブリックの両方で許可されているか確認してください。
  許可されていない場合は、「設定の変更」をクリックして許可してください。



◆プラグインをインストールしたが Edge の IE 互換モードで映像を表示できない

- C++ (MSVC) ランタイム ライブラリがインストールされていない場合、プラグインが正常に動作しません。
  IP Tool をインストールすると、必要な C++ (MSVC) ランタイム ライブラリがインストールされます。

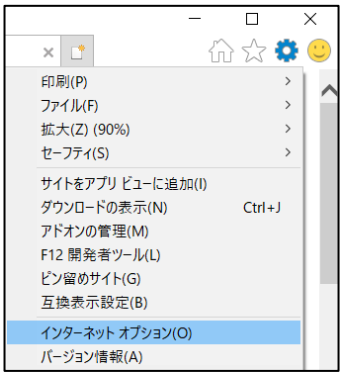
◆プラグインをアンインストールしたい

- プラグインをアンインストールしたい、或いは、一度アンインストールして再インストールしたい場合は、スタート→設定→アプリ→アプリと機能、に移動してアンインストールします。
  対象のアプリは、NetAPCamera、NetAIIPCamera、NetAIHotIPCamera、などです。

◆IE が ActiveX コントロールをダウンロードできない

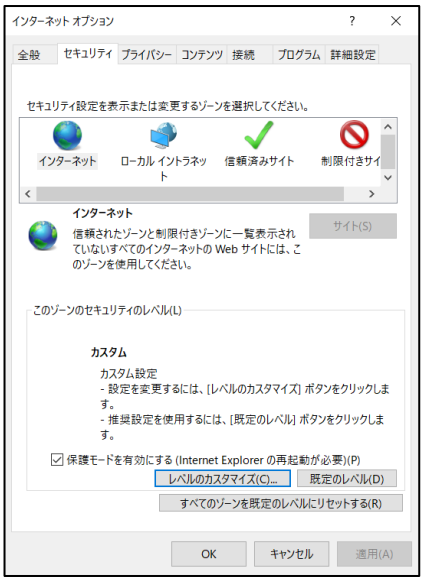
- IE ブラウザが ActiveX をブロックしている可能性があります。以下のように試してください。

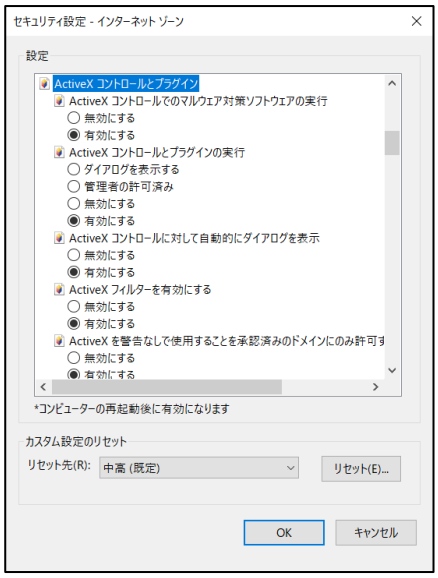
① IE ブラウザを開きます。右上のツール⚙→ インターネットオプションをクリックします。



② [セキュリティ]タブの[レベルのカスタマイズ]を選択します。(左図)

③ 「ActiveX コントロールとプラグイン」下の、すべてのサブオプションを有効にします。(右図)





④ OK をクリックして、設定を終了します。

- 他のプラグインまたは ActiveX がアンチウイルスブロックされています。アンインストールするか閉じてください。

◆音が聞こえない

- マイクなどの音声出力デバイスが正しく接続されていることを確認してください。
- 音声出力デバイスの音声出力レベルを確認してください。
- 設定メニューの、画像設定→映像/音声で音声が有効になっているか確認してください。
- 設定メニューの、画像設定→映像/音声で、LIN ボリュームを調整してください。

8. 製品保証

◆ 故障かなと思われた場合には、弊社カスタマサポートまでご連絡ください。

1) 修理を依頼される前に今一度、この取扱説明書をご確認ください。

2) 本製品の保証期間内の自然故障につきましては無償修理させて頂きます

3) 故障の内容により、修理ではなく同等品との交換にさせて頂く事があります。

4) 弊社への送料はお客様の負担とさせて頂きますのでご了承ください。

初期不良保証期間：

ご購入日より**3ヶ月間** (弊社での状態確認作業後、交換機器発送による対応)

製品保証期間：

《本体》ご購入日より**1 年間**(お預かりによる修理、または交換対応)

◆ 保証期間内であっても、以下の場合は有償修理とさせて頂きます。
(修理できない場合もあります)

1) 使用上の誤り、お客様による修理や改造による故障、損傷

2) 自然災害、公害、異常電圧その他外部に起因する故障、損傷

3) 本製品に水漏れ・結露などによる腐食が発見された場合

◆ 保証期間を過ぎますと有償修理となりますのでご注意ください。

◆ 一部の機器は、設定を本体内に記録する機能を有しております。これらの機器は修理時に設定を初期化しますので、お客様が行った設定内容は失われます。恐れ入りますが、修理をご依頼頂く前に、設定内容をお客様にてお控えください。

◆ 本製品に起因する損害や機会の損失については補償致しません。

◆ 修理期間中における代替品の貸し出しは、基本的に行っておりません。別途、有償サポート契約にて対応させて頂いております。有償サポートにつきましてはお買い上げの販売店にご相談ください。

◆ 本製品の保証は日本国内での使用においてのみ有効です。

製品に関するご質問･お問い合わせ先

ハイテクインター株式会社　カスタマサポート
受付時間：　平日（土日祝日、年末年始、当社休業日を除く）　9:00～17:00
TEL：　0570-060030
問合せフォーム：
https://hytec.co.jp/contact/technical_support_form.html

Copyright © 2025
HYTEC INTER Co., Ltd.